

About LIFESAVING

ライフセービングとは

「LIFESAVING(以下、ライフセービング)」とは、“人命救助”を表す言葉として一般的に理解されています。救急救命士の欧文表記「Emergency Lifesaving Technician」、または「Emergency Medical Technician」であるため、正確に言い表すのであれば、“救命”と訳すのがよいでしょう。

諸外国におけるライフセービングは、一次救命を本旨とした社会的活動であり、一般的には水辺の事故防止のための実践活動として認識されています。その活動にたずさわる存在は「LIFESAVER(以下、ライフセーバー)」と呼ばれ、社会的市民権を得ています。さらに、「LIFEGUARD(以下、ライフガー

ド)」はプロフェッショナルな公務員として採用され、コーストガード(海上保安庁)、警察、消防といった公的救助組織と連携を図っています。

一方、わが国におけるライフセーバーは、有資格者を指すこともあります。しかし、ライフセーバーは、ボランティア活動を基本とし、いわゆるプレホスピタルケア(病院前)の範囲において、自他の生命を尊重する社会貢献を展開するものであることから、誰でも参加できる活動です。泳力や身体的ハンディに関係なく、社会奉仕と生命尊厳の精神に基づき、その活動は否定されるものではありません。

以上のように、ライフセービング

は、「溺れた者を救う」という救助活動から、溺れない安心な環境をマネジメントすること、さらには日常生活の危機管理も含めて総合的に安全を提供できる活動として世界中で普及されています。

今日、日本では心肺停止状態の人を発見した場合、医療従事者でなくても、一般市民が自ら早期に体外式除細動器(AED)等を使用し心肺蘇生を実施して人の生命を救う、バイスタンダーという概念の普及が叫ばれるようになりました。

まさに、そのバイスタンダーになり命を救う、さらには命を危険にさらさない(事前に守る)というライフセービングに大きな期待が寄せられています。

Contents

トップメッセージ	1	ライフセービングスポーツ ..	16
日本ライフセービング協会	2	アワード2012	25
2012年度報告		年間事業報告	27
2012年度組織	5	パトロールログ&	
会員数・登録クラブ	8	レスキューレポート	39
活動海岸	10	競技会結果	49
2012トピックス	12	メディア一覧	72
JLA ACADEMY	13	パートナーシップ	74



TOP MESSAGE

トップメッセージ

3.11東日本大震災から2年が過ぎた。約34,000kmに及ぶ我が国の海岸線は、高潮や津波を想定し、コンクリート（防護壁）整備によって、人命を守るという対策が優先されてきた。それはあたかも安全であるかの如く人々をコンクリート壁の中に閉じ込め、次第に海という自然から遠ざけて行ったことに気付かされた。科学技術の英知をもってしても、自然はそれを遥かに超えるエネルギーの大きさを有していることを学んだ。本年開催したライフセービング・フォーラムで、大阪大学の青木教授の基調講演「3.11の大きな津波災害を受けて、住居の高台移転。より高い防潮堤の建設など、海岸から人や町を遠ざけるような動きも見られる。長い歴史の中で、様々な沿岸災害を経験してきた我々が、海の近くに住むことを放棄しなかった事実をみれば、今後も海と共存していく道を探る以外にないであろう。海水浴をはじめとするマリトレジャーの安全確保は難しい問題であるが、海を愛し、海を正しく畏れる文化を育むためにはきわめて重要である。大災害に遭遇した我々の世代が、この災害にどのように対応したかは、今後の世代に対してきわめて重大な責任を負うことになるであろう。海岸防災の現場において、海岸利用者を危険から回避させ、安全な場所へ誘導することができるライフセーバーは、極めて頼もしい存在となる」というメッセージは、海岸最前線に立つライフセーバーにとって身の引き締まる思いを共有した。この大震災（大津波）での現実（現場）を、自身の足で歩き、自身の目で見つめ、その時の事実の匂いを刻むライフセービング界でなければ、本当の意味での再発防止とはならない。あらためて想定外に備える知恵と実践を訓練しうる課題と可能性は山積みである。

美しい海辺を前にして、それでも有事の際の危険を想定し、自分の生命は自分で守るという自助意識を深めてこそその教育は急務である。ハード防災からソフト防災（安全教育）へ目が向けられているその一端を担える存在であるかどうか、改めてJLA組織強化を再考する今日を迎えている。

その展開として、本年度は、溺水事故防止、ライフセービング・スポーツ推進、JLA ACADEMYの3本の矢をもって、その成果を社会へ投じ、とくに次世代を担う青少年や他団体との連携のもと「ウォーターセーフティプログラム」をスタートさせ、その普及展開を図ることの地道さが問われている。それら活動が横断的に連携を図り、ライフセービングと社会のつながりを一層広げるきっかけとなることを願って止まない。そして、本レポートの一つひとつの活動報告と、その成果を社会へ公開し、更なる水辺の事故ゼロの推進へ繋げて参りたいと存じます。

結びに、全国のライフセービングクラブの献身的な組織活動に敬意を深め、現場で活躍するライフセーバーの更なる活躍を願いながら、ご支援、ご協力を賜りました全ての皆様に心より感謝申し上げます。

2013年3月31日
日本ライフセービング協会
理事長 小峯 力

Two years have passed since the Great East Japan Earthquake disaster of March 11th, 2011. In the meantime, priority has been placed on measures to protect human life by developing concrete barriers against surge tides and tsunamis along Japan's coastline, stretching for some 34,000 kilometers. What we notice here is that people are being enclosed within concrete walls that give an impression of safety, but in the process, they are becoming ever more distant from the natural environment of the ocean. And we have learnt that, for all our wisdom in science and technology, nature holds energy on a scale far in excess of that. In the Lifesaving Forum we held this year, Professor Aoki of Osaka University said in his keynote speech: "In the wake of the massive tsunami disaster of March 11, 2011, we now see various moves to distance people and towns away from the coasts, such as moving to homes on higher ground and building taller seawalls. We have experienced many coastal disasters in our long history, but have never given up on living near the sea. Bearing that in mind, we will no doubt continue our search for ways of coexisting with the oceans in future. And although ensuring the safety of bathing and other marine leisure is a difficult challenge, it is extremely important if we are to nurture a culture in which we share affection for the sea while remaining wary of its dangers. Depending on our generation's response to the major disaster we have encountered, we will surely bear a very weighty responsibility toward future generations. In actual sites of coastal disaster prevention, lifesavers can help coast users avoid hazards and guide them to safer places, and will therefore be extremely valuable." With this message, Professor Aoki shared a sobering thought for the lifesavers who stand on the front line of our nation's coasts. Without a lifesaving fraternity that goes on its own two feet and sees with its own eyes the reality and sites of this major earthquake and tsunami, then absorbs the reality of facts that occurred at the time, we cannot truly prevent a recurrence. We face a mountain of challenges and possibilities through which we can learn new wisdom and practices in readiness for unexpected events.

What we urgently need is education to enhance people's self-help awareness, so that even amid the beauty of coastal scenes, they can anticipate the dangers presented by the sea in times of emergency, and take it upon themselves to protect their own lives. We are now entering a time of re-examination, when we will consider strengthening the JLA organization, and ask ourselves whether we can contribute to this shift from tangible to intangible disaster prevention in the form of safety education.

As developments in this direction, we will need to apply painstaking efforts this year, based on the three-pronged approach of preventing drowning accidents, promoting lifesaving sports, and the JLA Academy. We will need to present the outcome of these to society, and in particular, start a "Water Safety Program" based on collaboration with other organizations and the youth who will carry the next generation, then take steps to spread and expand this. I fervently hope that these activities will provide the impetus for achieving cross-sector collaboration and further broadening the connections between lifesaving and society. I would also like to inform society of the individual activity reports contained in this Report, as well as their outcomes, and to link them to further efforts aimed at eliminating water-related accidents.

Finally, as well as expressing my deepest respect for the selfless activity of lifesaving clubs all over the country and requesting the continued involvement of lifesavers who are active in the field, I would like to offer my heartfelt thanks to everyone who has given their support and cooperation so far.

March 31st, 2013

Tsutomu Komine, President
Japan Lifesaving Association



Japan Lifesaving Association

日本ライフセービング協会

水辺の事故ゼロを目指して

1991年に日本ライフガード協会と日本サーフライフセービング協会が統一し、「日本ライフセービング協会〈初代理事長：金子邦親〉」が設立されました。2001年に、これまでの任意団体としての役割を経て、特定非営利活動法人日本ライフセービング協会〈理事長・小峯力〉(以下=JLA)」として認証を受け、水辺の事故ゼロを目指し、「人と社会に変革をもたらす」法人として、「救命」「スポーツ」「教育」「環境」「福祉」(=JLAヒューマンチェーン)といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。

国際ライフセービング連盟の日本代表機関として国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の環境保全、安全指導、監視・救助を行うライフセービングの普及および発展等に関する事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することを目的としています。

これらを具体的に推進するため、総会・理事会・専門部・専門委員会・スーパーバイザー・事務局(本部・支部)といった組織体制を整え、全国のライフセーバーの活動サポートを行っています。また、ライフセービングのさらなる社会的認知の向上を目指した「JLAミッション」を掲げ、水辺の事故ゼロを目指して全国のメンバーとともにライフセービングの普及と発展に努めています。

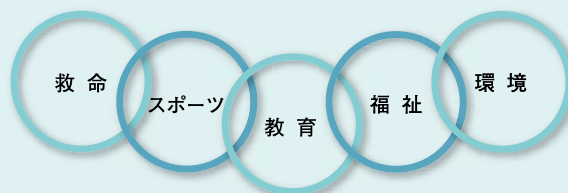
事業概要

- 1.水辺の監視・救助活動事業
- 2.ライフセービングに関する資格認定事業
- 3.青少年・児童に対する水辺の安全、教育事業
- 4.ライフセービング競技事業
- 5.ライフセービングに関する広報・啓蒙活動事業
- 6.ライフセービングにおける国際交流事業
- 7.環境保全活動事業

JLAミッション

水の事故による犠牲者をひとりでも少なくするための救助技術の向上や、ライフセービングの地域的振興、海浜などの有効利用による文化の向上と、生命尊厳を人間の中心におく教育の推進、安全思想の普及・啓発を、様々なプロジェクトを通じて実践・実現して行きます。

そしてライフセービングのさらなる社会認知に向けて、日本ライフセービング協会の組織をこれまでで



ヒューマンチェーン

救助者同士の手首を互いにつかみ(人間の鎖)、水没した溺者を捜索する方法です。

ライフセービングでは「ライフセービングそのものを学び、実践していくこと」「ライフセービングによって獲得した生命の尊厳の精神をあらゆる分野に社会貢献していくこと」の二通りがあります。いずれも人間がテーマであり、人間が人間を救う・守ることを根底に、生命のあるものが生命を救う自然の摂理を崇めるという歴史の普遍性を獲得していく活動展開を表現したものです。

Mission1: 国際連盟における日本代表機関としての信頼基盤構築(国際貢献の強化)

Mission2: 各財団、および団体とのコラボレーション拡大(各事業展開強化)

Mission3: 全国組織としての組織基盤の充実支部の設置(会員拡大強化)

Mission4: 一次救命教育団体としての社会的認知(メディカルコントロール強化)

Mission5: 資格認定団体としての認知(教育とレスキューの統合、生命教育のジュニア指導強化)

Mission6: 小学校・中学校・高等学校・大学におけるクラブ化(地域クラブにつながる投資強化)

Mission7: 「生命を救うスポーツ」普及・拡大・展開(競技会のあり方、メディアリリース強化)

Mission8: ライフセーバーからライフガード認定制度(半プロ化・年間雇用拡大の創出・強化)

Mission9: 事務局体制、および財務基盤の安定化(企業とのパイプ構築、および就労環境整備強化)

上に成熟させ時代の隆盛をベースに組織改革を断行していくことが重要であるとの考えに基づき、9つのミッションを掲げています。

2012-2013年度 活動方針

2012年度は2年に1度の組織改編により、特に「教育」「救命」「スポーツ」を支柱に、次の5つを今期ミッションとして組織強化をはかりました。

1. ライフセーバーやその指導者を養成するための資格認定事業を行うとともに、幅広い年齢層の一般の方々を対象とした水辺の安全に関する教育活動、自然災害から身を守るための教育活動を全国的に展開し、水辺の事故ゼロに貢献する。
2. 「水辺の事故ゼロ」を目指して全国各地域での水辺の監視・救助活動を実践するとともに、実践活動から得た知識を基に組織の専門

性・総合力強化を図り、また国際ライフセービング連盟の日本代表機関として、国内の活動をより発展させるだけでなく、アジア圏の溺水事故防止に貢献する。

3. 世界レベルのレスキューアスリートの育成とともに、ライフセービング・スポーツの魅力を通じてライフセーバーの技術向上や地域振興、アウトリーチ活動として競技活動の充実、積極的な地域展開と社会的認知向上を図る。
4. 一次救命を担う立場から、JLA及びライフセーバーが消防や海上保安庁等との情報共有・相互理解が深まるように、公的救助機関、行政機関との密接な連携を図る。
5. JLAが長期的、持続的な組織の発展をのぞめるような法人格を検討する。

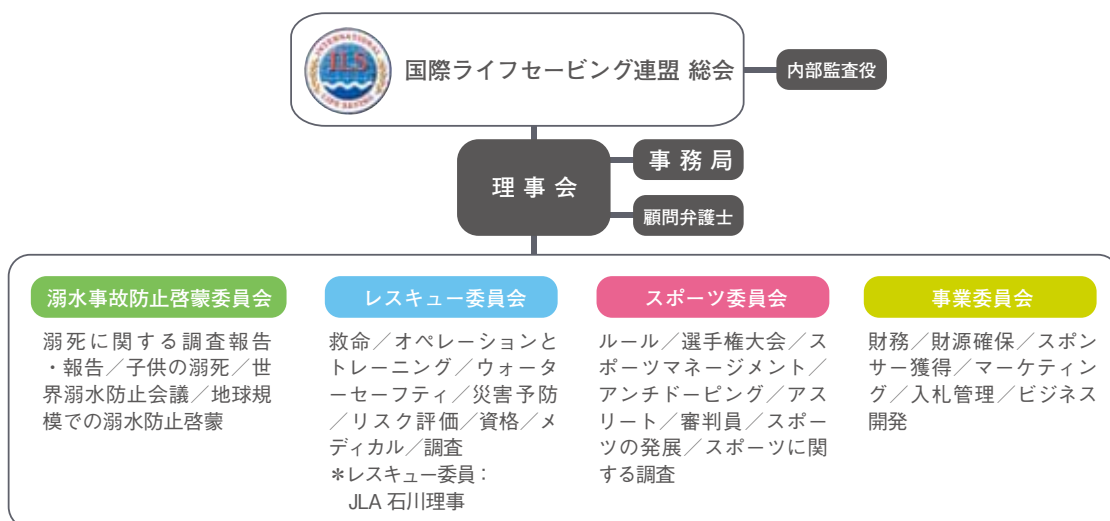
*2012年度運営組織詳細はP5

ILSとJLA

ILS (International Life Saving federation: 国際ライフセービング連盟) はヨーロッパの国々が中心となって、1878年に組織された国際連盟FIS (Federation International de Sauvetage aquatic) と、環太平洋の国々が中心となって、1971年に組織されたWLS (World Life Saving) が1993年に統一して設立されたライフセービングの唯一の国際連盟です。

加盟国は正会員・準会員・協力会員を含め90カ国以上にのぼり、2年毎に開催される総会では、40万人といわれる水辺の事故を減らすための積極的な討議が行われています。2012年11月のRescue2012オーストラリア大会では、定例総会が開催され、4年に一度の役員改選が行われました。

日本ライフセービング協会は正会員としてアジア太平洋地区に属しており、2012年3月現在、溺水事故防止教育委員会のメンバーに石川仁憲理事が就任しています。



ILS 組織図 2013年3月現在



Section 1

2012年度
報告

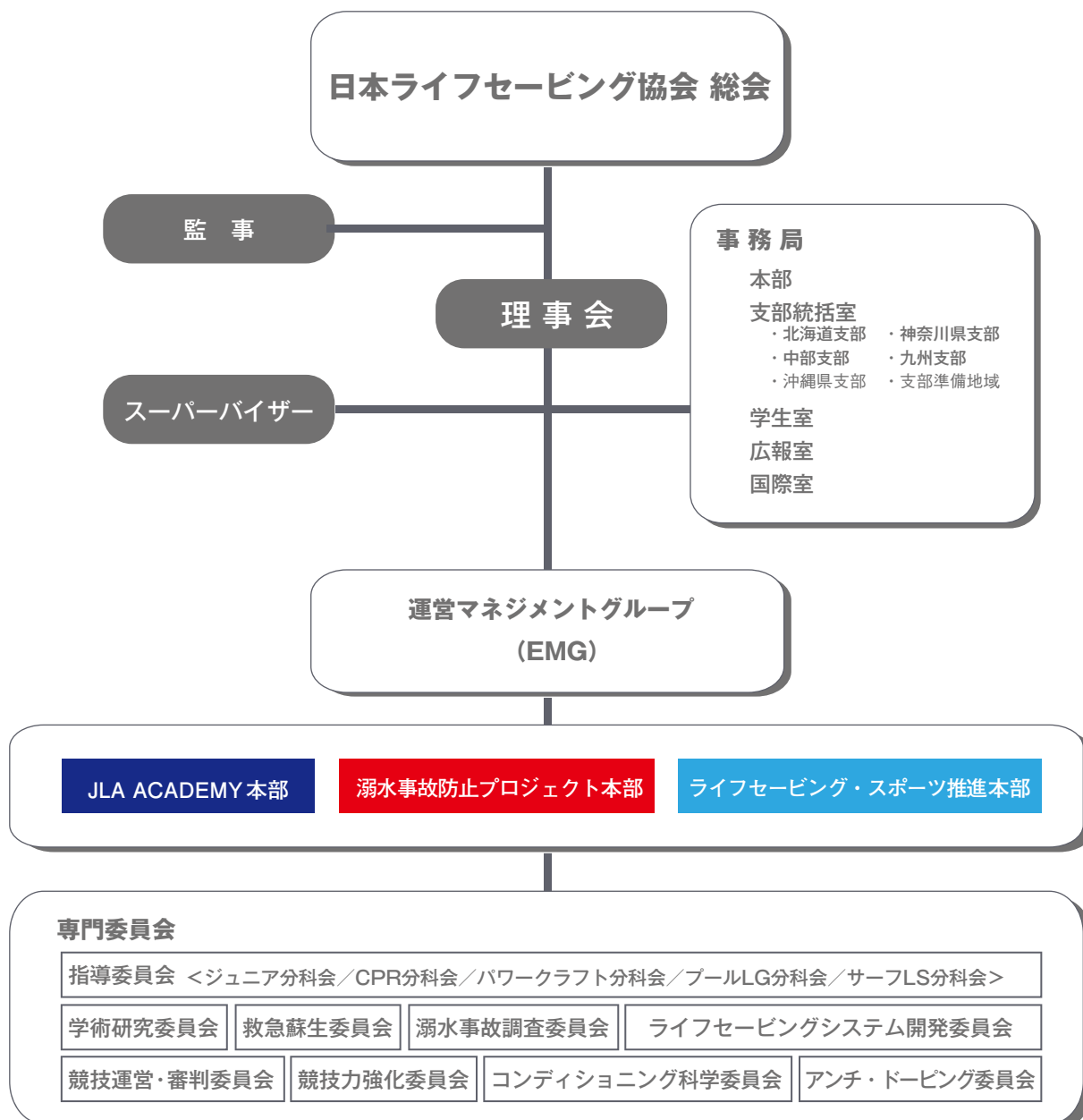
2012年度 組織概要およびメンバー

2012 Member of Organization

2012年度はあらたな組織強化を図り、「教育」「救命」「スポーツ」を支柱にJLAミッションを遂行するため、大幅な組織改編を行いました。

「教育」ではJLA ACADEMY本部、「救命」では溺水事故防止プロジェクト本部、「スポーツ」ではライフセービング・スポーツ推進本部を設置し、JLAの中心となってマネジメントできる体制を整えました。

さらに本部と支部が一体となって事務局強化を進め、会員拡充や迅速な情報伝達を目指すために、学生室、国際室、広報室を事務局内に据えました。



組織メンバー

■ 理事会

理事長

小峯 力 (大学教授)

副理事長

中川 儀英 (救急救命医)

入谷 拓哉 (専門学校講師)

理事

上野 真宏 (会社役員)

松本 貴行 (私立学校教諭)

石川 仁憲 (技術士)

広渡 英治 (団体役員)

酒匂 敏次 (大学名誉教授)

■ 監事

千葉 景子 (弁護士)

古橋 理 (税理士)

■ スーパーバイザー ◆は任期付

小峯 力

中見 隆男

足立 正俊

豊田 勝義

上野 真宏

中川 儀英 ◆

山本 利春 ◆

加藤 道夫 ◆

■ 運営マネジメントグループ (EMG)

上野 真宏

入谷 拓哉

石川 仁憲

松本 貴行

■ JLA ACADEMY 本部

松本 貴行 (部長)

丸田 重夫 (副部長)

■ 溺水事故防止プロジェクト本部

石川 仁憲 (部長)

風間 隆宏 (副部長)

■ ライフセービングスポーツ推進本部

入谷 拓哉 (部長)

泉田 昌美 (副部長)

■ 事務局

本部局員

上野 真宏 (事務局長)

中山 昭 (総務部長)

川地 政夫 (事業部長)

佐藤 洋二郎

支部統括室

上野 哲矢 (北海道支部長)

加藤 道夫 (神奈川県支部長)

諸節 智章 (中部支部長)

藤田 和人 (九州支部長)

豊見山明久 (沖縄県支部長)

学生室

丸田 重夫 (室長)

2012年度学生役員

濱田 直人 (代表)

清宮 早紀 (副代表)

峯 有里 (主務)

黒佐 金太郎 (教育部長)

國府田 俊平 (教育副部長)

西 玄汰 (競技部長)

菅根 千恵 (競技副部長)

塚原 由佳 (広報部長)

藤森 慶一郎 (広報副部長)

国際室

相澤 千春 (室長)

堤 容子

西嶋 智美

宮部 周作

広報室

高野 絵美 (室長)

2012年度 組織概要およびメンバー

■ 専門委員会

指導委員会

山本 利春(委員長)
藤井 正弘(ジュニア教育分科会)
阿部 健(CPR分科会)
上野 真宏(プールIG分科会)
佐藤洋二郎(サーフIS分科会)

救急蘇生委員会

中川 儀英(委員長)

溺水事故調査委員会

石川 仁憲(委員長)
風間 隆宏
福島 圭介

学術研究委員会

石川 仁憲(委員長)
小峯 力
中川 儀英
上野 真宏
酒匂 敏次
山本 利春
小粥 智浩
笠原 政志
砂川 憲彦

ライフセービングシステム開発委員会

風間 隆宏(委員長)
小林 俊樹
佐藤 和伯
佐藤 成晃

競技運営・審判委員会

塚本 隆之(委員長)
橘川 克巳
泉田 昌美
中島 重之
藤田 善照
池谷 薫
林 昌広
梶本 道彦
中島 典子
渡邊 彩子

競技力強化委員会

泉田 昌美(委員長)
入谷 拓哉
青木 克浩
飯沼 誠司
佐藤 文机子
池谷 雅美

コンディショニング科学委員会

小粥 智浩(委員長)
砂川 憲彦
笠原 政志
後関 慎司

アンチ・ドーピング委員会

砂川 憲彦(委員長)
小粥 智浩
笠原 政志
後関 慎司



会員数・登録クラブ

(平成25年3月現在)

Member& Club

会員数

個人	正会員	15
	一般会員	2,188
	高校生会員	115
	賛助会員	1,242

団体	正会員	47
	一般会員	79
	賛助会員	8

支部 (5支部)

- ・北海道支部
- ・神奈川県支部
(NPO法人神奈川県ライフセービング連盟)
- ・中部支部
- ・九州支部
- ・沖縄県支部

地域LSクラブ (82クラブ)

北は北海道から南は沖縄まで、各地で活動するJLA登録クラブです。

【北海道】3

- ・石狩ライフセービングクラブ
- ・小樽ライフセービングクラブ
- ・札幌ライフセービングクラブ

【青森県】1

- ・つがるライフセービングクラブ

【岩手県】2

- ・釜石ライフセービングクラブ
- ・盛岡ライフセービングクラブ

【秋田県】1

- ・秋田ライフセービングクラブ

【山形県】1

- ・山形ライフセービングクラブ

【東京都】8

- ・式根島ライフセービングクラブ
- ・神津島ライフセービングクラブ
- ・新島ライフセービングクラブ
- ・三多摩ライフセービングクラブ
- ・スポーツブレイクスライフセービングクラブ
- ・東京消防庁ライフセービングクラブ
- ・BACK WASHサーフライフセービングクラブ
- ・三宅島ライフセービングクラブ

【神奈川県】14

- ・横浜海の公園ライフセービングクラブ
- ・NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ
- ・三浦海岸サーフライフセービングクラブ
- ・NPO法人湯河原ライフセービングクラブ
- ・茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
- ・大磯ライフセービングクラブ
- ・湘南ひらつかライフセービングクラブ
- ・二宮ライフセービングクラブ
- ・辻堂ライフセービングクラブ
- ・鎌倉ライフガード
- ・サーフ90 鎌倉ライフセービングクラブ
- ・サーフ90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ
- ・葉山ライフセービングクラブ
- ・NPO法人パディ冒険団

【千葉県】10

- ・NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
- ・銚子ライフセービングクラブ
- ・白浜ライフセービングクラブ
- ・岩井ライフセービングクラブ
- ・鴨川ライフセービングクラブ
- ・和田浦ライフセービングクラブ
- ・飯岡ライフセービングクラブ
- ・勝浦ライフセービングクラブ
- ・館山サーフライフセービングクラブ
- ・御宿ライフセービングクラブ

【茨城県】4

- ・大洗サーフライフセービングクラブ
- ・大竹サーフライフセービングクラブ
- ・NPO法人鹿嶋ライフガードチーム

- ・波崎サーフライフセービングクラブ

【新潟県】2

- ・柏崎ライフセービングクラブ
- ・新潟青山ライフセービングクラブ

【福井県】1

- ・若狭和田ライフセービングクラブ

【愛知県】1

- ・愛知ライフセービングクラブ

【静岡県】11

- ・今井浜サーフライフセービングクラブ
- ・NPO法人下田ライフセービングクラブ
- ・熱川ライフセービングクラブ
- ・沼津ライフセービングクラブ
- ・西伊豆ライフセービングクラブ
- ・用宗ライフセービングクラブ
- ・榛原ライフセービングクラブ
- ・土肥ライフセービングクラブ
- ・御浜ライフセービングクラブ
- ・相良サーフライフセービングクラブ
- ・NPO法人浜松ライフセービングクラブ

【大阪府】2

- ・NPO法人大阪ライフセービングクラブ
- ・せんなん里海公園・淡輪ライフセービングクラブ

【兵庫県】1

- ・NPO法人神戸ライフセービングクラブ

【京都府】1

- ・NPO法人京都ライフセービング

【広島県】2

- ・NPO法人広島ライフセービング
- ・安芸ライフセービングクラブ

【鳥取県】2

- ・NPO法人皆生ライフセービングクラブ
- ・若美ライフセービングクラブ

【島根県】2

- ・キラライフセービングクラブ
- ・浜田ライフセービングクラブ

【岡山県】1

- ・岡山ライフセービングクラブ

【山口県】2

- ・山口ライフセービングクラブ
- ・NPO法人コバルトブルー下関ライフセービングクラブ

【福岡県】3

- ・宗像ライフセービングクラブ
- ・福岡ライフセービングクラブ
- ・新宮ライフセービングクラブ

【大分県】1

- ・大分ライフセービングクラブ

【宮崎県】1

- ・NPO法人宮崎ライフセービングクラブ

【鹿児島県】2

- ・かごしま磯ライフセービングクラブ
- ・奄美ライフセービングクラブ

【沖縄県】3

- ・万座ライフガードチーム
- ・北谷公園サンセットビーチライフセービングクラブ
- ・今帰仁ライフセービングクラブ

学校LSクラブ (44クラブ)

大学を中心に高校から専門学校まで、JLAに登録している教育機関主体のクラブです。

【東京都】22

- ・日本女子体育大学ライフセービングクラブ
- ・拓殖大学ライフセービングクラブ
- ・専修大学サーフライフセービング愛好会
- ・日本体育大学ライフセービングクラブ
- ・東京女子体育大学ライフセービングクラブ
- ・国士舘大学ライフセービングクラブ
- ・早稲田大学ライフセービングクラブ
- ・杏林大学ライフセービングクラブ
- ・中央大学ライフセービングクラブ
- ・成蹊大学ライフセービングクラブ
- ・法政大学サーフライフセービングクラブ
- ・実践女子大学ライフセービングクラブ
- ・日本大学ライフセービングクラブ
- ・日本大学サーフライフセービングクラブ
- ・國學院大学ライフセービングクラブ
- ・玉川大学ライフセービングクラブ
- ・明治大学サーフライフセービングクラブ
- ・青山学院大学ライフセービングクラブ
- ・成城学園ライフセービングクラブ
- ・十文字高等学校ライフセービングクラブ
- ・昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ
- ・帝京大学ライフセービングクラブ

【神奈川県】3

- ・東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
- ・神奈川大学ライフセービングクラブ
- ・文教大学ライフセービングクラブ

【埼玉県】1

- ・武蔵丘短期大学ライフセービングクラブ

【千葉県】2

- ・国際武道大学ライフセービングクラブ
- ・順天堂大学ライフセービングクラブ

【茨城県】3

- ・筑波大学ライフセービングクラブ
- ・流通経済大学ライフセービングクラブ
- ・茨城大学サーフライフセービングクラブ

【新潟県】2

- ・新潟産業大学ライフセービングクラブ
- ・新潟工科大学ライフセービングクラブ

【福井県】1

- ・福井県立大学ライフセービングクラブ

【愛知県】2

- ・中京大学ライフセービングクラブ
- ・日本福祉大学ライフセービングクラブ

【静岡県】1

- ・東海大学海洋学部ライフセービングクラブ

【大阪府】1

- ・大阪体育大学ライフセービングクラブ

【京都府】1

- ・立命館大学ライフセービングクラブ

【広島県】2

- ・海上保安大学校ライフセービングクラブ
- ・広島国際大学ライフセービングクラブ

【鳥取県】1

- ・鳥取大学発ライフセービングクラブ

【福岡県】1

- ・九州産業大学ライフセービングクラブ

【沖縄県】1

- ・琉球大学ライフセービングクラブ

会員種別詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.jla.gr.jp/home.htm>

JLA total

3560 | **126**
members | clubs

(平成25年3月現在)

個人 | 正会員 15
一般会員 2,188
高校生会員 115
賛助会員 1,242

団体 | 正会員 47
一般会員 79
賛助会員 0

北海道 Hokkaido

北海道

43 | **3**
members | clubs

北海道支部

中部 Chubu

新潟県・富山県・石川県
福井県・山梨県・長野県
岐阜県・静岡県・愛知県

402 | **21**
members | clubs

中部支部

東北 Tohoku

青森県・秋田県・岩手県
山形県・宮城県・福島県

106 | **5**
members | clubs

近畿 Kinki

三重県・滋賀県・京都府
大阪府・兵庫県・奈良県
和歌山県

338 | **6**
members | clubs

中国 Chugoku

鳥取県・島根県・広島県
岡山県・山口県

168 | **12**
members | clubs

関東 Kanto

群馬県・栃木県・茨城県・千葉県
埼玉県・東京都・神奈川県

2300 | **67**
members | clubs

東京本部

神奈川支部

四国 Shikoku

香川県・徳島県・愛媛県・高知県

22 | **0**
members | clubs

沖縄支部

九州支部

九州 Kyushu

福岡県・佐賀県・大分県・長崎県
熊本県・宮崎県・鹿児島県

115 | **8**
members | clubs

沖縄 Okinawa

沖縄県

66 | **4**
members | clubs

男女比



年齢比



活動の海岸

[山口県]

岩国市	潮風公園 みなとオアシスゆう
萩市	菊ヶ浜海水浴場
光市	虹ヶ浜海水浴場
下関市	コバルトブルービーチ

[鳥取県]

米子市	皆生温泉海水浴場
岩美郡	浦富海水浴場
鳥取市	賀露みなと海水浴場

[島根県]

出雲市	キララビーチ
浜田市	石見海浜公園
江津市	波子海水浴場

[福岡県]

宗像市	江口浜海水浴場
糟屋郡	新宮海岸

[大分県]

大分市	田ノ浦ビーチ
-----	--------

[宮崎県]

宮崎市	青島海水浴場 サンビーチツ葉海水浴場
-----	-----------------------

[鹿児島県]

奄美市	土盛海岸 用安海岸
-----	--------------

[沖縄県]

国頭郡	万座ビーチ 今帰仁村民の浜ビーチ
中頭郡	北谷公園サンセットビーチ
島尻郡	古座間味ビーチ 阿真ビーチ 北浜ビーチ

[京都府]

宮津市	天橋立海水浴場
-----	---------

[大阪府]

泉南郡	淡輪海水浴場
-----	--------

[兵庫県]

神戸市	須磨海水浴場 アジュール舞子海水浴場
-----	-----------------------

[和歌山県]

和歌山市	片男波海水浴場
西牟婁郡	白良浜海水浴場

[岡山県]

玉野市	渋川海水浴場
-----	--------

[広島県]

呉市	県民の浜海水浴場 狩留賀海浜公園海水浴場
安芸郡	ベイサイドビーチ坂

[愛知県]

知多郡	内海海水浴場
知多市	新舞子ブルーサンビーチ
田原市	太平洋ロングビーチ 仁崎海水浴場 白谷海水浴場 伊良湖海水浴場
常滑市	りんくうビーチ

[三重県]

志摩市	阿児の松原海水浴場
-----	-----------

[新潟県]

柏崎市	石地海水浴場 椎谷海水浴場 米山海水浴場 笠島海水浴場 薬師堂海水浴場 鯨波海水浴場 東の輪海水浴場 番神海水浴場 中央海水浴場
新潟市	青山海岸海水浴場

[福井県]

小浜市	人魚浜海水浴場 鯉川海水浴場
大飯郡	若狭和田海水浴場

[静岡県]

賀茂郡	熱川温泉YOU湯海水浴場 今井浜海水浴場 河津浜海水浴場 弓ヶ浜海水浴場 大浜海水浴場 乗浜海水浴場 深田海水浴場 黄金崎海水浴場
下田市	白浜中央海水浴場 白浜大浜海水浴場 外浦海水浴場 多々戸浜海水浴場 入田浜海水浴場 舞磯浜海水浴場 吉佐美大浜海水浴場
伊豆市	土肥海水浴場 小土肥海水浴場
沼津市	御浜海水浴場 島郷海水浴場 大瀬崎海水浴場 らららサンビーチ海水浴場
静岡市	用宗海岸海水浴場 三保真崎海水浴場
牧之原市	静波海水浴場 相良サンビーチ

[北海道]

小樽市 おたるドリームビーチ
サンセットビーチ銭函

石狩市 あそびーち石狩
浜益川下海水浴場

[青森県]

つがる市 マグアビーチ

[秋田県]

秋田市 浜田浜海水浴場

[岩手県]

大船渡市 吉浜海水浴場

釜石市 根浜海水浴場

[神奈川県]

横浜市 横浜海の公園

三浦市 三浦海岸海水浴場

三浦郡 一色海水浴場
森戸海水浴場
大浜長者ヶ崎海水浴場

逗子市 逗子海水浴場

鎌倉市 由比ヶ浜海水浴場
材木座海水浴場
腰越海水浴場
七里ガ浜海岸

藤沢市 片瀬西浜海水浴場
片瀬東浜海水浴場
鵜沼海水浴場
江の島岩屋海水浴場
辻堂海水浴場

茅ヶ崎市 サザンビーチちがさき
茅ヶ崎東海岸ヘッドランド

平塚市 湘南ひらつかビーチパーク

大磯町 大磯海水浴場

湯河原町 吉浜海水浴場

小田原市 小田原御幸ヶ浜

[千葉県]

富津市 富津海水浴場
大貫中央海水浴場
津浜海水浴場
上総湊海水浴場
新舞子海水浴場

館山市 船形海水浴場
北条海水浴場
新井海水浴場
沖ノ島海水浴場
坂田海水浴場
相浜海水浴場
波左間海水浴場
那古海水浴場

[茨城県]

東茨城郡 大洗サンビーチ

鉾田市 大竹海岸鉾田海水浴場

鹿嶋市 下津海水浴場
平井海水浴場

神栖市 波崎海水浴場
日川浜海水浴場

高萩市 高萩海水浴場

[東京都]

新島村 前浜第一海水浴場
前浜第二海水浴場
前浜第三海水浴場
前浜第四海水浴場
羽伏浦海水浴場
間々下海水浴場
渡浮根海水浴場
若郷前浜海水浴場

式根島 泊港海水浴場
大浦海水浴場
中の浦海水浴場
石白川海水浴場

神津島村 前浜海水浴場
長浜海水浴場
沢尻海水浴場
多幸湾海水浴場
赤崎海水浴場

三宅島村 大久保浜海水浴場
錆が浜海水浴場
長太郎池海水浴場

銚子市 海鹿島海水浴場
銚子マリーナ
長崎海水浴場

旭市 飯岡海水浴場
矢指ヶ浦海水浴場

山武郡 堀川浜海水浴場
木戸浜海水浴場
屋形海水浴場
殿下海水浴場
中下海水浴場
南浜海水浴場
小松海水浴場
白幡・井之内海水浴場
本須賀海水浴場
粟生海水浴場
片貝海水浴場
不動堂海水浴場
真亀海水浴場
作田海水浴場

夷隅郡 岩和田海水浴場
御宿中央海水浴場
浜海水浴場

勝浦市 勝浦中央海水浴場
豊浜海水浴場
串浜海水浴場
鵜原海水浴場
守谷海水浴場
興津海水浴場

鴨川市 前原海水浴場
太海海水浴場
江見海水浴場
内浦第一海水浴場
内浦第二海水浴場
城崎海水浴場

南房総市 和田浦海水浴場
根本海水浴場
名倉海水浴場
塩浦海水浴場
豊岡海水浴場
原岡海水浴場
多田良北浜海水浴場
岩井海水浴場

安房郡 勝山海水浴場
大六海水浴場
鱈ヶ浦海水浴場
保田中央海水浴場
元名海水浴場

パトロールログ & レスキューレポート2012トピックス

Patrol & Rescue Report 2012 Topics

JLA に登録がある全国の監視活動エリアから提出いただいた報告書より、集計可能なデータ 124 カ所を対象に集計した結果です。

【ログの改訂】

2012 年度からは客観的データを取得し、溺水事故防止や現場の活動環境改善へつながるようなデータ分析できるよう、パトロールログの改訂を行いました。特にレスキュー件数は、前年度まで「1. 重溺者（意識なし）／意識不明の溺者」「2. 軽溺者（意識あり）／意識はあるが自力で浮くことが困難な溺者」「3. 安全移送者／自力でうくことはできるが、自ら安全な位置や浜に移動することが出来ない者」の3種でカウントしていましたが、「2.」「3.」についてはライフセーバーによって判断が異なるため、2012 年度より、「1. Emergency Care / 意識なしの重溺」「2. Preventive Action / 意識ありの溺者」の2種に限定し、意識の有無でカウントすることにしました。

2012

延べパトロール
ライフセーバー **22,165**人

延べパトロール
活動日数 **4,824**日

総レスキュー数 **1,985**件

<内訳> Emergency Care **12**件

意識なしの重溺者

Preventive Action **1,973**件

意識のある溺者
(自力行動ができるまでのフォローや救助器材での移送など)

ファーストエイド **12,406**件

迷子 **635**件

JLA ACADEMY

■資格認定講習会 開催実績

資格認定講習会を開催し資格の認定を行いました。(前年比 講習開催数 68%増、資格発行数 90%増)

資格名	講習開催数 (2012年度)	資格発行数 (2012年度)	講習開催数 (2011年度)	資格発行数 (2011年度)
ウォーターセーフティー	53	1291	*	*
CPR	135	2180	65	1236
ベーシック・サーフ・ライフセーバー	48	717	43	644
アドバンス・サーフ・ライフセーバー	14	113	13	114
ライフセーバー資格更新	61	607	47	456
CPR更新	4	85	16	163
IRBドライバー	0	0	2	2
IRBクルー	2	12	2	15
合計	317	5005	188	2630

■指導員養成講習会の開催

下記の通り指導員養成講習会を開催し、以下の指導員を輩出しました。

- ◆CPR アシスタント・インストラクター/ウォーター・セーフティー アシスタント・インストラクター 19名
- ◆サーフ・ライフセービング アシスタント・インストラクター 14名

◇事前説明会

日程	参加数	会場
12月8日(土)	12	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
12月9日(日)	4	国立オリンピック記念青少年総合センター
12月21日(金)	9	国立オリンピック記念青少年総合センター
2月22日(金)	3	BumB東京スポーツ文化館
2月23日(土)	3	かながわ女性センター

◇CPR事前研修会

日程	参加数	会場
12月23日(日)	12	千代田区立九段中等教育学校
12月25日(火)	8	国立オリンピック記念青少年総合センター
3月8日(金)	7	国立オリンピック記念青少年総合センター

◇CPR本講習会

日程	参加数	会場
1月12日(土)～ 15日(火)	15	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
3月20日(水祝)、 23日(土)、24日(日)	11	成城学園

◇Water Safety事前研修会

日程	参加数	会場
2月2日(土)	5	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
2月3日(日)	4	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
3月30日(土)	3	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス

◇Water Safety本講習

日程	参加数	会場
2月9日(土)～ 10日(日)	5	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
2月11日(月祝) ～12日(火)	7	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
4月6日(土)～ 7日(日)	5	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス

◇CPR、Water Safety指導員養成事後研修

日程	参加数	会場
2月23日(土)	15	国立オリンピック記念青少年総合センター
4月13日(土)	4	神明いきいきプラザ

◇サーフ指導員養成事前研修

日程	参加数	会場
3月9日(土)	5	勝浦海岸
3月10日(日)	5	勝浦海岸

◇サーフ指導員養成本講習

日程	参加数	会場
3月16日(土)～ 17日(日)	17	勝浦海岸

◇サーフ指導員養成事後研修

日程	参加数	会場
3月23日(土)	14	国立オリンピック記念青少年総合センター

■指導員研修会の開催

指導員研修会を開催し資格の更新を行いました。

開催日	参加数	会場
2月16日(土)	24	東京メディカルスポーツ専門学校
2月24日(日)	23	成城学園
2月27日(水)	5	北海道支部
3月2日(土)	3	九州支部
3月15日(金)	7	沖縄県支部
3月20日(水)	37	東京メディカルスポーツ専門学校
3月23日(土)	17	大阪ハイテクノロジー専門学校
3月24日(日)	36	成城学園
3月29日(金)	19	成城学園
合計	171	

TOPICS 1

文部科学大臣への共同提言

学校での心肺蘇生教育の普及に向けて提言

一般社団法人日本臨床救急医学会では、近年の救急医療の現状をふまえ、救命率向上のために、学校での心肺蘇生教育が不可欠であることから、その必要性を文部科学大臣へ提言いたしました。

日本ライフセービング協会は心肺蘇生の資格認定講習会などを通じて、BLS（一次救命処置）の一般普及に関わる団体として、共同提案団体に加わっています。

提言の目標

全ての子供たちが**実技を伴う**心肺蘇生の教育を受ける事ができる環境を整えること。

提言内容抜粋

1. 中学校、高等学校において、学習指導要領に準じて学校内で実技を伴う心肺蘇生の授業実施を推進できるように促すこと。
2. 小学校については、学習指導要領に「けがの手当」が示されている体育に加えて、特別学習等において心肺蘇生・AEDの実技を盛り込むことができるかを検討すること。
3. すでに小学生に対する心肺蘇生教育を導入している一部の地域・学校においては、その効果を評価すること。
4. 大学の教職課程においては心肺蘇生指導プログラムの必修化をはかり心肺蘇生を指導できる教員を養成すること。
5. 突然の心停止、災害に対する学校の安全を確保するため、AEDの設置に加え、全教職員の心肺蘇生講習受講を必修化すること。
6. 現職の教員を対象とした再研修において心肺蘇生法の指導法を検討すること。
7. 心肺蘇生の授業実施に必要な予算の措置を検討すること。

学校への心肺蘇生教育導入によって期待される効果

1. 命を助ける行動を学ぶことを通じて、互助の精神、命を大事にする心、人を思いやる心を育むことができる。
2. 学校の安全管理につながり、子供の命を守ることができる。
3. 将来の日本を背負って立つ人材のすべてがAEDを含む心肺蘇生、応急手当を行うことができるようになり、心肺死例の救命率向上、災害時の地域の救急対応能力の向上につながる。

提言の共同提案団体

日本臨床救急医学会
日本救急医学会
日本救急看護学会
日本救急医療財団
救急医療総合研究機構
日本赤十字社
日本小児科学会
日本小児救急医学会
日本心臓財団
日本ライフセービング協会
日本医師会

(順不同)

平成24年4月10日

ライフセービング・スポーツ

Lifesaving Sports

■ 2012年 公式競技会

大会名	開催日	会場	参加数
第25回全日本プール競技選手権大会	5月19日(土)～20日(日)	横浜国際プール(神奈川県)	45チーム548名
第4回U15/U18競技選手権大会大会	6月3日(日)	片瀬東浜海岸(神奈川県)	20チーム206名
第25回全日本種目別選手権大会	6月9日(土)～10日(日)	柏崎中央海岸(新潟県)	52チーム538名
第13回オーシャンサーフチャレンジin白浜	6月17日(日)	白良浜海水浴場(和歌山県)	11チーム105名
第9回ジュニア選手権with JLA classic	9月2日(日)	腰越海岸(神奈川県)	Jr:28チーム197名 Cl:8チーム41名
全日本・東日本地区予選会	9月8日(土)～9日(日)	御宿海岸(千葉県)	39チーム861名
全日本・西日本/中部地区予選会	9月15日(土)～16日(日)	内海海岸(愛知県)	19チーム332名
三洋物産カップ2012	9月16日(日)～17日(月)	内海海岸(愛知県)	5カ国6チーム72名
第27回全日本学生選手権大会	9月22日(土)～23日(日)	御宿海岸(千葉県)	39チーム597名
第38回全日本選手権大会	10月6日(土)～7日(日)	片瀬西浜海岸(神奈川県)	59チーム1194名
第4回全日本学生プール競技選手権大会	3月2日(土)～3日(日)	富士水泳場(静岡県)	34チーム547名

■ 2012年 その他の競技会

大会名	開催日	会場	参加数
第14回神奈川県ライフセービング選手権大会	5月27日(日)	湯河原海岸(神奈川県湯河原町)	33チーム232名
第13回オーシャンサーフチャレンジin白浜2012	6月17日(日)	白良浜海水浴場 (和歌山県白浜町)	11チーム105名
第8回ライフセービングチャンピオンシップスin島根	9月9日(日)	石見海浜公園(島根県浜田市)	11チーム85名
第10回千葉県ライフセービング競技大会	10月14日(日)	本須賀海岸(千葉県山武市)	29チーム378名
第10回神奈川県ライフセービング・プール競技選手権大会	11月4日(日)	さがみはらグリーンプール (神奈川県相模原市)	41チーム554名

■ 認定審判員養成講習会 および審判員研修会の開催

C級認定審判員養成講習会

開催日	合格者数	会場
5月13日(日)	43	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)
5月13日(日)	10	静岡市清水市民活動センター(静岡県)
6月2日(日)	21	柏崎市民プラザ(新潟県)
6月16日(土)	19	白浜町役場(和歌山県)
8月25日(土)	14	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)
9月1日(土)	5	常滑市社会福祉会館(愛知県)
9月29日(土)	2	渚の交番(宮崎県)
1月20日(日)	28	静岡市清水市民活動センター(静岡県)
1月26日(土)	137	日本体育大学(東京都)
2月3日(日)	31	平塚市市民活動センター(神奈川県)
2月17日(日)	42	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)
合 計	352	

審判員研修会

開催日	参加数	会場
5月13日(日)	12	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)
6月16日(土)	3	白良浜海岸(和歌山県)
1月20日(日)	6	長居陸上競技場(大阪府)
2月16日(土)	24	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)
2月17日(日)	18	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)
合 計	63	



JLA ハイパフォーマンスプログラム

JLA High Performance Program (以下 JHPP) は日本代表チームが国際大会でベストを尽くすための全面的なサポートを行うことと、日本代表チームが国内外の国際大会への参加を通じて、ライフセービング・スポーツとライフセービング双方の普及・発展に貢献する選手を育成することを目的としたプログラムです。

2012年度活動報告

2011年度より選抜されている第6期メンバー(任期:2011年11月1日～2012年10月31日)に加え、2012年4月～5月に行われた2次募集を経てJLAハイパフォーマンスチーム(以下JHPT)が結成されました。

JHPTメンバーは合宿だけでなく、クリニックやJLAイベントへ積極的に参加し、ライフセービング・スポーツの普及にも務めています。

2012年度は2年に1度の世界大会があり、それに向け各種合宿を実施し、最終選考された日本代表選手とユース日本代表選手が、オーストラリア・アデレードで開催されたRescue2012へ出場しました。

なお10月には次期JHPTを選抜し、11月1日より第7期JHPPがスタートしました。

2012年

4/21(土),22(日)

第6期JHPTプール・フィジカル合宿(辰巳国際プール/日本体育大学プール)

U15/U18オーシャン競技クリニック(神奈川県腰越海岸)

6/30(土)

日本代表選手顔合わせ

7/7(土),8(日)

日本代表選手プール合宿(流通経済大学龍ヶ崎キャンパス)

7/22(日)

日本代表サーフ合宿(千葉県本須賀海岸)

8/4(土),5(日)

日本代表選手プール合宿(日本大学藤沢高校プール/アクラブ藤沢プール)

8/19(日)

日本代表サーフ合宿(千葉県岩井海岸)

9/1(土)・2(日)

日本代表選手サーフ合宿(神奈川県片瀬東浜海岸)

9/4(火)

愛知県南知多町立内海小学校表敬訪問/ライフセービング・スポーツ体験教室

9/15(土),16(日)

三洋物産インターナショナルライフセービングカップ出場(愛知県南知多町内海海岸)

11/8(木)～11(日)

Rescue2012世界選手権大会出場

11/23(金)

第7期JHPT顔合わせ

11/23(金)～25(日)

第7期JHPTプール・フィジカル合宿

(流通経済大学龍ヶ崎キャンパス)

12/16(日)

第7期JHPTプール合宿(東京都内プール)

2013年

1/26(土),27(日)

第7期JHPTプール・フィジカル合宿(流通経済大学龍ヶ崎キャンパス)

2/16(土),17(日)

第7期JHPTプール・フィジカル合宿(流通経済大学龍ヶ崎キャンパス)

3/9(土),10(日)

第7期JHPTサーフ・フィジカル合宿(国際武道大学/御宿海岸)

2012年度 JHPTスタッフ

●コーディネーター

泉田 昌美

●ヘッドコーチ

入谷 拓哉

●コーチ

青木克浩、飯沼誠司、佐藤文机子、田村憲章、花岡香那、中尾美樹

●サポートスタッフ

青野武士、本多辰也、遊佐雅美

●トレーナー

小粥智浩、笠原政志、砂川憲彦、後関慎司

第6期 JIA ハイパフォーマンスチーム

任期：2011/11/1～2012/10/31

A チーム男子		
1.	長竹 康介	(西浜 SLSC)
2.	西山 俊	(湯河原 LSC)
3.	清水 雅也	(拓殖大学 LSC)
4.	菊地 光	(九十九里 LSC)
5.	鈴木 陵平	(館山 SLSC)
6.	落合 慶二	(横浜海の公園 LSC/ 東京消防庁 LSC)
7.	植木 将人	(西浜 SLSC)
8.	岡田 浩平	(愛知 LSC)

A チーム女子		
1.	毛利 邦	(館山 SLSC)
2.	水間 菜登	(国際武道大学 LSC/ 勝浦 LSC)
3.	佐伯 芽維	(日本体育大学 LSC)
4.	三井 結里花	(九十九里 LSC)
5.	坂本 佳凧子	(西浜 SLSC)
6.	宮田 沙依	(日本体育大学 LSC)
7.	藤原 梢	(館山 SLSC)
8.	藤波 優希	(国際武道大学 LSC/ 勝浦 LSC)

B チーム 男子		
1.	園田 俊	(流通経済大学 LSC/ 新島 LSC)
2.	高岡 洋介	(下田 LSC)
3.	上野 凌	(西浜 SLSC)
4.	富澤 泰介	(館山 LSC)
5.	小林 海	(西浜 SLSC)
6.	坂本 陸	(西浜 SLSC)
7.	菅 卓也	(新宮 LSC)
8.	沼倉 稔弥	(日本大学 SLSC/ 九十九里 LSC)
9.	藤谷 涼	(昭和第一学園高等学校 LSC)
10.	櫻井 希	(西浜 SLSC)
11.	永石 哲朗	(パディ冒険団)

B チーム 女子		
1.	名須川 紗綾	(文教大学 LSC/ 茅ヶ崎 SLSC)
2.	清水 友紀	(日本大学 SLSC/ 九十九里 LSC)
3.	高橋 愛海	(西浜 SLSC)
4.	高橋 志穂	(柏崎 LSC)
5.	前川 桂穂	(柏崎 LSC)
6.	皆川 綾菜	(西浜 SLSC)
7.	速水 愛	(柏崎 LSC)
8.	大山 玲奈	(成城学園 LSC)
9.	内藤 由里恵	(日本大学 SLSC/ 九十九里 LSC)
10.	利根川 莉奈	(成城学園 LSC)
11.	上野 真凜	(西浜 SLSC)

第7期 JIA ハイパフォーマンスチーム

任期：2012/11/1～2013/10/31

A チーム 男子		
1.	小田切 伸矢	(西浜 SLSC)
2.	落合 慶二	(東京消防庁 / 横浜海の公園 LSC)
3.	菊地 光	(九十九里 LSC)
4.	楠本 慶明	(国際武道大学 / 勝浦 LSC)
5.	鈴木 陵平	(館山 SLSC)
6.	竹澤 康輝	(国際武道大学 / 勝浦 LSC)
7.	中本 直也	(拓殖大学 LSC)
8.	長竹 康介	(西浜 SLSC)
9.	西山 俊	(湯河原 LSC)

A チーム 女子		
1.	坂本 佳凧子	(西浜 SLSC)
2.	清水 友紀	(九十九里 LSC・日本大学 SLSC)
3.	竹内 梨夏	(湯河原 LSC)
4.	但野 安菜	(国際武道大学 / 勝浦 LSC)
5.	名須川 紗綾	(茅ヶ崎 SLSC)
6.	藤原 梢	(館山 LSC)
7.	水間 菜登	(勝浦 LSC)
8.	三井 結里花	(九十九里 LSC・日本大学 SLSC)
9.	宮田 沙依	(日本体育大学 LSC)
10.	毛利 邦	(館山 SLSC)

B チーム 男子		
1.	石井 雄大	(日本体育大学 LSC)
2.	大島 圭介	(湯河原 LSC)
3.	小林 海	(西浜 SLSC)
4.	坂本 陸	(日本体育大学・和田浦 LSC)
5.	瀧川 隆史	(湯河原 LSC)
6.	田村 涼	(湯河原 LSC)
7.	富澤 泰介	(館山 LSC)
8.	永石 哲朗	(パディ冒険団)
9.	森野 友也	(パディ冒険団)

-		
1.	皆川 貴海	(西浜 SLSC)
2.	片山 雄起	(柏崎 LSC)

B チーム 女子		
1.	池原 詩織	(湯河原 LSC)
2.	上野 真凜	(西浜 SLSC)
3.	大山 玲奈	(波崎・早稲田 LSC)
4.	勝又 日葉	(成城学園 LSC)
5.	相馬 紗織	(湯河原 LSC)
6.	高橋 志穂	(柏崎 LSC)
7.	高橋 愛海	(西浜 SLSC)
8.	竹内 芽衣	(波崎 LSC)
9.	中島 静香	(湯河原 LSC)

-		
1.	伊藤 優子	(湯河原 LSC)
2.	吉本 彩乃	(湯河原 LSC)

RESCUE2012 世界選手権大会

2012年11月8日(木)～11日(日)、オーストラリア・アデレードにおいて、2年毎開催の世界選手権大会が開催され、日本代表選手団とユース日本代表選手団を派遣しました。

大会概要

大会日程

11/08 (木) プール競技
11/09 (金) プール競技
11/10 (土) オーシャン競技
11/11 (日) オーシャン競技

開催地

オーストラリア・アデレード

主催

国際ライフセービング連盟

主管

オーストラリアサーフライフセービング協会

会場

プール種目
SOUTH AUSTRALIAN AQUATIC AND LEISURE CENTRE
オーシャン種目
GLENELG BEACH
(グレネルグビーチ)

日本代表パートナー企業

オフィシャルメインスポンサー

株式会社三洋物産/
株式会社三洋販売

オフィシャルサプライヤー

ミズノ株式会社

渡航手配

株式会社STAトラベル

派遣概要

日本代表

プール種目12位、サーフ種目6位、総合10位という結果で終わりました。プール種目では日本新記録が5つ樹立されましたが、プール種目に強いヨーロッパ勢をはじめとする各国もレベルアップしており、苦戦を強いられる結果となりました。今回大会の結果分析とさらなる強化が必要とされています。

サーフ種目では男子ボードレースで長竹康介選手が5位入賞を果たすなど、上位に食い込むレース展開もありましたが、総合結果としては前回大会Rescue2010より2つ順位を下げた結果となり、今後の課題を多く見出せた大会となりました。

ユース日本代表

プール種目5位、サーフ種目4位、総合4位という結果で終わりました。

プール種目、サーフ種目ともに好成績が続出しました。SERCでは英語での対応も求められる厳しい状況で、銀メダルを獲得しました。

またサーフ種目では、坂本陸選手と小林海選手が出場したボードレスキューで、日本勢としてはサーフ種目初となる金メダルを獲得しました。このような好成績を納めながらも、上位3カ国との差は歴然であり、今回の結果は今後のユース指導、育成のプログラムへつながる大きな収穫でした。

審判員派遣

世界大会へ審判員2名を初めて派遣しました。国内では外国人選手が多く参加するのは1大会のみで、なかなか外国人選手との交流経験を積むことができません。今回はJLA認定のC級審判員を派遣し、オーストラリアを中心とする各国のベテラン勢に交じって、オフィシャルとしての運営、コミュニケーションを通じ、様々な経験と情報を得ることができました。

総合順位	チーム名	SERC	Pool	Ocean	Total
1	ニュージーランド	14	355	477	846
2	オーストラリア	20	274	472	766
3	フランス	12	257	297	566
4	イタリア	0	418	85	503
5	ドイツ	8	314	126	448
6	南アフリカ	0	118	300	418
7	オランダ	4	255	92	351
8	カナダ	16	144	143	303
9	スペイン	7	123	87	217
10	日本	10	64	142	216

ユース総合順位	チーム名	SERC	Pool	Ocean	Total
1	オーストラリア	20	490	551	1061
2	ニュージーランド	14	450	527	991
3	スペイン	13	433	354	800
4	日本	16	268	320	604
5	カナダ	18	295	269	582
6	アメリカ	12	104	190	306
7	香港	11	159	93	263
8	アイルランド	0	68	54	122
9	スリランカ	0	40	50	90
10	ノルウェイ	0	37	22	59

■ JLA 派遣団／日本代表チーム

■ ILS国際会議

石川 仁憲 (理事/溺水事故防止PJ
本部長)
上野 真宏 (理事/事務局長)
深山 元良 (ILSスポーツ委員)
相澤 千春 (国際室長)
西嶋 智美 (国際室)

■ 選手団本部

団長
泉田 昌美 (LSスポーツ推進副本部
長/競技力強化委員長)

本部長

砂川 憲彦 (コンディショニング科
学委員)
宮部 周作 (国際室)
山岸 重彦 (記録/舵社)
堤 容子 (世界大会審判員)
外池 由美子 (世界大会審判員)
川地 政夫 (事務局事業部長)

日本代表チーム

▶ 監督

入谷 拓哉
(副理事長/LSスポーツ推進本部長)

▶ コーチ

青木 克浩 (競技力強化委員)
佐藤 文机子 (競技力強化委員)



植木 将人
(西浜SLSC)



菊地 光
(日本大学SLSC / 九十九里LSC)



清水 雅也
(館山SLSC)



鈴木 陵平
(館山SLSC)



長竹 康介
(西浜SLSC) *主将



西山 俊
(湯河原LSC)



佐伯 芽維
(白浜LSC)



坂本 佳凧子
(西浜SLSC)



名須川 紗綾
(文教大学LSC/茅ヶ崎SLSC)



水間 菜登
(勝浦LSC)



三井 結里花
(日本大学SLSC / 九十九里LSC)



毛利 邦
(館山SLSC)

ユース日本代表チーム

ユース日本代表チーム

▶ 監督

飯沼 誠司 (競技力強化委員)

▶ コーチ

中尾 美樹 (専任コーチ)



小林 海
(西浜SLSC) *主将



坂本 陸
(日本体育大学LSC / 和田浦LSC)



櫻井 希
(西浜SLSC)



菅 卓也
(新宮LSC)



富澤 泰介
(館山LSC)



森野 友也
(パティ冒険団)



高橋 愛海
(西浜SLSC)



高橋 志穂
(柏崎LSC)



利根川 莉奈
(成城学園LSC)



内藤 由里恵
(日本大学SLSC / 九十九里LS)



速水 愛
(柏崎LSC)



皆川 綾菜
(西浜SLSC)

TOPICS 2

国際ライフセービング連盟総会開催

世界大会に合わせ開催される国際ライフセービング連盟（以下ILS）理事会に加え、2012年は4年に1度のILS総会が開かれ、役員改選が行われました。

その他ILSアジア太平洋地区総会、各専門委員会、分科会が開かれました。

ILS総会

JLA出席者: 上野真宏事務局長兼理事・石川仁憲理事・相澤千春国際室長（オブザーバー：深山元良・西嶋智美）
フルメンバー 42カ国の出席、19カ国の委任状のもと開かれました。改選選挙の結果、以下の役員が選任されました。

会長: Graham Ford（オーストラリア）／新任

事務総長: Harald Vervaecke（ベルギー）／留任

さらに各地区総会で選出されたそれぞれの会長ならびに代表理事とともに2015年までのILS新体制が決定されました。

専門委員会では4つの委員会が設立されは、「Drowning Prevention and Public Education Commission」（溺水事故防止と普及委員会）にJLAから石川仁憲理事が選任されました。

会議では世界大会Rescue2016開催国オランダからのプレゼンター

ションの他、2013年ドイツで開催されるWorld Conference of Drowning Prevention（溺水事故防止国際会議）や、次回世界大会Rescue2014の準備進行状況などが報告されました。

ILS理事会

JLA出席者: 相澤千春国際室長（オブザーバー：深山元良）

4地区からの各会長より地区報告のほか、新加盟国の承認や今後控える国際大会、国際会議の準備状況が報告されました。

ILSアジア太平洋地区総会

JLA出席者: 上野真宏事務局長兼理事・石川仁憲理事・相澤千春国際室長（通訳：西嶋智美）

役員改選選挙他、地区内の課題について話し合われました。中でもライフセービング発展途上国への協力支援で、日本は東アジアのリーダーとして、韓国・北朝鮮・中国・香港・台湾との連携について提案を受けました。

スポーツコミッション会議

JLA出席者: 深山元良（オブザーバー：相澤千春）

プール競技で使用されるマネキンについて、ILS主催競技会ではドイツ

社製マネキンのみを使用とすることが決定されました。

また競技器材の許容誤差範囲について検討しているワーキンググループからの進捗報告や、世界選手権実施方法について検討する為に行われていたアンケートについての結果などが報告された。

ILS Women's Network

JLA出席者: 相澤千春国際室長・西嶋智美

ILS特別委員会の一つEquity & Diversity（公平性と多様性）委員会の中で構成されたネットワークとして、ゲストスピーカーを招いての懇談会が催されました。今後もILS活動に積極的に参画するリーダーの中に、JLA相澤千春国際室長の名前があがりました。

2013年現在ILS加盟団体数

総数	110
フルメンバー	81
アソシエイトメンバー	13
コレスポンデンスメンバー	16

ライフセーバーアワード2012

JLAライフセーバーアワードは、内外におけるライフセービングの普及・発展に著しく貢献した個人または団体を表彰するもので、「救命」「スポーツ」「教育」の活動別表彰と、「ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー」として最優秀賞の表彰を行い、その功労を称えるものです。

救命賞

風間隆宏 (西浜SLSC)

風間氏は、地域のクラブと行政や公的救助機関との連携を積極的に実施、また海水浴場における溺水事故調査を実施するとともに、溺水事故の要因からパトロールシステムの課題や検討内容を整理し、レスキューミーティングなどを通じて全国のライフセーバーとの共有を図るなど、溺水防止事故活動に著しく貢献された。



受賞の風間隆宏氏(向かって右、左は小峯理事長)

スポーツ賞

中島重之 (競技運営・審判委員会)

中島氏は、JLA協会において、審判委員としてリーダーシップを発揮され、積極的かつ継続して競技運営に尽力された。特に2012年は審判員の活動履歴整理に積極的に取り組み、審判員の登録管理、基盤整備に著しく貢献された。



スポーツ賞受賞の中島重之氏

教育賞

関口義和 (三浦海岸SLSC)

関口氏は、2012年度よりスタートしたJLAACADEMY・資格認定講習会の指導を積極的に行い、所属するクラブを通じて合計18回、約230名へ講習を実施され、水辺の事故防止、安全教育の普及、啓発に著しく貢献された。



教育賞受賞の関口義和氏

ライフメンバー

中見隆男 (JLGA副会長/元・JIA専務理事)

田中 裕 (初代JLGA副会長/元・JIA理事)

中見氏は、日本ライフセービング協会 (JIA) の前身である日本ライフガード協会 (JLGA) 副会長。JIA専務理事、初代技術局長を務められ、JIAの設立、運営に尽力された。現在も活動を継続され、スーパーバイザーとして長年の見識から若手の育成に力を尽くされ、日本のライフセービングの発展に著しく貢献されている。

田中氏は、日本ライフセービング協会 (JIA) の前身である日本ライフガード協会 (JLGA) 初代副会長。JIA理事を務められた。第1回豪日交流ライフセービングプログラムで渡豪。特にオーストラリアではIRBの先進救助技術を学ばれ、講習会や競技運営を通じて若手の育成に尽力され、日本のライフセービングの発展に著しく貢献された。



ライフメンバーの中見 隆男氏 (右端) と田中 裕氏 (中)

特別功労賞

松浦俊郎 (元・豪日交流基金副所長)

**小島祐嘉 (元・日本赤十字社神奈川県支部事業部長/
水上安全法高等科講師)**

深山元良 (元・ILSスポーツ委員会)

遊佐雅美 (柏崎LSC)

松浦氏は、豪日交流基金副所長として豪日交流ライフセービングプログラムを5年にわたりご支援され、日本とオーストラリアの架け橋となり、日本のライフセービングの発展に著しく貢献された。

小島氏は、第1回豪日交流ライフセービングプログラムにおいて、日本赤十字社神奈川県支部の窓口として多大な尽力をいただいた。また、JLGA技術顧問としてJIA



特別功労賞受賞の (左から) 深山元良氏、小島祐嘉氏、遊佐雅美氏

の設立にも力を尽くされ、日本のライフセービングの発展に著しく貢献された。

深山氏は、RESCUE90世界選手権ドイツ大会、2kmビーチラン種目において、日本人初の優勝。その後も日本の競技力向上や競技規則の国際化、審判員の育成などに尽力され

た。また、ILSスポーツ委員としても日本のライフセービングの発展に著しく貢献された。

遊佐氏は、RESCUE94、96、2000、2004世界選手権ビーチフラッグス種目において4度の優勝。全日本選手権では17連覇、19回優勝。現在も競技力強化委員として若手の育成に尽力され、日本のライフセービングの発展に著しく貢献されている。

功労賞

山本利春 (元・副理事長 / 指導委員長)

天坂辰雄 (元・監事 / 元・顧問弁護士)

小森康充 (元・監事)

篠原 忍 (元・監事 / 元・顧問税理士)

山岡圭一 (元・理事)

稲垣裕美 (元・理事)

豊見山明久 (元・理事 / 沖縄県支部長)

高野絵美 (元・理事 / 広報室長)

小嶋和也 (元・監事 / 元・顧問弁護士)

泉田昌美 (元・理事 / 競技力強化委員長)



功労賞受賞の (向かって左から) 稲垣氏、小森氏、天坂氏代理、高野氏、泉田氏

年間事業報告

運営マネジメントグループ総括

ライフセービング・スポーツ推進本部長

入谷 拓哉

ライフセービングスポーツ推進本部の役割は、スポーツの持つ魅力や感動を通じライフセービングの普及、認知に繋げていくことです。そこで国内競技会の普及、拡大を図ることや、レスキューアスリートの育成などを主軸に展開してまいりました。

国内競技会においては、種目別選手権が新潟柏崎で、学生プール選手権が静岡富士での初開催となり、開催地においては、地元クラブや支部のご協力のおかげで無事に開催に至り、地元へのアピールにも繋げて頂きました。競技会を通じてのアピールと言え、三洋カップを開催した愛知内海では、事前に日本代表選手が地元の小学校へ訪問し大会以外で子供たちと交流を図りました。その他、ILSの競技規則の改正に伴い、JLA競技規則2012

年度版を9月以降の競技会より新ルールを適用いたしました。また7月には日本アンチ・ドーピング機構(JADA)に正式加盟し、今後はアンチ・ドーピング啓蒙活動についても展開されていきます。

日本代表選手の強化においては、11月にオーストラリア・アデレードで開催されたRESCUE2012に日本代表とユース日本代表の2チームを派遣することができ、特にユースでは多数のメダル獲得が実現されました。(SERC・銀メダル、ボードレスキュー男子・金メダル)

2013年では、ユース選手権、ジュニア競技会2日開催、ジュニア／ユース・プール競技会の初開催など、次世代のライフセーバー育成に重点を置き展開していきます。

JLA ACADEMY本部長

松本 貴行

平成24年度より新体制になり、講習会の歴史においても新たな一歩がスタートしました。1年間の実績を振り返りますと、資格発行総数が前年比+2470名の5100名に至りました。ひとえにJLA ACADEMYを柔軟に受け入れ、実践下さった指導員の方々のご尽力によるものがあります。心より御礼申し上げます。

水辺の事故を減少させるためには、ライフセーバーの養成という従来の講習会の柱に加え、自分の身を守る「自助」を広めていくことにあります。「Water Safety」がJLAの公益活動としての継続力を持ってこそ、成果に結びつくものと考えます。平成24年度の53講習、1295名の資格発行数を基盤に、年間3000名を目標値とし、ライフセービングの普及、認知とともに進めて参りたい

と考えております。また「CPR」に関しても「Water Safety」同様に、JLA主催の講習会を多く設置(定例化)することや、平日夜間講習の開設等の工夫と戦略をもって年間3000名の目標値を掲げております(平成23年度:1236名／平成24年度:2180名)。救助者養成とともに、自助と救命の連鎖に大きく関わる心肺蘇生(AED)の普及にも、JLAの果たすべき大きな役割があることを再認識していただければ幸いです。

最後に皆様から多くお問い合わせを賜っている「Pool Lifeguard」は9月頃の講習開始を予定しております。また上半期の講習会スケジュールがHPに掲載しております。ぜひご覧いただけますようお願い申し上げます。

溺水事故防止プロジェクト本部長 石川 仁憲

わが国では年間約1400件の水難事故が発生し、約800人の尊い命が失われている。水難事故は6月～8月の3ヶ月間に多く、また発生場所は海が約50%を占める（警察庁統計より）。JLAが関わる海水浴場における2012年の意識ありの溺者を救助したPreventive Action (PA) は1,554件、意識なしの溺者を救助したEmergency Care (EC) は11件（蘇生:8名）であった。PAの1,554件は重大事故を未然に防いだ数であり、ライフセービングの必要性を示すが、「水辺の事故ゼロ」にむけて、ECとともにPAの数をゼロにしなければならない。

溺水事故防止プロジェクト本部では、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、事故事例について議論する「JLA レスキューミーティング」を2012年より実施することにした。第一回は、4名のパネリストによる事故報告や事故防止に関わる話題提供とともに、75名の参加者による活発な意見交換により、事故防止に関する課題を整理した。この結

果を受けて2013年では、PTSD、救命の連鎖、サーフトレーニングにおけるリスクアセスメントに注目し、各地域でレスキューミーティングを実施する。また資格取得後のライフセービング活動をサポートするために、ライフセーバーのサーフトレーニング中の事故防止とスキルアップを目的とした「JLAサーフトレーニングクリニック」を2013年より実施する。さらに、溺水事故の約7割がリップカレント等の流れが原因で起きていることから、6月～8月を「海辺のWater Safety キャンペーン」として、一般市民へ安全な海岸利用やリップカレントに関する知識普及を行うとともに、JLAアカデミーと協力して、一般市民を対象に自助、共助力を養うためのCPR、Water Safety講習会を集中的に開催する。またキャンペーン期間中には公的救助機関、関連団体の溺水事故防止に関する取り組みを共有し、関係者間の連携強化を図る機会として「溺水事故防止シンポジウム」の開催を予定している。



—2012年度JLA年間事業一覽

4月

- 1日(日) 指導員養成講習会・事後研修会
- 6日(金) 第1回理事会
- 15日(日) 指導員養成講習会・事後研修会
- 21日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 21日(土) 国際連盟(ILS)理事会
- 22日(日) 国際連盟(ILS)理事会
- 22日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 27日(金) 第2回理事会



理事会

5月

- 11日(金) 運営委員会
- 13日(日) 中学生・高校生プログラム
- 13日(日) C級審判員養成講習会
- 13日(日) 審判員研修会



運営委員会

- 19日(土) 第25回 全日本プール競技選手権大会
- 20日(日) 第25回 全日本プール競技選手権大会
- 26日(土) 通常社員総会/第3回理事会



全日本プール



通常社員総会

6月

- 2日(土) 合同浜説明会
- 2日(日) C級審判員養成講習会



U15U18競技会

- 3日(日) 第4回U15/U18競技選手権大会
- 4日(火) 足立区教員研修協力
- 9日(土) 第25回 全日本種目別選手権大会
- 10日(日) 第25回 全日本種目別選手権大会
- 16日(土) C級審判員養成講習会
- 16日(土) 審判員研修会
- 17日(日) 第13回オーシャンサーフチャレンジin白浜
- 18日(月) 第4回理事会
- 30日(日) 強化指定選手・合同ミーティング



第25回 全日本種目別選手権大会

7月

- 1日(日) ジュニア・リーダー養成講習会
- 4日(水) 第5回理事会
- 7日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 8日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 10日(火) 板橋区小学校水泳教室協力～7/19(木)
- 14日(土) 臨時社員総会/第6回理事会
- 15日(日) ジュニア・リーダー養成講習会
- 21日(土) 岩井臨海学園 千代田区～24日(火) / 北区～8/9(月)
- 22日(日) 強化指定選手・国内強化合宿



岩井臨海学園

8月

- 4日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 5日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 11日(土) 東北ジュニア・プール競技会
- 19日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 21日(火) 第7回理事会
- 25日(土) C級審判員養成講習会



東北ジュニア・プール競技会

9月

- 1日(土) C級審判員養成講習会
- 1日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 2日(日) 第9回ジュニア競技会 (with 第4回 JLA classic)
- 5日(水) 会報誌『RESCUE』(Vol.42) 発行
- 8日(土) 第38回 全日本選手権大会・東日本地区予選会
- 9日(日) 第38回 全日本選手権大会・東日本地区予選会
- 15日(土) 第38回 全日本選手権大会・西日本/中部地区予選会



第9回ジュニア競技会

—2012年度JLA年間事業

- 16日(日) 第38回 全日本選手権大会・西日本/中部地区予選会
- 16日(日) 三洋物産インターナショナルライフセービングカップ
- 16日(日) 第一三共ジュニア教室(山形県)
- 22日(土) 第27回 全日本学生選手権大会
- 23日(土) 第27回 全日本学生選手権大会
- 29日(土) 第一三共ジュニア教室(青森県)
- 29日(土) C級審判員養成講習会



三洋物産インターナショナルライフセービングカップ

10月

- 6日(土) レスキューミーティング
- 6日(土) 支部統括室会議(全体会議)
- 6日(土) 第38回 全日本選手権大会
- 7日(日) 第38回 全日本選手権大会
- 14日(日) 第一三共ジュニア教室(岩手県)
- 26日(金) 第8回理事会
- 28日(日) リップカレントシンポジウム派遣

11月

- 2日(金) 国際連盟(ILS)総会・理事会派遣
- 7日(水) RESCUE2012世界選手権・日本代表選手団派遣
- 23日(金) 強化指定選手・合同ミーティング
- 24日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 25日(日) 強化指定選手・国内強化合宿



RESCUE2012世界選手権・日本代表選手団

12月

- 2日(日) ジュニア・リーダー養成講習会
- 8日(土) 指導員養成講習会・事前研修会
- 9日(日) 指導員養成講習会・事前研修会
- 15日(土) 納会/第9回理事会
- 16日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 21日(金) 指導員養成講習会・事前研修会
- 23日(日) 指導員養成講習会・CPR事前研修会
- 25日(火) 指導員養成講習会・CPR事前研修会
- 25日(火) 中学生・高校生プログラム
- 26日(水) 中学生・高校生プログラム



納会/第9回理事会

1月

- 12日(火) 指導員養成講習会・CPR本講習会
- 13日(水) 指導員養成講習会・CPR本講習会
- 14日(木) 指導員養成講習会・CPR本講習会
- 20日(日) 支部統括室会議(中部支部)
- 20日(日) C級審判員養成講習会

- 20日(日) 審判員研修会
- 25日(金) 第10回理事会
- 26日(土) C級審判員養成講習会
- 26日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 27日(日) 強化指定選手・国内強化合宿

2月

- 2日(土) 指導員養成講習会・Water Safety事前研修会
- 2日(土) 学生リーダーズキャンプ
- 3日(日) 学生リーダーズキャンプ
- 3日(日) 指導員養成講習会・Water Safety事前研修会
- 3日(日) C級審判員養成講習会
- 9日(土) 指導員養成講習会・Water Safety本講習会
- 10日(日) 指導員養成講習会・Water Safety本講習会
- 11日(月) 指導員養成講習会・Water Safety本講習会
- 12日(火) 指導員養成講習会・Water Safety本講習会
- 16日(土) 指導員研修会
- 16日(土) 審判員研修会
- 16日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 17日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 17日(日) ジュニア・リーダー養成講習会
- 17日(日) C級審判員養成講習会
- 17日(日) 審判員研修会
- 22日(金) 指導員養成講習会・事前研修会
- 23日(土) 指導員養成講習会・事前研修会・CPR & Water Safety事後研修会
- 23日(土) ジュニア・リーダー養成講習会
- 24日(日) 指導員研修会
- 27日(水) 指導員研修会



学生リーダーズキャンプ

- 27日(水) 支部統括室会議(北海道支部)
- 28日(木) 支部統括室会議(神奈川県支部)



C級審判員養成講習会

3月

- 2日(土) 支部統括室会議(中部支部/九州支部)
- 2日(土) 指導員研修会
- 2日(土) 第4回全日本学生プール競技選手権大会
- 3日(日) 第4回全日本学生プール競技選手権大会
- 3日(日) ジュニア・リーダー養成講習会
- 8日(金) 指導員養成講習会・CPR事前研修会
- 9日(土) 指導員養成講習会・サーフ事前研修会
- 9日(土) 強化指定選手・国内強化合宿
- 10日(日) 強化指定選手・国内強化合宿
- 10日(日) 指導員養成講習会・サーフ事前研修会
- 12日(月) 会報誌『RESCUE』(Vol.43)発行
- 14日(木) 支部統括室会議(沖縄県支部)
- 15日(金) 第11回理事会
- 15日(金) 指導員研修会
- 16日(土) 指導員養成講習会・サーフ本講習会
- 17日(日) 指導員養成講習会・サーフ本講習会
- 17日(日) ライフセービングフォーラム
- 20日(水) 指導員研修会/指導員養成講習会・CPR本講習会
- 23日(土) 指導員研修会/指導員養成講習会・CPR本講習会・サーフ事後研修会
- 24日(日) 指導員研修会/指導員養成講習会・CPR本講習会
- 29日(金) 指導員研修会
- 30日(土) 指導員養成講習会・Water Safety事前研修会

事業報告

水辺の監視・救助活動事業

■ 水辺の溺水事故防止に向けた調査・研究

◇ 全国パトロール統計調査の実施

団体登録クラブが活動している全国202ヶ所のうち、報告のあった44クラブ124ヶ所の海水浴場での監視、救助業務のパトロールログ集計とレポート集計、および調査を行いました。

*詳細はp41からのパトロールログ&レスキューレポートをご覧ください。

◇ 溺水事故防止に向けた調査研究・協力活動の実施

国内海岸での溺水事故基礎調査として8/22,23と若狭和田海水浴場にて現地調査を行いました。

また10/30-11/1オーストラリア・シドニーで開催された「SLSA Rip Current Symposium」へ石川溺水事故防止プロジェクト本部長、上野事務局長を派遣し、リップカレントに関する情報収集と各国の参加者と意見交換を行ないました。

■ 各種説明会、ミーティング、フォーラムの実施

◇ 合同浜説明会

ライフセービング活動ができる地域クラブを紹介するため、6/2(土)東京メディカルスポーツ専門学校において実施し、30クラブが参加しました。

ライフセーバーの活動場所選定と、地域クラブのライフセーバー採用とのマッチング方法については課題が多く、今後も本部と支部で継続して検討します。

◇ 第1回レスキューミーティング

全日本ライフセービング選手権大会に合わせ、10/6(土)神奈川県藤沢市民会館において開催しました。75名の参加をいただき、ライフセーバーへ溺水事故の事例を紹介し、溺水事故防止に向けた課題解決策等の意見交換をはじめ、事故防止への取り組みを広く議論することができました。

*詳細はp40

◇ ライフセービングフォーラム

3/17(日)神奈川県かながわ女性センターにおいて開催しました。325名の参加をいただき、JLA会員やライフセーバーを対象に、ライフセービングに関する研究・実践報告、基調講演を行いました。

プログラム

- ・世界大会を終えて～日本代表チームのレビュー
入谷拓哉(日本代表監督)
- ・ボードパドリングにおけるストローク特性
深山元良(前競技運営審判委員長)
- ・日本国内のライフセーバーに関わる文献調査報告
笠原政志(学術研究委員会)
- ・2012年度パトロール集計速報とライフセービングシステム開発委員会の活動について
風間隆宏(ライフセービングシステム開発委員長)
- ・JLA ACADEMYの取り組み～ CPR アセスメントと新資格体系
阿部健(副指導委員長)
- ・社会復帰率向上を目指して
河野元彦(レールダルメディカル

ジャパン株式会社)

・海岸利用者の津波防災～現場で何ができるか

青木伸一(大阪大学大学院教授)

・総括/酒匂敏次(理事)

■ サーフビレッジ器材庫管理

神奈川県藤沢市のサーフビレッジにあるライフセービング器材庫の管理をNPO法人西浜SLSに痛くし、年間を通じた器材保管とメンテナンスを実施しました。

JLA ACADEMY資格認定事業

■ 資格認定講習会の実施

JLA本部・支部および加盟団体クラブ主催による資格認定講習会を実施しました。地方開催による講習会には、指導員派遣にともなう旅費補助の支援をおこない、開催数拡大を進めました。

2011年度より本格始動したJLA ACADEMYでは自助の知識と技術を広く一般に普及するためのウォーターセーフティが始まり、初年度1,291名の皆様へ受講いただきました。今後も心肺蘇生CPRと合わせて、社会貢献のひとつとして開催普及に努めます。

*開催数・資格発行数詳細はp15

■ 指導員研修会の開催

指導員資格継続のための更新講習会を実施しました。全国で9回開催し171名が参加し、JLA ACADEMYの現状や、検討課題も議論され、最新の情報を交換しました。

2012年度より指導員ユニフォームが新しくなりました。

■ 指導員養成講習会の開催

2012年度はCPR+WS 19名、SURF 14名の新任指導員が誕生しました。
*開催場所等詳細はp15,16

■ 教員向け事故防止講習会

東京都足立区教育委員会主催による、小・中学校の教員を対象(任意)とした水辺の事故防止講習会を実施し、50名の参加をいただきました。

■ 青少年・児童への水辺の安全・教育事業

■ 臨海学園ライフセービング指導協力

◇ 東京都北区区内中学校

東京都北区教育委員会からの受託により、7/21～8/9区内中学生1,462名に対して延252名ライフセーバーが千葉県安房郡岩井海岸においてライフセービングの指導を行いました。

◇ 東京都千代田区内中学校

東京都千代田区教育委員会からの受託により、7/21～7/24千代田区内中学生208名に対して延33名ライフセーバーが千葉県安房郡岩井海岸においてライフセービングの指導を行いました。

◇ 東京都板橋区内小学校

東京都板橋区教育委員会からの受託により、7/10～7/19板橋区内小学3～6年生1,036名に対して延61名ライフセーバーが各学校プールにおいてライフセービングの指導を行いました。

■ ジュニアライフセービングへの取り組み

日本財団助成事業により、全国で加盟クラブ主催によるジュニアライフセービング教室を実施いたしました。

子供たちに実際にライフセービング・スポーツの楽しさなどを体験してもらいながら、水辺の安全について普及するため、保護者の意識調査も同時に行いました。さらにジュニア教育における指導者の養成や普及に必要な販促物を制作しました。

*詳細はp38助成事業

9/2(日)第9回ジュニア選手権(神奈川県腰越海岸)では、全国から28チーム197名の参加をいただきました。

■ 中学生・高校生プログラム

本部事務局の学生室の大学生会員が中心となり、将来を担う中学生・高校生を対象としたライフセービングプログラムを実施しました。

また昨年度までジュニア競技会へ参加カテゴリーを設けていた中学生を高校生競技会へ移行して、6/3(日)第4回U15/U18競技選手権大会を実施、20チーム206名の参加がありました。

■ 学生ライフセービングの普及啓蒙

会員の多くを占める学生ライフセーバーおよび大学クラブのリーダー112名を対象としたミーティングを2013年2/2-3国立オリンピックセンター(東京都)で実施しました。

■ ライフセービング・スポーツ事業

■ 競技会の開催

2012年度は公式競技会を6大会、公認競技会を1大会開催しました。競技会開催はライフセービングへの認知や興味が高まり、普及に大きくつながります。

6/9,10に開催された第25回全日本種目別選手権大会では、初めて新潟県柏崎市を訪れ、ホストクラブと地域のみなさんに歓迎をいただき、開催地と一体となった大会を開催させていただきました。

ここ近年ではジュニア(小学生以下)や中学生の競技会参加が増えており、競技種目や開催地の検討が課題になっています。

*競技会開催詳細はp18

■ 審判員養成講習会、研修会の実施

全国でC級審判員養成講習会を実施し、2012年度はあらたに352名の方が合格されました。

審判員研修会は全5回実施し、63名の参加をいただきました。

年1回の国内国際大会での審判員経験者も少しずつ増え、2012年度は世界大会Rescue2012に2名のJLA審判員を派遣しました。

今後国際ルールに則って国際大会を進行できる審判員の養成も課題となっています。

■ 競技規則の改正

国際ライフセービング連盟の競技規則改正にともない、「ILS競技規則2011年版」に対応した「JLA競技規則2012年版」を刊行しました。

■ 競技力強化に関する事業

第6期JLAハイパフォーマンスチーム（以下JHPT）の継続により、三洋カップ2012および世界大会Rescue2012に日本代表選手を派遣しました。JLAハイパフォーマンスプログラム（以下JHPP）では引き続き2012年11月より第7期JLAハイパフォーマンスチームの発足とともに、スタッフとメンバーが選定され、新たなプログラムをスタートさせました。

*プログラム詳細と世界大会はp21～

■ 医科学に関する事業

ライフセーバーのスポーツ医科学サポート、ならびに学術研究活動を行いました。公式競技会では国際武道大学トレーナーチームの協力のもと、トレーナーステーションを設置しました。

JLA医科学委員会ではJHPCへの合宿参加や日本代表選手への帯同を通じて、競技者サポートと大会協力を行いました。

またJLAは2012年7月にJADA理事会からの承認を受け、正式にJADA加盟団体となりました。今後はアンチ・ドーピングに関する情報収集だけでなく、防止関連規定や教材提供からライフセーバーへアンチ・ドーピング知識のさらなる普及を進めます。

国際交流事業

■ ILS会議への役員派遣・国際大会 通訳帯同

4月21日・22日、カナダで開催されたILS理事会に相澤千春国際室長を派遣し、ILS総会と世界大会に向けて情報収集を図りました。

2012年11月に世界大会と同時開催されたILS総会への役員派遣、および日本選手団へ国際室から通訳を派遣しました。

今回のILS役員、委員改選では専門委員会の一つ「DROWNING PREVENTION AND PUBLIC EDUCATION COMMISSION」へJLAより石川仁憲理事が委員へ就任しました。

世界大会前後では各種準備段階より国際室による情報収集、事後報告が行われました。

広報・啓蒙活動事業

■ 販促物の制作／刊行物の配布

ポスター、リーフレットなどを講習会、イベント、競技会等で配布しました。大型のイメージポスターや競技会ポスターも各クラブを通じて配布しています。

年二回ライフセービングムックを舵社より発行し、会報誌「THE RESCUE」とともに正会員、一般会員の皆様へ送付しました。

2009年より総会開催時に合わせて、前年度分のアニュアルレポートを発行していますが、2012年度は2010-2011年度分のハイライト版を冊子発行しました。

■ ホームページとSNS利用

ホームページによる情報発信が頻繁になり、会員の皆様へ早期に情報伝達できるよう、公式Facebook、twitterとの併用を行い、ネットワーク強化をはかりました。

JLAを身近に感じていただけるよう、Facebookではターゲットが限られるコア情報も含め、頻度良く情報をアップしました。

twitterでは公式競技会の競技結果速報を流す等、SNS活用の範囲を広げています。

■ メディアリリース

競技会、イベントを中心に、テレビ、新聞、等の媒体へプレスリリース配信を行いました。

メディア掲載状況

新聞	14
雑誌	10
テレビ	21
ラジオ	1

*協会本部および報告のあった各クラブで取材受けした件数も含みます。

助成事業・協力事業

JLAは各方面の団体、企業の皆様から助成や協力をいただきながら、自助／救助を普及する為の事業を全国で展開しております。

日本財団助成事業

支部・各クラブ申請に基づく監視活動器材支援

- ◇パトロールキャップ 1,541枚
- ◇レスキューボード 60本
- ◇レスキューチューブ 60本

講習会の充実・拡充に向けた器材支援

- ◇大人用ライフジャケット 50着
- ◇子供用ライフジャケット 150着
- ◇小児ダミー人形 20体
- ◇乳児ダミー人形 20体

ジュニアライフセービング教室の支援

小中学生に対してライフセービング教室を実施いたしました。同時に参加者保護者(15クラブ196名)へのアンケートを実施いたしました。

- ◇ ニッパーボード
1クラブにつき2本
- ◇ジュニア用キャップ
参加者一人につき1枚

ジュニアプログラム関連制作物

- ◇ジュニアテキスト 3,000部
- ◇ジュニアリーフレット 3,000部
- ◇ジュニアリーダーテキスト1,000部
- ◇ウォーターセーフティーテキスト 5,000部

ジュニア教育指導者養成

ジュニア指導者養成についての関連委員会を全8回実施いたしました。さらに全国で「ジュニア・リーダー養成講習会」を開催しました。

ジュニアライフセービング教室参加者

1	札幌LSC	33
2	小樽LSC	12
3	若狭和田LSC	3
4	勝浦LSC	40
5	榛原LSC	12
6	西伊豆LSC	14
7	鴨川LSC	24
8	館山SLSC	30
9	相良SLSC	30
10	大竹SLSC	11
11	沼津LSC	20
12	流通経済大学LSC	39
13	横浜海の公園LSC	66
14	かごしま磯LSC	30
15	広島LS	34
16	京都LSC	30
17	大分LSC	26
18	岡山LSC	21
19	コバルトブルー下関LSC	69
20	中部支部	33
21	北谷公園サンセットビーチLSC	40
	合計	617

開催日	場所	参加数
7/1 (日)	アクアみすみ (鳥根県浜田市)	17
7/15 (日)	成城学園 (東京都)	10
12/2 (日)	流通経済大学 (茨城県)	4
2/17 (日)	九段中等教育学校 (東京都)	3
2/23 (土)	山形市総合スポーツセンター (山形県)	2
3/3(日)	春日市立市民スポーツセンター (福岡県)	9

Water Safety NIPPON (水の事故ゼロ運動推進協議会)への協力

日本における「子どもたちの健やかな成長と水の事故ゼロ」を目標に、行政・団体・企業・マスコミ・ボランティア・個人など様々な団体等が協力し「水の事故ゼロ運動」を全国で推進する官民共同体の組織設立に参画しました。

発起団体

- ・日本財団 会長 笹川陽平
- ・海洋政策研究財団 会長 秋山昌廣
- ・日本セーリング連盟 会長 山崎達光
- ・日本カヌー連盟 会長 福田康夫
- ・日本トライアスロン連合 会長 岩城光英
- ・B&G財団 会長 梶田功
- ・日本ライフセービング協会 理事長 小峯力

青少年育成3団体協働事業「ウォータースポーツプロジェクト」への協力

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団(B&G財団)、日本トライアスロン連合(JTU)、日本ライフセービング協会の3団体協働によるプロジェクト「青少年の健全育成、自然体験を通じた安全教育」に参加協力しました。

全国に480ヶ所あるB&G財団海洋センターを会場候補に3団体が協力して実施しています。

	B&G海洋センター所在地	参加数
1	北海道 室蘭市	39
2	栃木県 下野市	17
3	石川県 七尾市	19
4	滋賀県 高島市	7
5	鳥取県 伯耆町	18
6	愛媛県 松山市	38
7	徳島県 海陽町	8
8	鹿児島県 天城町	19
	合計	165

パトロール活動支援

各社パートナー企業様からのご支援により、パトロール活動のためのライフセーバー向け物品の提供を行いました。

◇株式会社ゴールドウィン社

- ・パトロールユニフォーム
上:1,562枚 下:1,608枚
- ・パトロール水着 808枚

◇森永製菓株式会社

- ・ウィダー inゼリー 59,280個
- ・オールチャージ(飲料水)
18,360本

ジュニアライフセービング教室支援

第一三共株式会社様のご支援により、東北エリアでジュニアライフセービング教室を開催しました。

開催日	参加数	会場	協力クラブ
9/16 (日)	42名	山形市総合スポーツセンター(山形県山形市)	山形LSC
9/29 (土)	38名	航空自衛隊車力分屯基地室内プール(青森県つがる市)	つがるLSC
10/14 (日)	35名	釜石市市営プール(岩手県釜石市)	釜石LSC
合計	115名		

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団との連携協力

6月10日(日)沖縄で、B&G財団が開催する指導者養成研修にJLA指導員4名を派遣し、CPR資格認定講習会を実施し、80名の参加をいただきました。

また、5月15日(火)職員研修にJLA指導員1名を派遣し、CPR研修会を実施し30名の参加をいただきました。

日本サッカー協会および日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)との連携協力

チーム帯同3スレティックトレーナーはじめ、スタッフ向けにCPR資格認定講習会を実施しました。

開催日	参加数	対象
1/10 (木)	24名	Jリーグチームトレーナー
2/9 (土)	16名	日本代表トレーナー
2/11 (日)	17名	JFA所属トレーナー
合計	57名	

日本水泳連盟との連携・協力

オープンウォータースイミング委員会・安全担当員として、JLA指導員入谷拓哉、石井英一、安田春暁の3名が委嘱された。また、11月25日(日)日本水泳トレーナー会議に所属するアスレティックトレーナーを対象に、JLA指導員3名を派遣し、CPR資格認定講習会を開催し、36名の参加をいただいた。

「キッズライフセービング(乳幼児)」株式会社ポピンズ/共同開発事業

日本社会の次世代の育成のため、水辺エリアでの活動を越えた年間プログラムの開発に向けて、両者がこれまで培ってきた哲学や実践を踏まえ、乳幼児に対して発育発達支援事業「キッズライフセービング」プログラムを共同開発し講師を派遣しました。

- 1) 年間を通じたジュニア(キッズ)教育プログラムの開発
- 2) 非水辺(保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校)年間プログラム開発
- 3) ライフセービング活動の再開および指導者としての雇用創出
- 4) 既存の施設(ポピンズ社保有)指導および企業契約と全国展開

TOPICS 3

第1回レスキューミーティング

JLAでは「水辺の事故ゼロ」を目指し、溺水事故の事例検証と事故防止に関する取り組みを広く議論する場として、「JLAレスキューミーティング」を定例で実施することとしました。2012年度は第1回目としてクラブ代表、パトロールキャプテン、大学クラブキャプテンなど、監視救助活動やトレーニング、クラブ運営の責任者となる立場の方の積極的な出席を呼びかけ、75名の参加をいただきました

日時

2012年10月6日(土)
19:30-21:00

場所

神奈川県藤沢市民会館 2階会議室

参加者

75名

プログラム

進行	溺水事故防止プロジェクト本部長: 石川仁憲
ラ イ フ セ ー バ ー レ ジ ョ ン パ ネ	若狭和田LSC代表:細田直彦氏
	西浜SLSC理事/JLAライフセービングシステム開発委員長:風間隆宏氏
	大磯LSC/JLA溺水事故調査委員:福島圭介氏
	下田LSC理事長:江田邦明氏



パネリスト発表要旨

話題提供/石川仁憲

- ・JLA新体制は、JLA ACADEMY・ライフセービングスポーツ・溺水事故防止の3本柱の強化である
- ・過去のパトログログ解析から、レスキュー件数、ファイスーエイド件数ともに減少傾向にあることからライフセービングの成果を示唆
- ・同じく過去レポートより重溺件数の発生、蘇生率は増減を繰り返しており、これをゼロにすることが我々の活動であることを強調
- ・2012年度は1件のライフセーバー自身の事故が含まれたことの報告
- ・第1回目は事故事例、事故防止の取り組みの紹介、情報共有、それにもなう課題抽出とし、次回はその課題を深く検討することとする開催趣旨説明

若狭和田LSC代表:細田直彦氏

- ・若狭和田海水浴場での事故事例発表
- ・監視体制と事故要因の解説
- ・事故対応後のライフセーバーの精神ケアについて

西浜SLSC:風間隆宏氏

- ・西浜SLSCにおける溺水事故防止対策と各行政機関との協働事例の発表
- ・地元の学校向け安全教育の必要性
- ・海辺の救助活動に関連する海上保安庁、警察、消防などの顔が見える関係構築、連携方法の具体的な内容についての議論
- ・ファイセーバーに求められるプロとしての資質

大磯LSC:福島圭介氏

- ・水辺の救護活動におけるライフセーバーの役割について
- ・水辺で多い救急搬送事例
- ・海水浴場周辺の重大事故発生状況や海水浴場の救護器材配備など
- ・医療につなげることに重点をおいたライフセーバーからの医療機関への引き継ぎの重要性と課題
- ・救命救急士資格などを活かす仕組み作り

下田LSC理事長:江田邦明氏

- ・ライフセーバーのトレーニングと事故防止について
- ・事故発生要因と危険回避手段
- ・ライフセーバーのトレーニング方法、リスク、判断

意見交換・質疑応答

次につながる積極的な課題提供ができ、ライフセーバーの資質向上につながる問題提起となる意見が会場からもたくさん寄せられました。

- ◇事故を未然に防ぐ活動<教育>について
- ◇消防など公的救助機関との連携について
- ◇救急隊へのコミュニケーション方法について
- ◇事故を対応したライフセーバーへのケア方法
- ◇ライフセーバー自身の身の安全やトレーニング時の注意事項について



Section 2

パトロールログ &
レスキューレポート
一覧

パトロールログ&レスキューレポート集計

JLAに登録がある全国の監視活動エリアから提出いただいた報告書より、集計可能なデータ124カ所を対象に集計した結果です。

【ログの改訂】

2012年度からは客観的データを取得し、溺水事故防止や現場の活動環境改善へつなげるようなデータ分析できるよう、パトロールログの改訂を行いました。特にレスキュー件数は、前年度まで「1.重溺者(意識なし)／意識不明の溺者」「2.軽溺者(意識あり)／意識はあるが自力で浮くことが困難な溺者」「3.安全移送者／自力でうくことはできるが、自ら安全な位置や浜に移動することが出来ない者」の3種でカウントしていましたが、「2.」「3.」についてはライフセーバーによって判断が異なるため、2012年度より、「1.Emergency Care／意識なしの重溺」「2.Preventive Action／意識ありの溺者」の2種に限定し、意識の有無でカウントすることにしました。

1. パトロールログ

1.1 アクシデント集計結果概要

図1に、報告のあった124カ所の海水浴場及びプールにけるパトロール中に発生したアクシデント(FA:ファーストエイド、迷子、レスキュー)数を示す。

FA数は12,406件、迷子数は635件、レスキュー数は1,985件であった。

図2に、レスキュー数の内訳(Emergency Care:意識なしの重溺者／Preventive Action:意識のある溺者)を示す。Emergency Care(以下E.C)は12件、Preventive Action(以下P.A)は1,973件であった。

図3にE.C(意識なしの重溺者)の内訳(蘇生・死亡・不明)を示す。12件のE.Cのうち、9名が蘇生、3名が死亡であった。

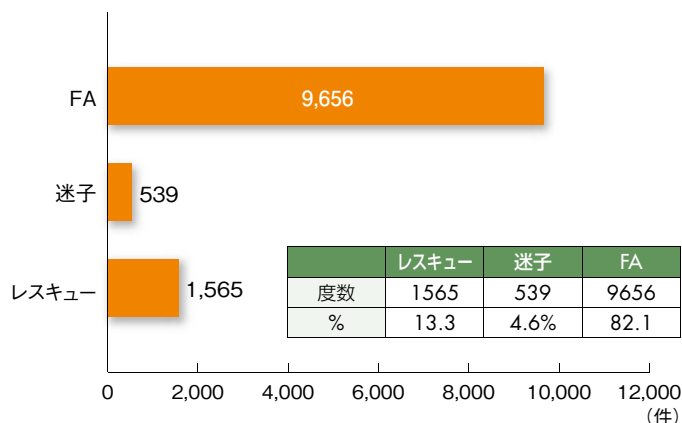


図1 パトロール中のアクシデント数

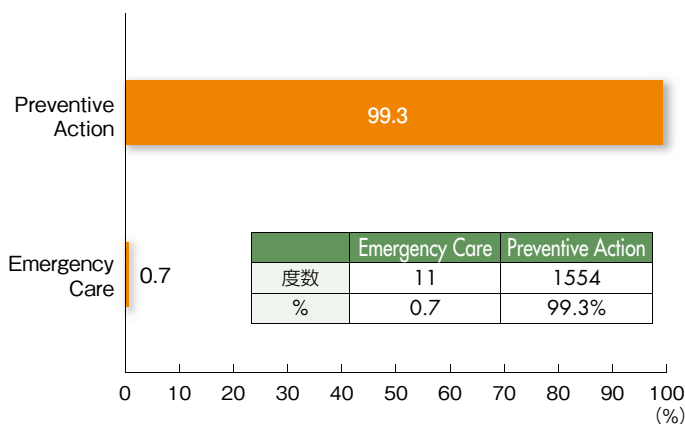


図2 レスキューの内訳

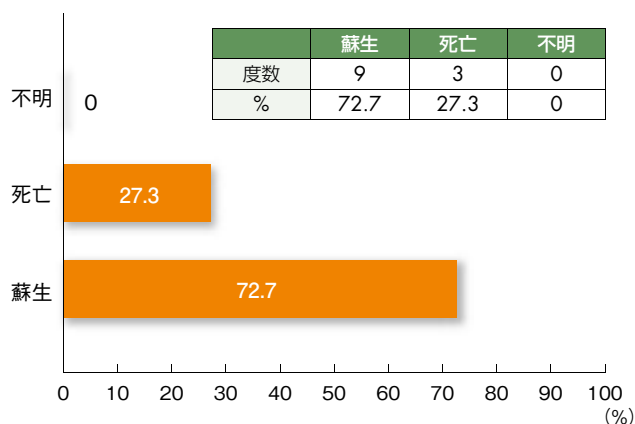
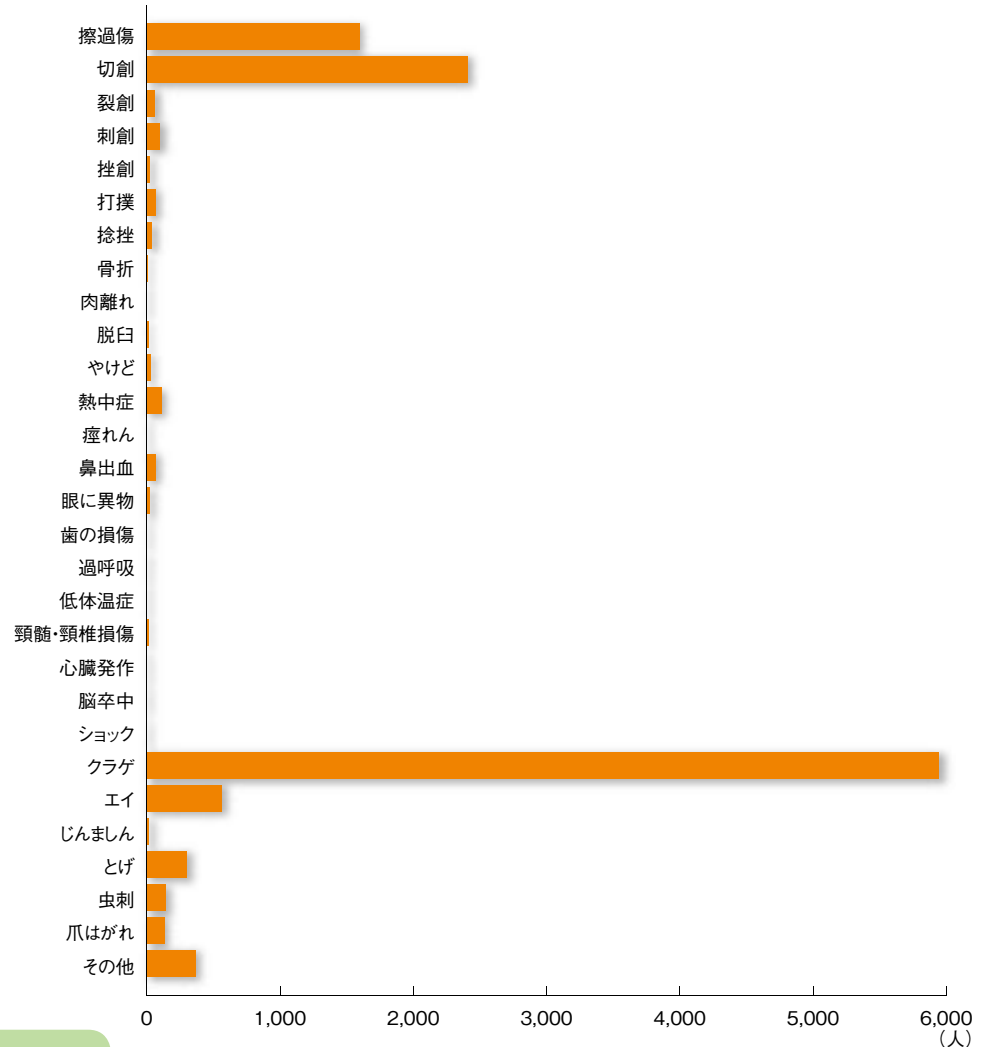


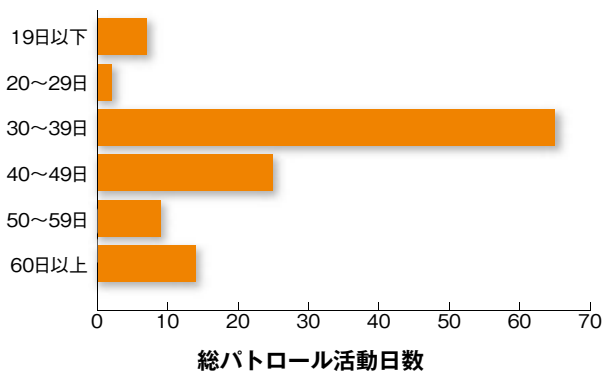
図3 Emergency Careの内訳

1.2 ファーストエイド概要

症状	人数
擦過傷 (人)	1,594
切創 (人)	2,410
裂創 (人)	58
刺創 (人)	98
挫創 (人)	19
打撲 (人)	66
捻挫 (人)	40
骨折 (人)	4
肉離れ (人)	1
脱臼 (人)	15
やけど (人)	28
熱中症 (人)	113
痺れん (人)	1
鼻出血 (人)	68
眼に異物 (人)	24
歯の損傷 (人)	1
過呼吸 (人)	2
低体温症 (人)	1
頸髄・頸椎損傷 (人)	12
心臓発作 (人)	0
脳卒中 (人)	0
ショック (人)	0
クラゲ (人)	5,941
エイ (人)	561
じんましん (人)	16
とげ (人)	299
虫刺 (人)	139
爪はがれ (人)	131
その他 (人)	366
総数 (人)	12,406

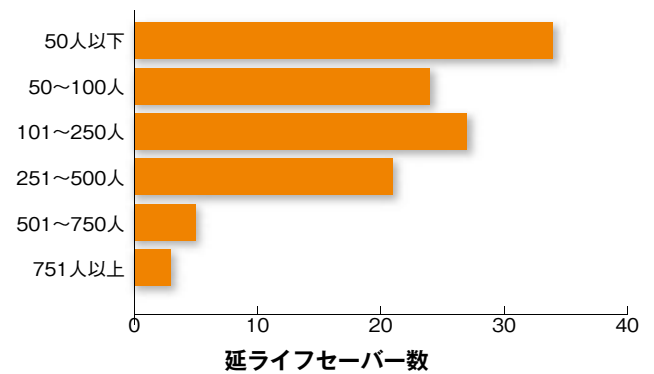


1.3 遊泳客数とライフセーバー数概要



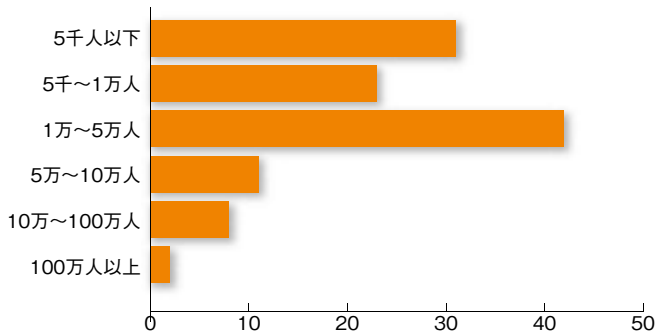
総パトロール活動日数				
	19日以下	20-29日	30-39日	40-49日
度数	7	2	65	25
頻度	5.7%	1.6%	53.3%	20.5%

	50-59日	60日以上	合計度数	総和
度数	9	14	122	4,824
頻度	7.4%	11.5%		



延ライフセーバー数				
	50人以下	50-100人	101-250人	251-500人
度数	34	24	28	22
頻度	28.8%	20.3%	23.7%	18.6%

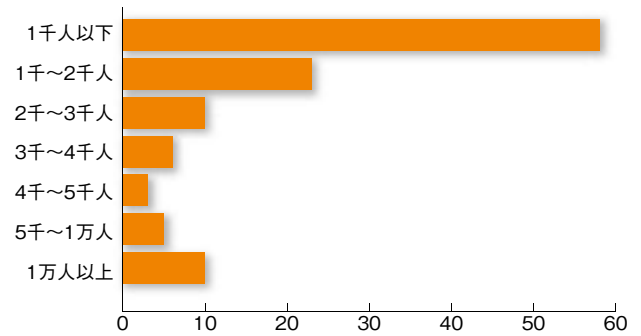
	501-750人	751人以上	合計度数	総和
度数	8	2	118	22,165
頻度	6.8%	1.7%		



遊泳客総入込数

遊泳客総入込数				
	5千人以下	5千~1万人	1万~5万人	5万~10万人
度数	31	23	42	11
頻度	26.5%	19.7%	35.9%	9.4%

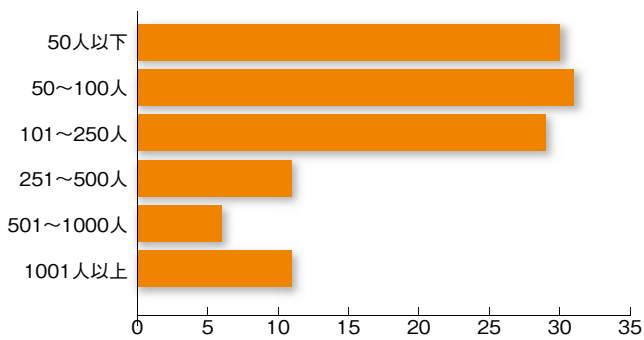
	10万~100万人	100万人以上	合計度数	総和
度数	8	2	117	7,737,376
頻度	6.8%	1.7%		



ピーク時の遊泳客総入込数

ピーク時の遊泳客総入込数					
	1千人以下	1千~2千人	2千~3千人	3千~4千人	4千~5千人
度数	58	25	10	7	3
頻度	48.7%	21.0%	8.4%	5.9%	2.5%

	5千~1万人	1万人以上	合計度数	総和
度数	5	11	119	539,229
頻度	4.2%	9.2%		

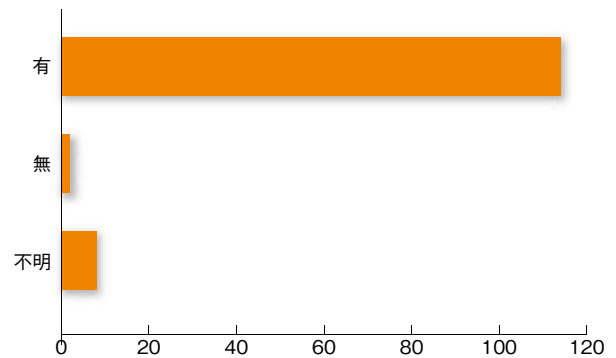


遊泳客総入込数/延べライフセーバー数

遊泳客総入込数/延べライフセーバー数				
	50人以下	50~100人	101~250人	251~500人
度数	30	31	29	11
頻度	25.4%	26.3%	24.6%	9.3%

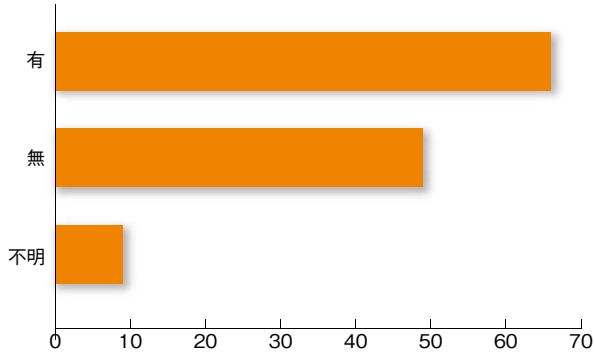
	501~1000人	1001人以上	合計度数
度数	6	11	118
頻度	5.1%	9.3%	

1.4 海水浴場について



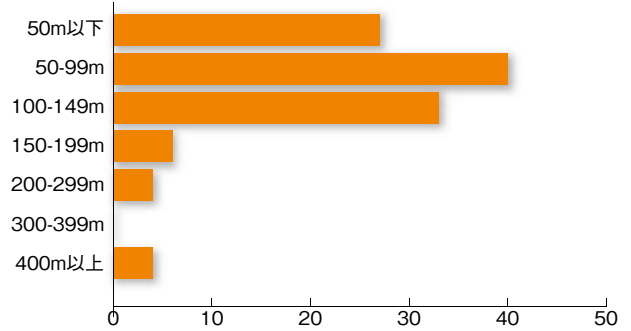
遊泳区域の有無

遊泳区域の有無				
	有	無	不明	合計度数
度数	114	2	8	124
頻度	91.9%	1.6%	6.5%	



遊泳区域の明示に旗の使用の有無

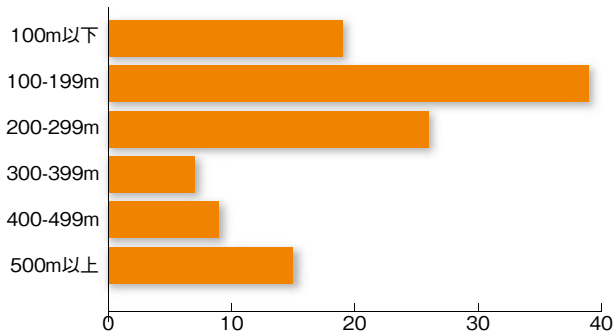
遊泳区域の明示に旗の使用の有無				
	有	無	不明	合計度数
度数	66	49	9	124
頻度	53.2%	39.5%	7.3%	0



遊泳区域の奥行き (縦の長さ) (m)

遊泳区域の奥行き (縦の長さ) (m)					
	50m以下	50-99m	100-149m	150-199m	200-299m
度数	27	40	33	6	4
頻度	23.7%	35.1%	28.9%	5.3%	3.5%

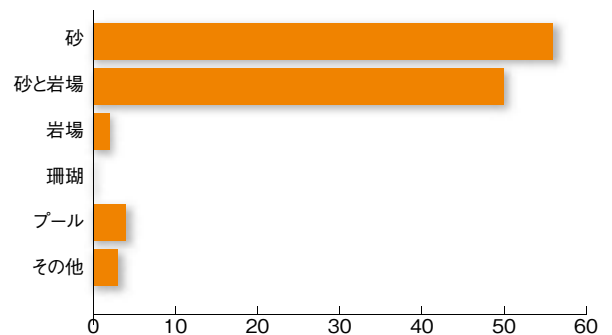
	300-399m	400m以上	合計度数	総和
度数	0	4	114	10,585
頻度	0.0%	3.5%		



遊泳区域の長さ (横の長さ) (m)

遊泳区域の長さ (横の長さ) (m)				
	100m以下	100-199m	200-299m	300-399m
度数	19	39	26	7
頻度	16.5%	33.9%	22.6%	6.1%

	400-499m	500m以上	合計度数	総和
度数	9	15	115	29,448
頻度	7.8%	13.0%		

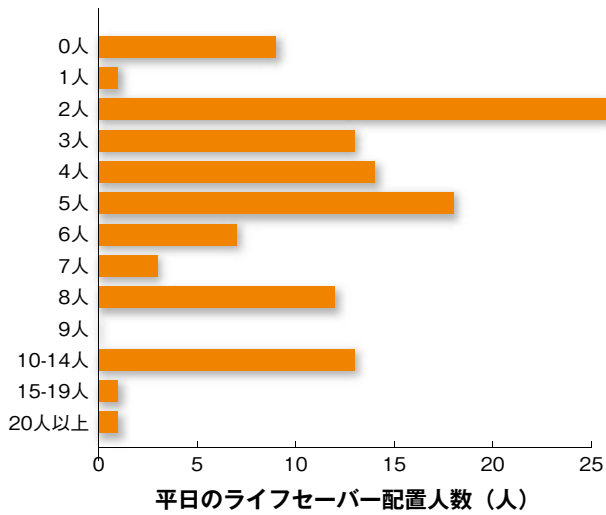


海水浴場のタイプ

海水浴場のタイプ				
	砂	砂と岩場	岩場	珊瑚
度数	58	51	2	0
頻度	49.2%	43.2%	1.7%	0.0%

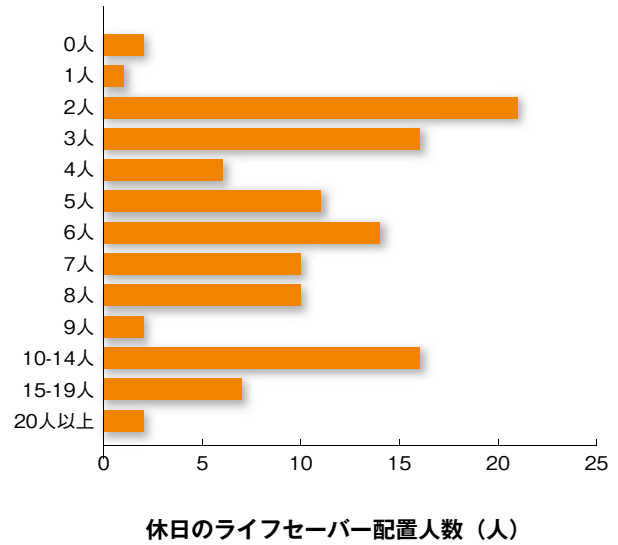
	プール	その他	合計度数
度数	4	3	118
頻度	3.4%	2.5%	

1.5 パトロール



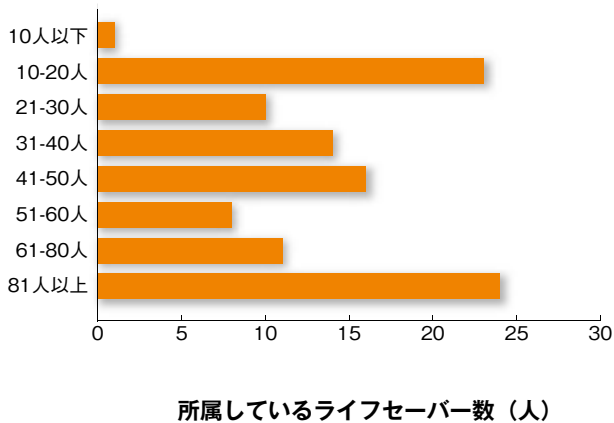
平日のライフセーバー配置人数 (人)							
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人
度数	9	1	26	13	14	18	7
頻度	7.6%	0.8%	22.0%	11.0%	11.9%	15.3%	5.9%

	7人	8人	9人	10-14人	15-19人	20人以上	合計度数
度数	3	12	0	13	1	1	118
頻度	2.5%	10.2%	0.0%	11.0%	0.8%	0.8%	



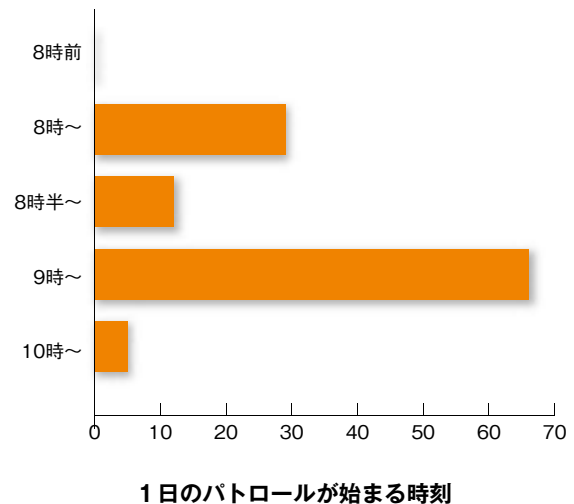
休日のライフセーバー配置人数 (人)							
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人
度数	2	1	21	16	6	11	14
頻度	1.7%	0.8%	17.8%	13.6%	5.1%	9.3%	11.9%

	7人	8人	9人	10-14人	15-19人	20人以上	合計度数
度数	10	10	2	16	7	2	118
頻度	8.5%	8.5%	1.7%	13.6%	5.9%	1.7%	

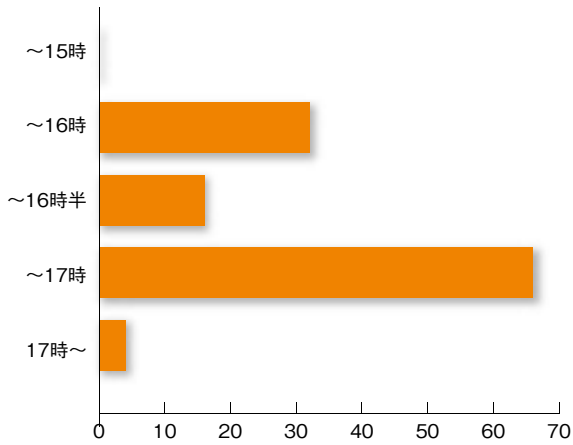


所属しているライフセーバー数 (人)					
	10人以下	10-20人	21-30人	31-40人	41-50人
度数	1	23	10	14	16
頻度	0.9%	21.5%	9.3%	13.1%	15.0%

	51-60人	61-80人	81人以上	合計度数
度数	8	11	24	107
頻度	7.5%	10.3%	22.4%	

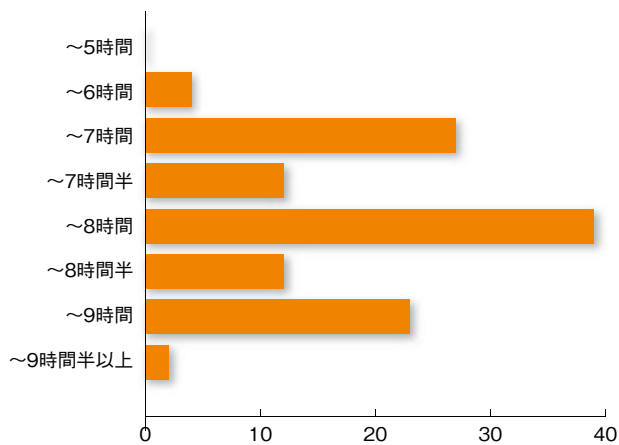


1日のパトロールが始まる時刻						
	8時前	8時～	8時半～	9時～	10時～	合計度数
度数	0	31	12	67	5	115
頻度	0.0%	27.0%	10.4%	58.3%	4.3%	



1日のパトロールが終わる時刻

1日のパトロールが始まる時刻						
	~15時	~16時	~16時半	~17時	17時~	合計度数
度数	0	32	16	66	4	
頻度	0.0%	27.1%	13.6%	55.9%	3.4%	

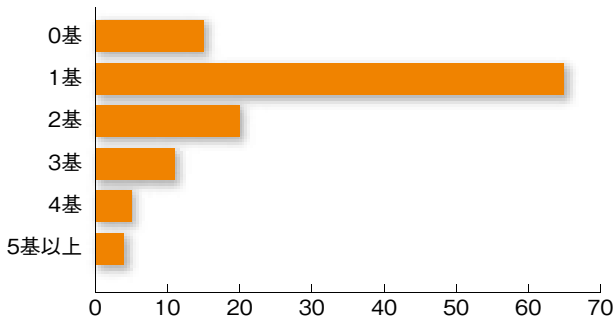


1日のパトロール時間

1日のパトロール時間						
	~5時間	~6時間	~7時間	~7時間半	~8時間	合計度数
度数	0	4	27	12	39	
頻度	0.0%	3.4%	22.7%	10.1%	32.8%	

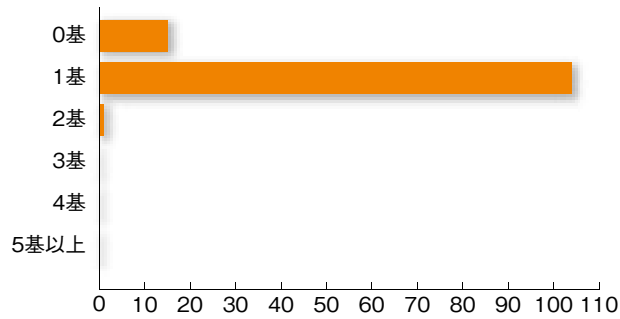
	~8時間半	~9時間	~9時間半以上	合計度数
度数	12	23	2	119
頻度	10.1%	19.3%	1.7%	

1.6 レスキュー器材



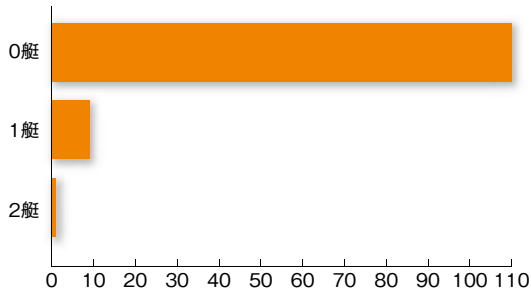
監視塔数 (基)

監視塔数 (基)							
	0基	1基	2基	3基	4基	5基以上	合計度数
度数	15	65	20	11	5	4	
頻度	12.5%	54.2%	16.7%	9.2%	4.2%	3.3%	



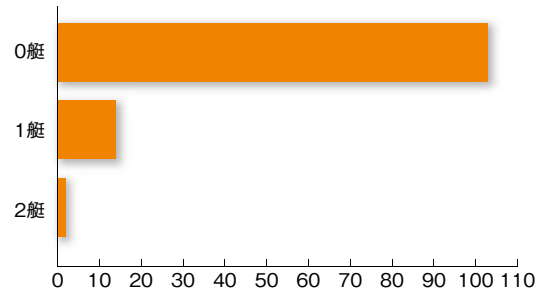
監視本部数 (基)

監視本部数 (基)							
	0基	1基	2基	3基	4基	5基以上	合計度数
度数	15	104	1	0	0	0	
頻度	12.5%	86.7%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	



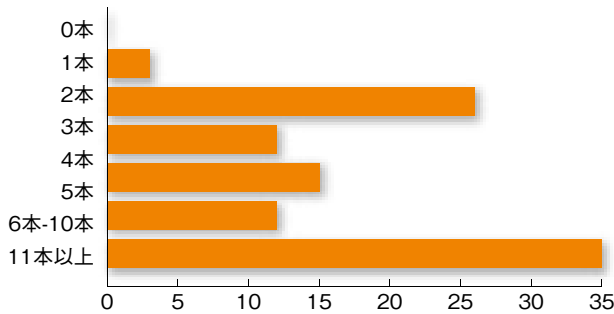
IRB 数 (艇)

IRB 数 (艇) IRB=レスキュー用ボート				
	0基	1基	2基	合計度数
度数	110	9	1	120
頻度	91.7%	7.5%	0.8%	



水上オートバイ数 (艇)

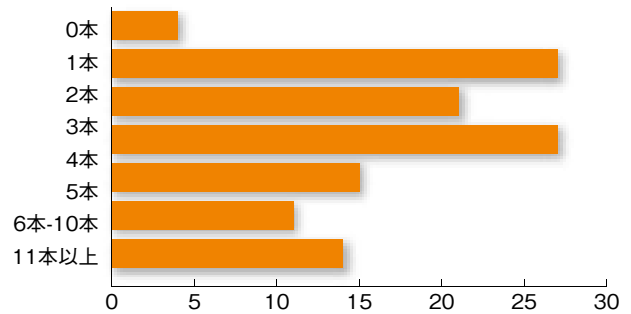
水上オートバイ数 (艇)				
	0基	1基	2基	合計度数
度数	103	14	2	119
頻度	86.6%	11.8%	1.7%	



レスキューチューブ数 (本)

レスキューチューブ数 (本)					
	0本	1本	2本	3本	4本
度数	0	3	26	12	15
頻度	0.0%	2.6%	22.4%	10.3%	12.9%

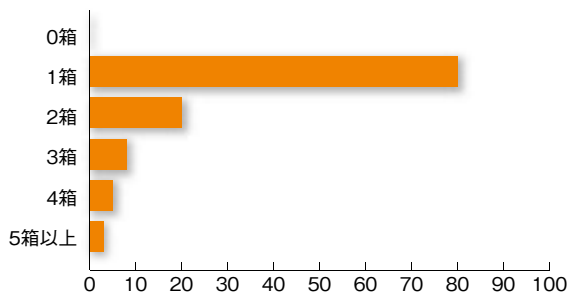
	5本	6本-10本	11本以上	合計度数
度数	12	35	13	116
頻度	10.3%	30.2%	11.2%	



レスキューボード数 (本)

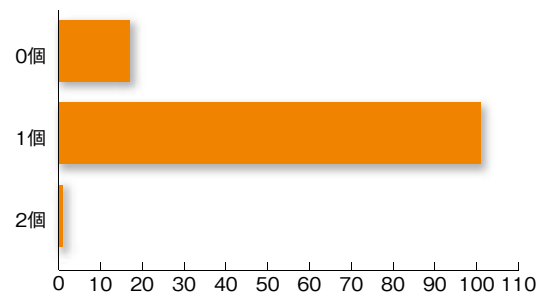
レスキューボード数 (本)				
	0本	1本	2本	3本
度数	4	27	21	27
頻度	3.4%	22.7%	17.6%	22.7%

	4本	5本	6本以上	合計度数
度数	15	11	14	119
頻度	12.6%	9.2%	11.8%	



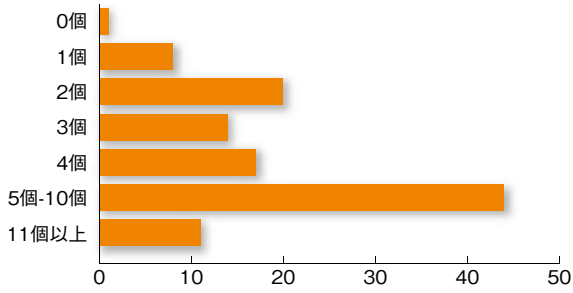
ファーストエイドボックス数 (箱)

ファーストエイドボックス数 (箱)							
	0箱	1箱	2箱	3箱	4箱	5箱以上	合計度数
度数	0	81	22	9	5	3	120
頻度	0.0%	67.5%	18.3%	7.5%	4.2%	2.5%	



AED-自動体外式除細動器 (個)

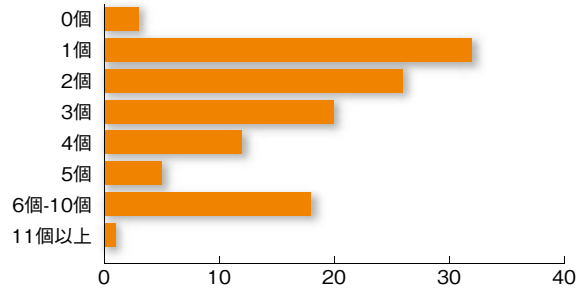
AED-自動体外式除細動器 (個)				
	0個	1個	2個	合計度数
度数	17	101	1	119
頻度	14.3%	84.9%	0.8%	



無線 (個)

無線 (個)				
	0 個	1 個	2 個	3 個
度数	1	8	20	14
頻度	0.9%	7.0%	17.4%	12.2%

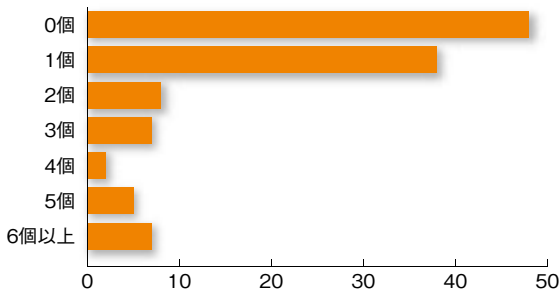
	4 個	5 個 - 10 個	11 個以上	合計度数
度数	17	44	11	115
頻度	14.8%	38.3%	9.6%	



双眼鏡 (個)

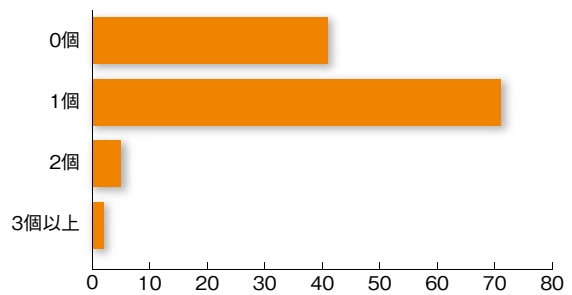
双眼鏡 (個)					
	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個
度数	3	32	26	20	12
頻度	2.6%	27.4%	22.2%	17.1%	10.3%

	5 個	6 個 - 10 個	11 個以上	合計度数
度数	5	18	1	117
頻度	4.3%	15.4%	0.9%	



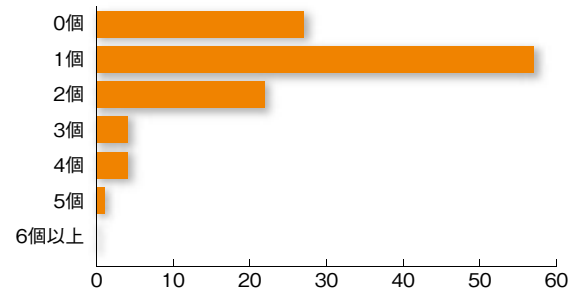
バッグ・バルブ・マスク (個)

バッグ・バルブ・マスク (個)								
	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個	5 個	6 個以上	合計度数
度数	48	40	9	7	3	5	7	119
頻度	40.3%	33.6%	7.6%	5.9%	2.5%	4.2%	5.9%	



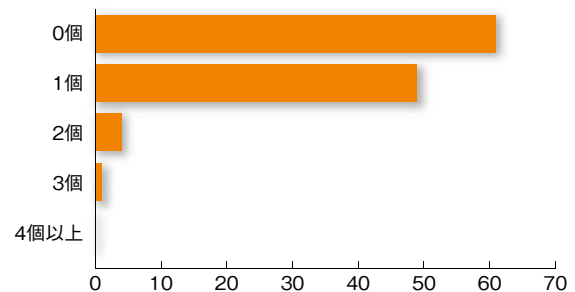
頸椎用バックボード (個)

頸椎用バックボード (個)					
	0 個	1 個	2 個	3 個以上	合計度数
度数	41	71	5	2	119
頻度	34.5%	59.7%	4.2%	1.7%	



頸椎カラー (個)

頸椎カラー (個)								
	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個	5 個	6 個以上	合計度数
度数	30	58	22	4	4	1	0	119
頻度	25.2%	48.7%	18.5%	3.4%	3.4%	0.8%	0.0%	



傷病者運搬用担架 (個)

傷病者運搬用担架 (個)						
	0 個	1 個	2 個	3 個	4 個以上	合計度数
度数	61	51	5	2	0	119
頻度	51.3%	42.9%	4.2%	1.7%	0.0%	

2. レスキューレポート

協会に6件のCPR施行症例詳細報告があった。

	傷病者情報		天気	風力	波高	海水浴場	LS数	溺者発見時間・場所		溺者発生地点	水深m	目撃	バイスタンダー	CPR概要	ショック	その他	
	年齢	性別		m/s	m	利用者数		監視時間	監視エリア	波打ち際よりの距離m			CPR	AED使用		胃内容逆流	飲酒有無
1	27	男	晴れ	4	0.6	250	7	時間外	記載なし	記載なし	記載なし	なし	あり (消防士)	あり	適応外	あり	あり
2	75	男	晴れ	3	0.1	20	3	時間内	エリア内	1	0.5	なし	なし	あり	適応外	記載なし	記載なし
3	46	女	晴れ	2	1	10,000	6	時間内	エリア外	0	0	なし	あり (一般市民)	あり	適応外	記載なし	なし
4	40代	男	晴れ	5	1	5,000	6	時間内	エリア内	15	1.5	あり	あり (消防士)	あり	適応外	なし	あり
5	36	女	晴れ	2	0.2	10,000	6	時間内	エリア内	50	1.5	なし	なし	あり	適応外	あり	あり
6	59	男	晴れ	6	0.3	1,500	7	時間内	エリア内	20	0.7	なし	なし	あり	適応外	あり	あり

▶協会報告のあった6件のCPR施行症例の解析

JLA救急蘇生委員会/中川儀英委員長

- 傷病者:年齢27歳から75歳まで。男性4、女性2
海水浴場を訪れるあらゆる年齢層に分布していた。
- 気象:全て晴れ、風力2~6m、波高0.2~1.0m
- 海水浴場の利用者数:ライフセーバー数7人~1667人。
単純にライフセーバー1人が見る利用者数について考えると、やはり大変な数の利用者を担当することになるという。
- 溺者発生:監視業務時間内5、監視エリア内4。監視時間内、エリア内に事故が多く発生しているのが特徴的である。
- 溺者発見場所:波打ち際での発見から沖50mまで、水深は0~1.5mまでの場所で発生。波打ち際でも心停止が発生している。
- 目撃の有無:目撃があったのは1例のみで、他はすべて目撃者が無い。たとえ監視時間内、エリア内であっても、一般の利用者に発見されることも難しい。しかしながら目撃のあった1例は、直ちに蘇生処置が施行され、唯一の心拍再開例となる。一般的に目撃者があれば、心拍再開の可能性は高くなる。
- バイスタンダー:CPRは3例、うち2例はたまたま居合わせた消防士
- CPR:6例全てに行われている。AEDは6例全てに使用された。心電図解析は全てショック適応外。
- 胃内容逆流:少なくとも3例(記載なし2例)で、CPR中に胃内容逆流が起きている。溺水の場合は、胃内容物逆流はあるものとして、シミュレーション行うなど対策が必要。
- 飲酒:飲酒は少なくとも4例。海水浴場での飲酒は高頻度である。



Section 3

競技結果

—公式競技会大会結果—

▶ 第25回 全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

開催日:2012年5月19日(土)・20日(日) 場所:横浜国際プール(神奈川県横浜市) 参加数:45チーム548名

個人種目競技結果

男子

■ 200m 障害物スイム

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	前田 健輔	西浜SLSC	2:02.86
2	菊地 光	日本大学SLSC	2:05.80
3	遠藤 雅	柏崎LSC	2:06.51
4	石川 直人	九十九里LSC	2:07.23
5	金丸 大将	早稲田大学LSC	2:11.08
6	高橋 洋平	西浜SLSC	2:13.71
7	大出 旭	流通経済大学	2:13.99
8	廣重健太郎	波崎SLSC	2:14.08

■ 50m マネキンキャリー

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	清水 雅也	館山SLSC	32.13
2	中本 直也	拓殖大学LSC	33.31
3	山本 晴基	館山SLSC	33.35
4	田村 憲章	銚子LC	33.50
5	佐藤光太郎	東海大学湘南	35.30
6	楠本 慶明	勝浦LSC	35.60
7	橋本 将吾	拓殖大学LSC	35.68
8	鈴木 健一	日本体育大学	36.40

■ 100m レスキューメドレー

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	加藤 凌	早稲田大学LSC	1:09.30
2	荻本 康隆	波崎SLSC	1:10.18
3	前田 健輔	西浜SLSC	1:10.19
4	益子 進一	九十九里LSC	1:10.31
5	橋本 将吾	拓殖大学LSC	1:12.12
6	菅沼 寛也	下田LSC	1:12.73
7	佐藤光太郎	東海大学湘南	1:13.47
8	中島 章	新島LSC	1:14.52

■ 100m マネキンキャリー・ウィズフィン

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	西山 俊	湯河原LSC	52.55
2	菊地 光	日本大学SLSC	54.00
3	楠本 慶明	勝浦LSC	55.94
4	多田 創一	玉川大学LSC	56.46
5	高橋 徹	和田浦LSC	57.56
6	大谷翔一郎	流通経済大学	58.90
7	牧口 航平	柏崎LSC	58.98
8	園田 俊	流通経済大学	1:00.20

■ 100m マネキントウ・ウィズフィン

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	鈴木 陵平	館山SLSC	57.61
2	長竹 康介	西浜SLSC	59.02
3	中野 達矢	日本体育大学	59.18
4	中村 公彦	大竹SLSC	59.68
5	小出 大祐	東京消防庁LSC	1:00.73
6	小林 海	西浜SLSC	1:01.79
7	深井 俊光	湯河原LSC	1:01.96
8	荒井 洋佑	西浜SLSC	1:02.05

女子

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	坂本佳凧子	西浜SLSC	2:16.91
2	栗真 千里	日本体育大学	2:21.70
3	河田 聖良	館山SLSC	2:22.89
4	平野 夏実	東海大学湘南	2:25.44
5	竹内 芽衣	早稲田大学LSC	2:26.45
6	内藤由里恵	日本大学SLSC	2:27.05
7	清水 友紀	日本大学SLSC	2:27.09
8	古泉 祥乃	日本女体大学	2:29.15

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	毛利 邦	館山SLSC	38.67
2	佐伯 芽維	白浜LSC	40.38
3	坂本佳凧子	西浜SLSC	41.41
4	名須川紗綾	茅ヶ崎SLSC	41.58
5	藤原 梢	館山SLSC	43.43
6	勝俣 閑	西浜SLSC	44.51
7	宮川 梨奈	日本大学SLSC	45.40
8	原田 香菜	下田LSC	45.44

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	毛利 邦	館山SLSC	1:18.17
2	三井結里花	日本大学SLSC	1:19.35
3	栗真 千里	日本体育大学	1:22.23
4	本城 里華	日本体育大学	1:27.31
5	大淵真理子	日本女体大学	1:29.47
6	仲 麻利	玉川大学LSC	1:30.42
7	越中 万智	九十九里LSC	1:31.73
8	田中 史織	日本体育大学	1:34.35

順位	競技者氏名	チーム名	記録
1	水間 菜登	勝浦LSC	1:07.94
2	小林 夏実	日本体育大学	1:08.42
3	速水 愛	柏崎LSC	1:08.80
4	神村 美咲	日本女体大学	1:09.79
5	我妻 瑞穂	東京女体大学	1:10.20
6	大塚 彩加	東海大学湘南	1:12.56
7	高橋 愛海	西浜SLSC	1:14.02
8	渡邊 来美	日本体育大学	1:14.64

順位	競技者氏名	チーム名	記録
日本新 1	水間 菜登	勝浦LSC	1:05.80
2	名須川紗綾	茅ヶ崎SLSC	1:08.65
3	高橋 愛海	西浜SLSC	1:09.23
4	佐藤 亜耶	日本体育大学	1:10.38
5	高橋 志穂	柏崎LSC	1:11.26
6	原田 香菜	下田LSC	1:11.31
7	上村 真央	御宿LSC	1:11.45
8	平野 夏実	東海大学湘南	1:12.06

男子

■ 200m スーパーライフセーバー

順位	選手名	チーム名	記録
日本新	1 清水 雅也	館山SLSC	2:24.00
	2 加藤 凌	早稲田大学LSC	2:28.40
	3 伊藤 俊輔	館山SLSC	2:29.95
	4 長竹 康介	西浜SLSC	2:32.24
	5 林 昌広	御宿LSC	2:34.92
	6 瀧川 隆史	東海大学湘南	2:38.91
	7 大出 旭	流通経済大学	2:39.06
	8 西條 友昭	順天堂大学LSC	2:46.35

■ 4×50m 障害物リレー

順位	チーム名	記録
大会新	1 日本大学SLSC	1:46.76
大会新	2 館山SLSC	1:46.80
	3 波崎SLSC	1:48.28
	4 西浜SLSC	1:49.23
	5 日本体育大学	1:50.88
	6 柏崎LSC	1:52.66
	7 早稲田大学LSC	1:52.69
	8 勝浦LSC	1:54.32

■ 4×25m マネキンリレー

順位	チーム名	記録
日本新	1 館山SLSC	1:17.39
	2 東京消防庁LSC	1:30.18
	3 流通経済大学	1:33.43
	4 下田LSC	1:42.79
	5 成城学園LSC	1:54.92

■ 4×50m メドレーリレー

順位	チーム名	記録
1	館山SLSC	1:38.12
2	日本大学SLSC	1:38.59
3	東京消防庁LSC	1:38.97
4	九十九里LSC	1:40.74
5	東海大学湘南	1:41.73
6	流通経済大学	1:43.98

■ ラインスロー

順位	チーム名	記録
1	流通経済大学	12.22
2	日本体育大学	13.39
3	玉川大学LSC	13.93
4	新島LSC	14.24
5	明治大学SLSC	16.54
6	帝京大学LSC	19.93
7	パディ冒険団	20.16
8	成蹊大学LSC	20.51

女子

順位	選手名	チーム名	記録
1	三井結里花	日本大学SLSC	2:39.21
2	佐伯 芽維	白浜LSC	2:40.98
3	宮田 沙依	日本体育大学	2:48.03
4	江部愛理菜	日本体育大学	2:51.11
5	山口 夏未	日本体育大学	2:59.29
6	田村 理	日本女体大学	3:01.05
7	大淵真理子	日本女体大学	3:01.14
8	小出 絵未	東京女体大学	3:01.41

順位	チーム名	記録
1	館山SLSC	2:04.31
2	日本体育大学	2:04.34
3	日本大学SLSC	2:06.36
4	日本女体大学	2:09.73
5	西浜SLSC	2:10.55
6	東海大学湘南	2:11.91
7	早稲田大学LSC	2:13.07
8	東京女体大学	2:16.40

順位	チーム名	記録
1	日本大学SLSC	1:38.21
2	日本女体大学	1:53.58
3	流通経済大学	1:56.24
4	早稲田大学LSC	1:56.71
5	東京女体大学	1:58.30
6	下田LSC	1:58.67
7	東海大学湘南	1:59.09
8	銚子LC	2:07.27

順位	チーム名	記録
1	日本体育大学	1:51.62
2	西浜SLSC	1:53.63
3	日本大学SLSC	1:54.31
4	館山SLSC	1:55.76
5	日本女体大学	1:56.48
6	東海大学湘南	1:59.49
7	柏崎LSC	2:04.51
8	下田LSC	2:04.57

順位	チーム名	記録
1	東海大学湘南	15.58
2	国土館大学LSC	20.19
3	早稲田大学LSC	20.92
4	拓殖大学LSC	21.47
5	大竹SLSC	22.64
6	西浜SLSC	27.41
7	勝浦LSC	33.78
8	帝京大学LSC	38.31

■ 男女SERC

順位	チーム名	記録
1	西浜SLSC	222
2	東京消防庁LSC	201
3	流通経済大学	192
4	下田LSC	188
4	日本女体大学	184
6	日本体育大学	179
6	銚子LC	177
8	和田浦LSC	169

チーム総合成績

順位	チーム名	記録
1	館山SLSC	98
2	西浜SLSC	85
3	日本体育大学LSC	83
4	日本大学SLSC	71
5	早稲田大学LSC	38
6	東海大学湘南校舎LSC	38
7	流通経済大学LSC	37
8	日本女子体育大学LSC	35
9	勝浦LSC	28
10	東京消防庁LSC	24
11	柏崎LSC	23
12	下田LSC	21
13	拓殖大学LSC	18
14	九十九里LSC	17
15	白浜LSC	14
16	波崎SLSC	14
17	玉川大学LSC	14
18	東京女子体育大学LSC	10

順位	チーム名	記録
19	大竹SLSC	9
20	銚子LSC	8
21	国士館大学LSC	7
22	新島LSC	6
23	和田浦LSC	5
24	成城学園LSC	4
25	明治大学SLSC	4
26	順天堂大学LSC	1
27	愛知LSC	0
27	青山学院大学SLSC	0
27	大洗SLSC	0
27	大阪体育大学LSC	0
27	三多摩LSC	0
27	昭和第一学園高等学校LSC	0
27	専修大学SLSC	0
27	東海大学清水校舎LSC	0
27	法政大学SLSC	0

同得点チームの順位は、各競技の上位入賞数の違いによる。

▶ 第25回 全日本ライフセービング種目別選手権大会

開催日:2012年6月9日(土)・10日(日) 場所:柏崎中央海岸(新潟県柏崎市) 参加数:52チーム538名

個人種目

男子

■サーフレース

順位	選手名	チーム名
1	清水 雅也	拓殖大学ライフセービングクラブ
2	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
3	鈴木 陵平	館山サーフライフセービングクラブ
4	菊地 光	日本大学サーフライフセービングクラブ
5	石川 直人	神奈川大学ライフセービングクラブ
6	中本 直也	拓殖大学ライフセービングクラブ
7	遠藤 望	柏崎ライフセービングクラブ
8	伊藤 俊輔	館山サーフライフセービングクラブ

女子

順位	選手名	チーム名
1	毛利 邦	館山サーフライフセービングクラブ
2	坂本 佳凧子	西浜サーフライフセービングクラブ
3	栗真 千里	日本体育大学ライフセービングクラブ
4	越中 万智	九十九里ライフセービングクラブ
5	古泉 祥乃	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
6	三井 結里花	日本大学サーフライフセービングクラブ
7	水間 菜登	勝浦ライフセービングクラブ
8	張間 優	順天堂大学ライフセービングクラブ

■サーフスキーレース

順位	選手名	チーム名
1	松沢 齊	下田ライフセービングクラブ
2	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
3	篠田 智哉	勝浦ライフセービングクラブ
4	後関 裕輔	東京消防庁ライフセービングクラブ
5	池脇 良	下田ライフセービングクラブ
6	鈴木 祐輔	湯河原ライフセービングクラブ
7	出木谷 啓太	九十九里ライフセービングクラブ
8	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
2	小松崎あゆみ	下田ライフセービングクラブ
3	猪又 美佳	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
4	伊藤 みつる	勝浦ライフセービングクラブ
5	堀内 敦子	下田ライフセービングクラブ
6	星野 有美	用宗ライフセービングクラブ
7	久保 美沙代	和田浦ライフセービングクラブ
8	藤井 香織	横浜海の公園ライフセービングクラブ

■ボードレース

順位	選手名	チーム名
1	荒井 洋佑	西浜サーフライフセービングクラブ
2	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
3	小出 大祐	東京消防庁ライフセービングクラブ
4	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ
5	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
6	坂本 陸	西浜サーフライフセービングクラブ
7	小林 海	西浜サーフライフセービングクラブ
8	田島 亮	法政大学サーフライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	水間 菜登	勝浦ライフセービングクラブ
2	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
3	河崎 綾子	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
4	坂本 佳凧子	西浜サーフライフセービングクラブ
5	田中 亜由美	日本体育大学ライフセービングクラブ
6	名須川 紗綾	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
7	及川 舞	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
8	河本 桂奈	成城学園ライフセービング部

■オーシャンマン

順位	選手名	チーム名
1	西山 俊	湯河原ライフセービングクラブ
2	落合 慶二	東京消防庁ライフセービングクラブ
3	長竹 康介	西浜サーフライフセービングクラブ
4	三木 翔平	神奈川大学ライフセービングクラブ
5	菅沼 寛也	下田ライフセービングクラブ
6	下平 亮輔	成城学園ライフセービング部
7	相島 千尋	波崎サーフライフセービングクラブ
8	加藤 凌	早稲田ライフセービングクラブ

■オーシャンウーマン

順位	選手名	チーム名
1	河崎 綾子	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
2	森山 瞳	波崎サーフライフセービングクラブ
3	上村 真央	拓殖大学ライフセービングクラブ
4	藤井 香織	横浜海の公園ライフセービングクラブ
5	栗真 千里	日本体育大学ライフセービングクラブ
6	毛利 邦	館山サーフライフセービングクラブ
7	名須川 紗綾	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
8	宮田 沙依	日本体育大学ライフセービングクラブ

■ビーチフラッグス

順位	選手名	チーム名
1	植木 将人	西浜サーフライフセービングクラブ
2	北矢 宗志	西浜サーフライフセービングクラブ
3	田中 翔太	勝浦ライフセービングクラブ
4	小田切 伸矢	西浜サーフライフセービングクラブ
5	安達 和也	流通経済大学ライフセービングクラブ
6	竹澤 康輝	勝浦ライフセービングクラブ
7	沖野 淳平	日本体育大学ライフセービングクラブ
8	高宮 啓司	東京消防庁ライフセービングクラブ

順位	選手名	チーム名
1	藤原 梢	館山サーフライフセービングクラブ
2	秋川 知恵子	大洗サーフライフセービングクラブ
3	藤浪 優希	勝浦ライフセービングクラブ
4	小室 亜希	スポーツブレックスライフセービングクラブ
5	桜井 亜矢子	銚子ライフセービングクラブ
6	渡辺 夏海	土肥ライフセービングクラブ
7	田中 和	横浜海の公園ライフセービングクラブ
8	池田 愛美	東京女子体育大学ライフセービングクラブ

男子

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	チーム名
1	浅見 泰希	東京消防庁ライフセービングクラブ
2	神戸 浩樹	日本体育大学ライフセービングクラブ
3	新 涼太	明治サーフライフセービングクラブ
4	橋本 憲治	式根島ライフセービングクラブ
5	笹本 和人	法政大学サーフライフセービングクラブ

女子

順位	選手名	チーム名
1	松山 梨紗	東京女子体育大学ライフセービングクラブ
2	河本 桂奈	成城学園ライフセービング部
3	鈴木 さゆり	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
4	小林 亜美	順天堂大学ライフセービングクラブ
5	仲野 亜紗子	日本女子体育大学ライフセービングクラブ
6	荻野 有子	下田ライフセービングクラブ
7	小野 英理子	銚子ライフセービングクラブ
8	馬場 美咲季	勝浦ライフセービングクラブ

チーム種目

■ オーシャンマンリレー

順位	チーム名	選手名
1	下田ライフセービングクラブ	新井 正徳/松沢 斉/小林 孝一郎/加賀田 哲也
2	西浜サーフライフセービングクラブ	荒井 洋佑/長竹 康介/坂本 陸/北矢 宗志
3	勝浦ライフセービングクラブ	加藤 拓馬/篠田 智哉/楠本 慶明/中村 誠
4	東京消防庁ライフセービングクラブ	小出 大祐/後関 裕輔/落合 慶二/高宮 啓司
5	日本体育大学ライフセービングクラブ	澤田 翼/小山 浩一郎/中野 達矢/井口 裕太
6	国土館大学ライフセービングクラブ	小山 大志/野林 宏輝/杉山 朋大/高岡 洋介
7	館山サーフライフセービングクラブ	伊藤 俊輔/佐藤 和伯/鈴木 陵平/伊藤 孝彦
8	銚子ライフセービングクラブ	浅見 雄一郎/田村 憲章/田中 翔/三嶋 唯之

■ オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名	選手名
1	勝浦ライフセービングクラブ	水間 菜愉/伊藤 みつる/水間 菜登/藤浪 優希
2	西浜サーフライフセービングクラブ	坂本 佳凧子/今井 恵子/皆川 綾菜/神戸 友美
3	日本体育大学ライフセービングクラブ	田中 亜由美/宮田 沙依/山口 夏未/栗真 千里
4	下田ライフセービングクラブ	小松崎 あゆみ/堀内 敦子/荻野 有子/宮原 千明
5	館山サーフライフセービングクラブ	間藤 里絵/堤 容子/毛利 邦/藤原 梢
6	日本女子体育大学ライフセービングクラブ	及川 舞/松浦 由依/古泉 祥乃/金坂 佳瑛
7	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ	大塚 彩加/河崎 綾子/篠岡 桂子/青海 佳奈
8	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	名須川 紗綾/猪又 美佳/下里 彩佳/三浦 梨奈

▶ 第9回 ジュニア・ライフセービング競技会

開催日:2012年9月2日(日) 場所:片瀬東浜海岸/腰越海岸(神奈川県藤沢市/鎌倉市) 参加数:ジュニア 28チーム197名

個人種目

■ ランスイムラン(小学生3・4年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	志賀 海征	西浜SLSC
2	進士 昂	下田LSC
3	高橋 奈子	下田LSC

■ ランスイムラン(小学生5・6年生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	深沢 大和	世田谷スイミングアカデミー
2	板場 貴大	世田谷スイミングアカデミー
3	芳賀 裕真	山形LSC

■ ランスイムラン(小学生5・6年生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	南澤 乃綾	湯河原LSC
2	土屋 真妃瑠	下田LSC
3	桑原 菜緒	チームうみがめ

■ ニッパーボードレース(小学生3・4年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	志賀 海征	西浜SLSC
2	江田 望実	下田LSC
3	遠藤 海七希	パディ冒険団

■ ニッパーボードレース(小学生5・6年生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	清水 洸建	下田LSC
2	クレイ アーロン 竜波	西浜SLSC
3	小又 忠士	二宮LSC

■ ニッパーボードレース(小学生5・6年生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	土屋 真妃瑠	下田LSC
2	室伏 郁花	湯河原LSC
3	南澤 乃綾	湯河原LSC

■ ビーチフラッグス(小学生1、2年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	新井 颯太	横浜市立磯子小学校
2	ランブル オリオン	鎌倉LG
3	堀江 空希	館山SLSC

■ ビーチフラッグス(小学生3、4年生 男女)

順位	選手名	チーム名
1	クレイ コナ 大波	西浜SLSC
2	福島 勝太	千葉県佐倉市立内郷小学校
3	志賀 海征	西浜SLSC

■ ビーチフラッグス(小学生5・6年生 男子)

順位	選手名	チーム名
1	笹本 裕太	下田LSC
2	クレイ アーロン 竜波	西浜SLSC
3	千田 知明	盛岡LSC

■ ビーチフラッグス(小学生5・6年生 女子)

順位	選手名	チーム名
1	南澤 乃綾	湯河原LSC
2	深作 落	湘南ひらつかLSCヒラッパーズ
3	山下 友楽	オーシャンファミリー・葉山海洋スポーツ塾

チーム種目

■ スイムリレー(ジュニア男女)

順位	チーム名
1	世田谷スイミングアカデミー
2	山形LSC
3	館山SLSC

▶ 第4回 JLA Classic

開催日:2012年9月2日(日) 場所:片瀬東浜海岸/腰越海岸(神奈川県藤沢市/鎌倉市) 参加数:クラシック 8チーム41名

個人種目

男子

■ ランスイムラン(クラシック男子)

順位	選手名	チーム名
1	青木 克浩	柏崎SLSC
2	岸田 健	サーフ90茅ヶ崎LSC
3	大西 明	東海大学湘南校舎LSCOB会

■ ビーチフラッグス(クラシック 男子)

順位	選手名	チーム名
1	岸 由紀夫	日本体育大学LSCOB
2	池内 秀文	サーフ90茅ヶ崎LSC
3	石川 智也	館山SLSC

■ サーフスキーレース(クラシック 男子)

順位	選手名	チーム名
1	大西 明	東海大学湘南校舎LSCOB会
2	今村 直樹	TIDEPOOL
3	佐藤 和伯	館山SLSC

女子

■ ランスイムラン(クラシック女子)

順位	選手名	チーム名
1	佐藤 文机子	稲毛LSC
2	堤 容子	館山SLSC
3	篠田 敦子	館山SLSC

■ ビーチフラッグス(クラシック 女子)

順位	選手名	チーム名
1	福島 恵里	
2	津嶋 貴子	館山SLSC
3	和田 弘子	西浜SLSC

■ サーフスキーレース(クラシック 女子)

順位	選手名	チーム名
1	佐藤 文机子	稲毛LSC
2	篠田 敦子	館山SLSC

チーム種目

■ スイムリレー(クラシック男女)

順位	チーム名
1	館山SLSC男子
2	西浜SLSC
3	鎌倉LG

■ レスキューボードリレー(クラシック男女)

順位	チーム名
1	館山SLSC男子
2	サーフ90茅ヶ崎LSC
3	西浜SLSC

▶ 第27回 全日本学生ライフセービング選手権大会

開催日:2012年9月22日(土)・23日(日) 場所:御宿中央海岸(千葉県御宿町) 参加数:39チーム596名

個人種目

男子

■ サーフレース

順位	選手名	チーム名
1	菊地 光	日本大学
2	石川 直人	神奈川大学
3	丸橋 侑生	法政大学
4	中本 直也	拓殖大学
5	金丸 大将	早稲田大学
6	小川原 亮	早稲田大学
7	坂本 陸	日本体育大学
8	橋本 将吾	拓殖大学

■ サーフスキーレース

順位	選手名	チーム名
1	高橋 宗冲	東海大学海洋学部
2	加藤 凌	早稲田大学
3	菊池 智輝	国際武道大学
4	菊地 光	日本大学
5	楠本 慶明	国際武道大学
6	古谷 淳一	順天堂大学
7	坂本 陸	日本体育大学
8	石川 直人	神奈川大学

■ オーシャンマン/オーシャンウーマン

順位	選手名	チーム名
1	菊地 光	日本大学
2	加藤 凌	早稲田大学
3	園田 俊	流通経済大学
4	石川 直人	神奈川大学
5	坂本 陸	日本体育大学
6	楠本 慶明	国際武道大学
7	高岡 洋介	国土館大学
8	西條 友昭	順天堂大学

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	チーム名
1	竹澤 康輝	国際武道大学
2	岡田 浩平	中京大学
3	坂田 郷	神奈川大学
4	沖野 淳平	日本体育大学
5	石橋 拓土	東海大学湘南校舎
6	望月 龍之介	順天堂大学
7	加藤 隆太	法政大学
8	和田 淳資	大阪体育大学

■ ビーチスプリント

順位	選手名	チーム名
1	岩井 大地	東海大学湘南校舎
2	岡田 浩平	中京大学
3	石井 雄大	日本体育大学
4	石井 颯	法政大学
5	安達 和也	流通経済大学
6	佐野 太郎	成城大学
7	望月 龍之介	順天堂大学
8	森 新太郎	日本体育大学

女子

順位	選手名	チーム名
1	栗真 千里	日本体育大学
2	三井 結里花	日本大学
3	古泉 祥乃	日本女子体育大学
4	平野 夏海	東海大学湘南校舎
5	木下 瑛理子	日本大学
6	清水 友紀	日本大学
7	山口 夏未	日本体育大学
8	越中 万智	和洋女子大学

順位	選手名	チーム名
1	名須川 紗綾	文教大学
2	三井 結里花	日本大学
3	大塚 彩加	東海大学湘南校舎
4	河本 桂奈	成城大学
5	松浦 由依	日本女子体育大学
6	竹村 望	筑波大学
7	宮田 沙衣	日本体育大学
8	笹栗 志穂	早稲田大学

順位	選手名	チーム名
1	三井 結里花	日本大学
2	宮田 沙衣	日本体育大学
3	名須川 紗綾	文教大学
4	栗真 千里	日本体育大学
5	竹内 梨夏	東海大学湘南校舎
6	鈴木 聖美	日本大学
7	張間 優	順天堂大学
8	大山 玲奈	早稲田大学

順位	選手名	チーム名
1	但野 安菜	国際武道大学
2	川崎 汐美	日本女子体育大学
3	藤野 智秋	東京女子体育大学
4	宮崎 早穂	日本体育大学
5	清宮 早紀	流通経済大学
6	菅波 芽衣	国土館大学
7	鈴木 恵美理	東京女子体育大学
8	松井 なつ美	杏林大学

順位	選手名	チーム名
1	山田 未来	日本体育大学
2	犬島 未歩	東京女子体育大学
3	渡邊 来美	日本体育大学
4	但野 安菜	国際武道大学
5	大場 沙奈	順天堂大学
6	瀬尾 晴香	大阪体育大学
7	嶺 知里	順天堂大学
8	櫻井 麻未	実践女子大学

男子

■ ボードリレー

順位	チーム名
1	日本大学
2	順天堂大学
3	法政大学
4	専修大学
5	国土館大学
6	東海大学湘南校舎
7	早稲田大学
8	国際武道大学

■ オーシャンマンリレー / オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	法政大学
3	東海大学湘南校舎
4	日本大学
5	早稲田大学
6	国土館大学
7	順天堂大学
8	日本体育大学

■ ボードレスキュー

順位	チーム名
1	早稲田大学
2	日本体育大学
3	順天堂大学
4	法政大学
5	日本大学
6	東海大学湘南校舎
7	神奈川大学
8	拓殖大学

■ レスキューチューブレスキュー

順位	チーム名
1	国際武道大学
2	拓殖大学
3	日本大学
4	早稲田大学
5	順天堂大学
6	日本体育大学
7	東海大学湘南校舎
8	玉川大学

■ ビーチリレー

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	法政大学
3	神奈川大学
4	順天堂大学
5	流通経済大学
6	早稲田大学
7	成城大学
8	

■ 1km x 3ビーチランリレー

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	法政大学
3	流通経済大学
4	国土館大学
5	国際武道大学
6	順天堂大学
7	東海大学湘南校舎
8	大阪体育大学

女子

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	成城大学
3	日本大学
4	日本女子体育大学
5	東海大学湘南校舎
6	順天堂大学
7	東京女子体育大学
8	法政大学

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	東海大学湘南校舎
3	日本大学
4	早稲田大学
5	日本女子体育大学
6	順天堂大学
7	成城大学
8	東京女子体育大学

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	東海大学湘南校舎
3	日本大学
4	早稲田大学
5	日本女子体育大学
6	流通経済大学
7	神奈川大学
8	成城大学

順位	チーム名
1	日本女子体育大学
2	早稲田大学
3	日本大学
4	東海大学湘南校舎
5	順天堂大学
6	拓殖大学
7	
8	

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	東京女子体育大学
3	国際武道大学
4	日本女子体育大学
5	日本大学
6	専修大学
7	大阪体育大学
8	杏林大学

順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本女子体育大学
3	東京女子体育大学
4	日本大学
5	専修大学
6	成城大学
7	順天堂大学
8	杏林大学

男子

■ CPRコンテスト(A評価/順不同)

チーム名
茨城大学
国際武道大学
筑波大学
新潟産業大学
日本体育大学
日本福祉大学

女子

チーム名
國學院大學
国際武道大学
実践女子大学
順天堂大学
中京大学
帝京大学
東海大学海洋学部
東京女子体育大学
東洋大学
日本体育大学
日本女子体育大学
日本福祉大学
文教大学
流通経済大学
早稲田大学

団体総合成績

男子

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	55
2	国際武道大学	50
3	早稲田大学	48
4	法政大学	47
5	日本大学	46
6	順天堂大学	41
7	東海大学湘南校舎	33
8	神奈川大学	33
9	流通経済大学	25
10	中京大学	19
11	拓殖大学	16
12	国土館大学	16
13	東海大学海洋学部	13
14	専修大学	10
15	成城大学	10
16	茨城大学	8
16	日本福祉大学	8
16	新潟産業大学	8
16	筑波大学	8
20	大阪体育大学	7
21	文教大学	5
21	成蹊大学	5
21	東洋大学	5
21	新潟工科大学	5
21	青山学院大学	5
21	帝京大学	5
21	杏林大学	5
21	関西学院大学	5
21	城西国際大学	5
30	玉川大学	3
31	國學院大學	2
31	広島国際大学	2
31	明治大学	2
31	中央大学	2

女子

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	91
2	日本大学	67
3	日本女子体育大学	58
4	東海大学湘南校舎	43
5	東京女子体育大学	39
6	順天堂大学	28
7	国際武道大学	27
8	早稲田大学	27
9	成城大学	23
10	文教大学	22
11	流通経済大学	15
12	専修大学	12
13	実践女子大学	9
14	国土館大学	8
14	筑波大学	8
16	中京大学	8
16	東海大学海洋学部	8
16	日本福祉大学	8
16	東洋大学	8
16	帝京大学	8
16	國學院大學	8
22	大阪体育大学	7
23	和洋女子大学	6
24	拓殖大学	5
25	杏林大学	5
26	茨城大学	5
26	成蹊大学	5
26	広島国際大学	5
26	金城学院大学	5
30	神奈川大学	4
31	法政大学	3
32	青山学院大学	2
32	玉川大学	2
32	中央大学	2

※同得点チームの順位は、各競技の上位入賞数の違いによる。

▶ 第38回 全日本ライフセービング選手権大会 参加数:59チーム1194名

【東日本地区予選会】開催日:2012年9月8日(土)~9日(日) 場所:御宿中央海岸(千葉県夷隅郡御宿町)

【西日本・中部地区予選会】開催日:2012年9月15日(土)~16日(日) 場所:内海海岸千鳥ヶ浜海水浴場(愛知県知多郡南知多町)

【本選会】開催日:2012年10月6日(土)~7日(日) 場所:片瀬西浜海水浴場(神奈川県藤沢市)

個人種目

男子

■ サーフレース

順位	選手名	チーム名
1	平井 康翔	湯河原LSC
2	益子 進一	九十九里LSC
3	菊地 光	九十九里LSC
4	中本 直也	拓殖大学LSC
5	清水 雅也	館山SLSC
6	鈴木 陵平	館山SLSC
7	黒木 健太	大阪体育大学LSC
8	平田 栄史	館山SLSC

■ サーフスキーレース

順位	選手名	チーム名
1	松沢 斉	下田LSC
2	落合 慶二	東京消防庁LSC
3	西山 俊	湯河原LSC
4	篠田 智哉	勝浦LSC
5	荒井 洋佑	西浜SLSC
6	出木谷 啓太	九十九里LSC
7	菊地 太	東京消防庁LSC
8	内田 直人	勝浦LSC

■ ボードレース

順位	選手名	チーム名
1	小林 海	西浜SLSC
2	青木 将展	湯河原LSC
3	坂本 類	波崎SLSC
4	土井 崇弘	勝浦LSC
5	森田 一輝	波崎SLSC
6	長竹 康介	西浜SLSC
7	田島 亮	湯河原LSC
8	深井 俊光	湯河原LSC

■ オーシャンマン

順位	選手名	チーム名
1	長竹 康介	西浜SLSC
2	西山 俊	湯河原LSC
3	落合 慶二	東京消防庁LSC
4	菊地 光	九十九里LSC
5	石川 直人	九十九里LSC
6	森田 一輝	波崎SLSC
7	菅沼 寛也	下田LSC
8	坂本 陸	和田浦LSC

■ ビーチフラッグス

順位	選手名	チーム名
1	竹澤 康輝	勝浦LSC
2	佐々木 啓允	相良SLSC
3	安達 和也	新島LSC
3	モーガン フォスター	South Brighton SLSC
4	植木 将人	西浜SLSC
5	小田切 伸矢	西浜SLSC
6	望月 龍之介	九十九里LSC
7	石橋 拓土	湘南ひらつかLSC
8	中山 樹一郎	勝浦LSC

オープン参加

女子

順位	選手名	チーム名
1	三井 結里花	九十九里LSC
2	坂本 佳凧子	西浜SLSC
3	毛利 邦	館山SLSC
4	栗真 千里	白浜LSC
5	越中 万智	九十九里LSC
6	河崎 綾子	湯河原LSC
7	木下 瑛理子	九十九里LSC
8	鈴木 聖美	九十九里LSC

順位	選手名	チーム名
1	篠 郁蘭	新島LSC
2	久保 美沙代	和田浦LSC
3	小松崎 あゆ	下田LSC
4	猪又 美佳	茅ヶ崎SLSC
5	星野 有美	用宗LSC
6	堀内 敦子	下田LSC
7	大島 由美	湯河原LSC
8	三木 玲奈	湯河原LSC

順位	選手名	チーム名
1	篠 郁蘭	新島LSC
2	勝俣 閑	西浜SLSC
3	宮田 沙依	飯岡LSC
4	河本 桂奈	下田LSC
5	竹内 梨香	湯河原LSC
6	原田 香菜	下田LSC
7	水間 菜登	勝浦LSC
8	名須川 紗綾	茅ヶ崎SLSC

順位	選手名	チーム名
1	三井 結里花	九十九里LSC
2	名須川 紗綾	茅ヶ崎SLSC
3	三木 玲奈	湯河原LSC
4	佐伯 芽維	白浜LSC
5	河崎 綾子	湯河原LSC
6	毛利 邦	館山SLSC
7	宮田 沙依	飯岡LSC
8	高橋 志穂	柏崎LSC

順位	選手名	チーム名
1	池谷 雅美	柏崎LSC
2	但野 安菜	勝浦LSC
3	宮崎 早穂	鴨川LSC
4	小坂 莉緒	和田浦LSC
5	金坂 佳瑛	新島LSC
6	松井 なつ美	今井浜SLSC
7	小室 亜希	スポーツブレックスLSC
8	岩井 奈穂	勝浦LSC

男子

■ ビーチスプリント

順位	選手名	チーム名
1	石井 雄大	白浜LSC
2	岡田 浩平	愛知LSC
3	岩井 寛文	鴨川LSC
4	小田切 伸矢	西浜SLSC
5	モーガン フォスター	South Brighton SLSC
5	植木 将人	西浜SLSC
6	本多 辰也	東京消防庁LSC
7	森 新太郎	飯岡LSC
8	松本 雄二郎	和田浦LSC

■ 2kmビーチラン

順位	選手名	チーム名
1	浅見 泰希	東京消防庁LSC
2	河上 尚輝	昭和第一学園高等学校LSC
3	新堀 進悟	土肥LSC
4	鈴木 友三朗	和田浦LSC
5	浅岡 紘季	大竹SLSC
6	橋本 憲治	式根島LSC
7	中川 慎太郎	西浜SLSC
8	土井 崇弘	勝浦LSC

女子

順位	選手名	チーム名
1	池谷 雅美	柏崎LSC
2	山田 未来	鴨川LSC
3	神戸 友美	西浜SLSC
4	渡辺 夏海	湘南ひらつかLSC
5	但野 安菜	勝浦LSC
6	犬島 未歩	土肥LSC
7	小形 梨沙	昭和第一学園高等学校LSC
8	渡嘉敷 萌	下田LSC

順位	選手名	チーム名
1	鈴木 さゆり	下田LSC
2	河本 桂奈	下田LSC
3	佐々木 聡美	西浜SLSC
4	渡邊 来美	飯岡LSC
5	山田 美月	岩井LSC
6	岡本 伊代	館山SLSC
7	廣江 史子	大阪体育大学LSC
8	小林 亜美	九十九里LSC

チーム種目

■ オーシャンマンリレー

順位	チーム名
1	西浜SLSC
2	湯河原LSC
3	波崎SLSC
4	九十九里LSC
5	館山SLSC
6	勝浦LSC
7	東京消防庁LSC
8	新島LSC

■ オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名
1	湯河原LSC
2	西浜SLSC
3	九十九里LSC
4	下田LSC
5	新島LSC
6	館山SLSC
7	白浜LSC
8	茅ヶ崎SLSC

■ レスキューチューブレスキュー(男女)

順位	チーム名
1	湯河原LSC
2	拓殖大学LSC
3	九十九里LSC
4	勝浦LSC
5	波崎SLSC
6	新島LSC
7	湘南ひらつかLSC

■ ボードレスキュー(男女)

順位	チーム名
1	九十九里LSC
2	湯河原LSC
3	波崎SLSC
4	西浜SLSC
5	下田LSC
6	館山SLSC
7	愛知LSC
8	勝浦LSC

■ ビーチリレー(男女)

順位	チーム名
1	勝浦LSC
2	飯岡LSC
3	下田LSC
4	西伊豆LSC
5	柏崎LSC
6	白浜LSC
7	大洗SLSC

チーム総合成績

順位	チーム名	得点
1	西浜SLSC	97
2	湯河原LSC	89
3	九十九里LSC	85
4	下田LSC	63
5	勝浦LSC	60
6	新島LSC	42
7	館山SLSC	38
8	波崎SLSC	37
9	東京消防庁LSC	33
10	白浜LSC	31
11	柏崎LSC	29
12	鴨川LSC	27
13	飯岡LSC	27
14	和田浦LSC	24
15	昭和第一学園高等学校LSC	17
15	愛知LSC	17
17	茅ヶ崎SLSC	16
18	拓殖大学LSC	14
19	岩井LSC	12
19	大竹SLSC	12
19	用宗LSC	12
22	土肥LSC	11
23	湘南ひらつかLSC	11
24	西伊豆LSC	10
25	大洗SLSC	10
26	相良LSC	9
27	今井浜LSC	8

順位	チーム名	得点
27	式根島LSC	8
29	熱川LSC	8
29	万座LGT	8
29	三浦海岸SLSC	8
29	若狭和田LSC	8
29	榛原LSC	8
29	沼津LSC	8
29	鹿嶋LGT	8
29	銚子LC	8
29	成城学園LSC	8
38	大阪体育大学LSC	6
39	鎌倉LG	5
39	二宮LSC	5
39	御浜LSC	5
39	三多摩LSC	5
39	神津島LSC	5
39	葉山LSC	5
39	横浜海の公園LSC	5
39	御宿LSC	5
39	新宮LSC	5
48	スポーツプレックスLSC	2
49	神戸LSC	2
49	パディ冒険団LSC	2
49	せんなん里海公園・淡輪LSC	2
49	山形LSC	2
49	十文字高等学校LSC	2

※同得点チームの順位は、各競技の上位入賞数の違いによる。

CPRコンテスト結果

チーム番号	チーム名	得点
1	愛知LSC	8
2	熱川LSC	8
5	岩井LSC	8
6	大洗SLSC	8
10	大竹SLSC	8
12	鹿嶋LGT	8
13	柏崎LSC	8
14	勝浦LSC	8
16	鴨川LSC	8
17	九十九里LSC	8
27	昭和第一学園高等学校LSC	8
28	白浜LSC	8
31	成城学園LSC	8

チーム番号	チーム名	得点
34	館山SLSC	8
36	銚子LC	8
40	新島LSC	8
42	西浜LSC	8
44	沼津LSC	8
45	榛原LSC	8
46	波崎SLSC	8
49	万座LGT	8
50	三浦海岸SLSC	8
52	用宗LSC	8
55	湯河原LSC	8
57	若狭和田LSC	8

(A評価のみ掲載／チーム番号順)

▶ 第4回 全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

開催日:2013年3月2日(土)・3日(日) 場所:静岡県富士水泳場(静岡県富士市) 参加数:34チーム547名

個人種目

男子

■ 200m障害物スイム

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	菊地 光	日本大学	2:03.24
大会新 2	石川 直人	神奈川大学	2:04.58
3	大出 旭	流通経済大学	2:07.85
4	金丸 大将	早稲田大学	2:09.36
5	佐口 太一	岐阜聖徳学園	2:10.10
6	鯨井 洸紀	日本大学	2:11.17
7	瀧川 隆史	東海大学湘南	2:13.88
8	合津 翔太	法政大学	2:14.07

■ 50mマネキンキャリー

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	加藤 凌	早稲田大学	33.48
大会新 2	坂本 陸	日本体育大学	33.79
大会新 3	園田 俊	流通経済大学	34.54
大会新 4	鈴木 健一	日本体育大学	34.82
5	高岡 洋介	国士舘大学	35.05
6	古泉俊二郎	東海大学湘南	35.06
7	松竹 賢太	日本体育大学	35.19
8	井上 祐介	東海大学湘南	35.21

■ 100mレスキューメドレー

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	石川 直人	神奈川大学	1:08.76
2	橋本 将吾	拓殖大学	1:09.41
3	園田 俊	流通経済大学	1:11.86
4	田家 友也	日本大学	1:12.00
5	高岡 洋介	国士舘大学	1:14.38
6	佐藤光太郎	東海大学湘南	1:14.42
7	古泉俊二郎	東海大学湘南	1:15.00
8	松竹 賢太	日本体育大学	1:16.11

■ 100mマネキントウ・ウィズフィン

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	中野 達矢	日本体育大学	59.82
2	中本 直也	拓殖大学	1:00.90
3	岡田 悟	日本大学	1:01.15
4	横川 翔太	流通経済大学	1:01.60
5	大谷翔一郎	流通経済大学	1:02.41
6	坂上 友弥	玉川大学	1:02.52
7	宇治川仁人	日本大学	1:02.60
8	宮腰 太輔	日本体育大学	1:02.87

■ 100mマネキンキャリー・ウィズフィン

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	菊地 光	日本大学	55.26
2	中野 達矢	日本体育大学	56.34
3	多田 創一	玉川大学	59.84
4	大谷翔一郎	流通経済大学	1:00.02
5	横川 翔太	流通経済大学	1:00.94
6	牧口 航平	新潟工科大学	1:01.74
7	柴田耀治郎	日本体育大学	1:03.82
8	片岡 潤吾	流通経済大学	1:04.18

女子

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	栗真 千里	日本体育大学	2:20.46
2	竹内 芽衣	早稲田大学	2:22.54
3	高柴 瑠衣	早稲田大学	2:23.60
4	木下瑛理子	日本大学	2:25.32
5	平野 夏実	東海大学湘南	2:25.75
6	鈴木 聖美	日本大学	2:26.38
7	内藤由里恵	日本大学	2:27.95
8	久々宇邑乃	専修大学	2:29.74

順位	選手名	チーム名	タイム
1	名須川紗綾	文教大学	40.74
2	鈴木 聖美	日本大学	41.75
3	中島 静香	東海大学湘南	41.80
4	本城 里華	日本体育大学	42.13
5	竹内 梨夏	東海大学湘南	42.22
6	清水 友紀	日本大学	43.19
7	小林 夏実	日本体育大学	43.73
8	國東 瑞紀	日本女子体育	44.34

順位	選手名	チーム名	タイム
大会新 1	栗真 千里	日本体育大学	1:25.11
2	清水 友紀	日本大学	1:28.18
3	仲 麻利	玉川大学	1:28.52
4	國東 瑞紀	日本女子体育	1:29.12
5	藤平 弘子	流通経済大学	1:29.91
6	三川 彩綾	日本体育大学	1:31.55
7	荒井 美結	法政大学	1:33.50
8	情野 望	日本女子体育	1:34.15

順位	選手名	チーム名	タイム
1	名須川紗綾	日本大学	1:07.15
2	渡邊 来美	日本体育大学	1:08.15
3	平野 夏実	玉川大学	1:10.17
4	木下瑛理子	流通経済大学	1:11.76
5	安藤 綾野	流通経済大学	1:14.04
6	神村 美咲	新潟工科大学	1:14.24
7	野崎 彩	日本体育大学	1:14.46
8	竹内 梨夏	流通経済大学	1:15.03

順位	選手名	チーム名	タイム
1	三井結里花	日本大学	1:05.15
2	小林 夏実	日本体育大学	1:06.38
3	大塚 彩加	東海大学湘南	1:08.41
4	神村 美咲	日本女子体育	1:09.52
5	我妻 瑞穂	東京女子体育	1:09.70
6	清宮 早紀	流通経済大学	1:13.15
7	渡邊 来美	日本体育大学	1:13.19
8	佐藤 亜耶	日本体育大学	1:13.28

男子

■ 200mスパーライフセーバー

順位	選手名	チーム名	タイム
1	坂本 陸	日本体育大学	2:22.64
2	中本 直也	拓殖大学	2:25.55
3	加藤 凌	早稲田大学	2:28.38
4	矢内 健斗	日本大学	2:30.86
5	岡田 悟	日本大学	2:35.73
6	大出 旭	流通経済大学	2:35.94
7	田家 友也	日本大学	2:36.34
8	瀧川 隆史	東海大学湘南	2:39.63

女子

順位	選手名	チーム名	タイム
1	三井結里花	日本大学	2:35.94
2	宮田 沙依	日本体育大学	2:44.98
3	大淵真理子	日本女子体育	2:52.73
4	山口 夏未	日本体育大学	2:53.30
5	江部愛里菜	日本体育大学	2:55.64
6	石井 奈美	日本体育大学	3:03.02
7	木伏 紅緒	早稲田大学	3:06.14
8	小出 絵未	東京女子体育	3:08.40

チーム

男子

■ 4×50m障害物リレー

順位	チーム名	タイム
1	日本大学	1:46.51
2	早稲田大学	1:49.53
3	日本体育大学	1:50.05
4	東海大学湘南	1:51.13
5	国土館大学	1:52.37
6	拓殖大学	1:52.93
7	流通経済大学	1:55.14
8	大阪体育大学	1:56.28

女子

順位	チーム名	タイム
1	日本大学	2:03.29
2	日本体育大学	2:04.17
3	東海大学湘南	2:06.83
4	早稲田大学	2:07.76
5	日本女子体育	2:08.06
6	東京女子体育	2:15.10
7	玉川大学	2:17.03
8	流通経済大学	2:22.64

■ 4×25mマネキンリレー

順位	チーム名	タイム
1	拓殖大学	1:20.84
2	東海大学湘南	1:21.61
3	流通経済大学	1:28.56
4	成蹊大学	1:47.53
5	新潟産業大学	1:49.80
6	玉川大学	1:52.92
7	明治大学	1:56.59

順位	チーム名	タイム
1	東海大学湘南	1:39.23
2	日本女子体育	1:46.41
3	早稲田大学	1:55.52
4	玉川大学	2:04.71
5	法政大学	2:21.42
6	順天堂大学	2:57.29

■ 4×50mメドレーリレー

順位	チーム名	タイム
1	日本大学	1:36.43
2	国土館大学	1:41.20
3	日本体育大学	1:43.46
4	大阪体育大学	1:43.82
5	東海大学湘南	1:46.09
6	東海大学清水	1:47.32
7	流通経済大学	1:49.64
8	法政大学	1:50.22

順位	チーム名	タイム
1	日本女子体育	1:54.97
2	日本体育大学	1:56.30
3	玉川大学	1:58.99
4	早稲田大学	2:02.80
5	国土館大学	2:04.04
6	順天堂大学	2:04.11
7	東京女子体育	2:04.35
8	大阪体育大学	2:05.87

■ ラインスロー

順位	チーム名	タイム
1	流通経済大学	12.10
2	専修大学	13.18
3	順天堂大学	13.45
4	法政大学	13.77
5	拓殖大学	14.09
6	帝京大学	14.85
7	東海大学清水	15.45
8	早稲田大学	16.13

順位	チーム名	タイム
1	流通経済大学	14.85
2	東京女子体育	17.58
3	東海大学清水	19.02
4	早稲田大学	20.82
5	順天堂大学	35.04
6	筑波大学	37.26
7	帝京大学	39.56

特別種目

男子

女子

■メドレーリレー

順位	チーム名	タイム
1	日本大学	1:38.10
2	流通経済大学	1:40.57
3	神奈川大学	1:40.59
4	日本体育大学	1:41.00
5	拓殖大学	1:41.41
6	早稲田大学	1:41.58
7	国土舘大学	1:43.23

順位	チーム名	タイム
1	日本体育大学	1:52.84
2	日本大学	1:54.45
3	東海大学湘南	1:56.63
4	日本女子体育	1:57.32
5	早稲田大学	1:57.93
6	東京女子体育	1:59.33
7	国土舘大学	2:01.56
8	玉川大学	2:02.55

チーム総合成績

男子

女子

順位	チーム名	得点
1	流通経済大学	77
2	日本大学	64
3	拓殖大学	59
4	日本体育大学	53
5	早稲田大学	41
6	東海大学湘南校舎	33
7	神奈川大学	27
8	国土舘大学	20

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	72
2	日本大学	70
3	東海大学湘南校舎	62
4	日本女子体育大学	52
5	早稲田大学	49
6	東京女子体育大学	31
7	流通経済大学	25
8	玉川大学	22

※同得点チームの順位は上位入賞種目数の違いによる

▶ 三洋物産 インターナショナル ライフセービング カップ 2012

開催日:2012年9月16日(日)~17日(祝・月)

場 所:内海海岸 千鳥ヶ浜海水浴場(愛知県知多郡南知多町)

参加国:5カ国6チーム(オーストラリア、カナダ、イギリス、アメリカ、日本代表、ユース日本代表)

女子

■ 03 Board Rescue(F) Day1

順位	Team
1	Australia
2	Great Britain
3	United States of America
4	Canada
5	Japan Youth
6	Japan

■ 05 Rescue Tube Rescue(F) Day1

順位	Team
1	Australia
2	United States of America
3	Japan
4	Great Britain
5	Canada
6	Japan Youth

■ 07 Beach Relay(F) Day1

順位	Team
1	Australia
2	Japan
3	Canada
4	Great Britain
5	United States of America
DQ	Japan Youth

■ 09 Beach Sprint(F)

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	304	Bree	Masters	ブリー マスターズ	AUS
2	409	Vanessa	BEAUDRY	ヴァネッサ ボードリー	CAN
3	112	Kozue	FUJIWARA	藤原 梢	JPN
4	608	Brianne	JACKOLSKI	ブライアン ジャコルスキー	USA
5	510	Jo	Devine	ジョー デビン	GBR
6	208	Rina	TONEGAWA	利根川 莉奈	JPN Youth

■ 11 Oceanwoman

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	305	Jordan	Mercer	ジョーダン マーサー	AUS
2	110	Yurika	MITSUMI	三井 結里花	JPN
3	509	Rhian	Thomas	リアントーマス	GBR
4	612	Jennifer	NOONAN	ジェニファー ノーマン	USA
5	407	Alexandra	FERGUSON	アレクサンドラ ファーガソン	CAN
6	211	Shiho	TAKAHASHI	高橋 志穂	JPN Youth

男子

■ 04 Board Rescue(M) Day1

順位	Team
1	Japan
2	Great Britain
3	United States of America
4	Canada
DQ	Japan Youth
DQ	Australia

■ 06 Rescue Tube Rescue(M) Day1

順位	Team
1	Australia
2	Japan
3	United States of America
4	Canada
5	Japan Youth
6	Great Britain

■ 08 Beach Relay(M) Day1

順位	Team
1	Australia
2	United States of America
3	Japan
4	Japan Youth
5	Canada
6	Great Britain

■ 10 Beach Sprint(M)

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	309	Jordan	Caldow	ジョーダン カルドー	AUS
2	402	Gaetan	NORMANDIN	ゲータン ノルマンディン	CAN
3	503	James	Edwards	ジェームズ エドワード	GBR
4	601	Brian	COSTELLO	ブライアン コステロ	USA
5	106	Masato	UEKI	植木 将人	JPN
6	205	Nozomi	SAKURAI	櫻井 希	JPN Youth

■ 12 Oceanman

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	310	Luke	Cuff	ルーク カフ	AUS
2	501	George	Haynes	ジョージ ハインズ	GBR
3	101	Kousuke	NAGATAKE	長竹 康介	JPN
4	604	Rob	PELKEY	ロブ ペルキー	USA
5	202	Riku	SAKAMOTO	坂本 陸	JPN Youth
6	401	Nelson	GIRALDO	ネルソン ギャラルド	CAN

■ 13 Board Race(F)

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	305	Jordan	Mercer	ジョーダン マーサー	AUS
2	301	Alicia	Bain	アリシア ベイン	AUS
3	610	Lindsay	KENNEY	リンゼイ ケニー	USA
4	507	Ellie	Parker	エリ パーカー	GBR
5	508	Mesha	Wardman	メーシャ ワードマン	GBR
6	407	Alexandra	FERGUSON	アレクサンドラ ファーガソン	CAN
7	612	Jennifer	NOONAN	ジェニファー ノーマン	USA
8	109	Mei	SAEKI	佐伯 芽維	JPN
9	412	Lisa	BARBIERI	リサ バービリー	CAN
10	111	Kanako	SAKAMOTO	坂本 佳凧子	JPN
11	210	Manami	TAKAHASHI	高橋 愛海	JPN Youth
12	211	Shiho	TAKAHASHI	高橋 志穂	JPN Youth

■ 14 Board Race(M)

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	308	William	Budd	ウィリアム ブッド	AUS
2	310	Luke	Cuff	ルーク カフ	AUS
3	201	Marino	KOBAYASHI	小林 海	JPN Youth
4	101	Kousuke	NAGATAKE	長竹 康介	JPN
5	605	Shane	SCOGGINS	シェーン スコッキングス	USA
6	603	Tom	O'NEILL	トム オニール	USA
7	501	George	Haynes	ジョージ ハイネス	GBR
8	102	Syun	NISHIYAMA	西山 俊	JPN
9	502	Matt	Hewitt	マット ヘウィット	GBR
10	401	Nelson	GIRALDO	ネルソン ギャラルド	CAN
11	405	Roman	SOROKA	ローマン サロカ	CAN
12	206	Tomoya	MORINO	森野 友也	JPN Youth

■ 15 Beach Relay(F) Day2

順位	Team
1	Australia
2	Canada
3	Great Britain
4	Japan
5	United States of America
6	Japan Youth

■ 16 Beach Relay(M) Day2

順位	Team
1	Great Britain
2	Canada
3	Australia
4	Japan
5	Japan Youth
DQ	United States of America

■ 17 Oceanwoman Relay

順位	Team
1	Australia
2	Great Britain
3	Japan
4	United States of America
5	Canada
6	Japan Youth

■ 18 Oceanman Relay

順位	Team
1	Australia
2	United States of America
3	Japan
4	Great Britain
5	Japan Youth
6	Canada

■ 19 Surf Team Race(F)

順位	Team
1	Australia
2	Japan
3	United States of America
4	Great Britain
5	Japan Youth
6	Canada

■ 20 Surf Team Race(M)

順位	Team
1	Australia
2	Japan
3	Great Britain
4	United States of America
5	Japan Youth
6	Canada

■ 21 Beach Flags(F)

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	304	Bree	Masters	ブリー マスターズ	AUS
2	306	Katie	Williams	ケイティ ウィリアムス	AUS
3	112	Kozue	FUJIWARA	藤原 梢	JPN
4	409	Vanessa	BEAUDRY	ヴァネッサ ボードリー	CAN
5	510	Jo	Devine	ジョー デビン	GBR
6	507	Ellie	Parker	エリ パーカー	GBR
7	608	Brianne	JACKOLSKI	ブライアン ジャコルスキー	USA
8	411	Catherine	FRECHETTE	キャサリン フレchette	CAN
9	610	Lindsay	KENNEY	リンゼイ ケニー	USA
10	108	Nami	MIZUMA	水間 菜登	JPN
11	208	Rina	TONEGAWA	利根川 莉奈	JPN Youth
12	207	Yurie	NAITO	内藤 由里恵	JPN Youth

■ 22 Beach Flags(M)

Place	Code	First Name	SIR NAME	Japanese	Team
1	311	Blake	Drysdale	ブレイク ドライスデール	AUS
2	601	Brian	COSTELLO	ブライアン コステロ	USA
3	106	Masato	UEKI	植木 将人	JPN
4	606	Garrett	THIBODEAU	ガーネット チボデュー	USA
5	309	Jordan	Caldow	ジョーダン カルドー	AUS
6	103	Ryouhei	SUZUKI	鈴木 陵平	JPN
7	504	Warren	Trestrail	ウォーレントレストレイル	GBR
8	503	James	Edwards	ジェームズ エドワード	GBR
9	402	Gaetan	NORMANDIN	ゲータン ノルマンディン	CAN
10	404	Hubert	COURTEAU-GODINAIRE	フバート コーテュー	CAN
11	206	Tomoya	MORINO	森野 友也	JPN Youth
12	205	Nozomi	SAKURAI	櫻井 希	JPN Youth

■ 23 Board Rescue(F) Day2

順位	Team
1	Australia
2	Great Britain
3	Japan
4	United States of America
5	Japan Youth
6	Canada

■ 24 Board Rescue(M) Day2

順位	Team
1	Australia
2	Japan
3	Great Britain
4	United States of America
5	Japan Youth
6	Canada

■ 25 Rescue Tube Rescue(F) Day2

順位	Team
1	Australia
2	United States of America
3	Great Britain
4	Japan
5	Canada
6	Japan Youth

■ 26 Rescue Tube Rescue(M) Day2

順位	Team
1	Japan
2	Australia
3	United States of America
4	Great Britain
5	Canada
DQ	Japan Youth

OVERALL COMPETITION RESULT

Place	Team	Point
1	Australia	401
2	Japan	321
3	Great Britain	306
4	United States of America	299
5	Canada	246
6	Japan Youth	173

▶ RESCUE 2012 オーストラリア

開催日:2012年11月7日(水)~11日(日)

場 所:オーストラリア・サウスオーストラリア州 アデレード
 プール会場: SOUTH AUSTRALIAN AQUATIC AND LEISURE CENTRE

オーシャン会場: GLENELG BEACH (グレネルグビーチ)

主催:国際ライフセービング連盟

【日本代表パートナー企業】メインスポンサー:株式会社三洋物産/株式会社三洋販売 メインサプライヤー:ミズノ株式会社

結 果

日本代表 総合10位/42 カ国 (海8位、プール12位、SERC 8位)

ユース日本代表 総合 4位/11 カ国 (海4位、プール5位、SERC 3位)

1	IIS国際会議		上野 真宏	理事/事務局長
2			石川 仁憲	理事/溺水事故防止PI本部長
3			深山 元良	IISスポーツ委員
4			相澤 千春	国際室長
5			西嶋 智美	国際室
6	選手団本部	団長	泉田 昌美	ISスポーツ推進副本部長/ 競技力強化委員長
7		本部員	川地 政夫	事務局事業部長
8			砂川 憲彦	コンディショニング科学委員
9			宮部 周作	国際室
10			山岸 重彦	記録(舵社)
11			堤 容子	世界大会審判員
12			外池 由美子	世界大会審判員
13	日本代表	監督	入谷 拓哉	副理事長/ ISスポーツ推進本部長
14		コーチ	青木 克浩	競技力強化委員
15			佐藤 文机子	競技力強化委員
16		選手	植木 将人	西浜
17			菊地 光	日本大学/九十九里
18			清水 雅也	館山
19			鈴木 陵平	館山
20			長竹 康介	西浜 ※主将

21			西山 俊	湯河原
22			佐伯 芽維	白浜
23			坂本 佳凧子	西浜
24			名須川 紗綾	文教大学/茅ヶ崎
25			水間 菜登	勝浦
26			三井 結里花	日本大学/九十九里
27			毛利 邦	館山
28	ユース日本代表	監督	飯沼 誠司	競技力強化委員長
29		コーチ	中尾 美樹	専任コーチ
30			小林 海	西浜 ※主将
31			坂本 陸	日本体育大学/和田浦
32			櫻井 希	西浜
33			菅 卓也	新宮
34			富澤 泰介	館山
35			森野 友也	パディ冒険団
36			高橋 愛海	西浜
37			高橋 志穂	柏崎
38			利根川 莉奈	成城学園
39			内藤 由里恵	日本大学/九十九里
40			速水 愛	柏崎
41			皆川 綾菜	西浜

国別総合結果

1位	New Zealand	846 Point
2位	Australia	766 Point
3位	France	566 Point
4位	Italy	503 Point
5位	Germany	448 Point
6位	South Africa	418 Point
7位	Netherlands	351 Point
8位	Canada	303 Point
9位	Spain	217 Point
10位	Japan	216 Point
11位	Great Britain	213 Point
11位	USA	213 Point
13位	Belgium	189 Point
14位	China	161 Point
15位	Egypt	89 Point

16位	Ireland	79 Point
17位	Denmark	76 Point
18位	Iran	74 Point
19位	Indonesia	57 Point
20位	Norway	55 Point
21位	Chinese-Taipei	46 Point
22位	Hong Kong	40 Point
23位	Switzerland	30 Point
24位	Hungary	29 Point
25位	India	18 Point
25位	Singapore	18 Point
27位	Sweden	16 Point
28位	Fiji	12 Point
29位	Sri Lanka	11 Point
30位	Czech-Republic	7 Point

31位	Argentina	5 Point
32位	Malaysia	2 Point
33位	Thailand	1 Point
34位	Brazil	0 Point
34位	Cameron	0 Point
34位	Kenya	0 Point
34位	Macedonia	0 Point
34位	Pakistan	0 Point
34位	Philippines	0 Point

SER・プール競技結果

SER		
長竹・植木・西山・三井	8位	10 Point
ラインスロー		
長竹・植木	予選敗退	
三井・佐伯	予選敗退	
4×50m障害物リレー		
菊地・西山・鈴木・清水	8位	10 Point
坂本・毛利・佐伯・水間	10位	7 Point
4×50mメドレーリレー		
鈴木・西山・菊地・清水	7位	11 Point
坂本・毛利・佐伯・水間	12位	5 Point
4×25mマネキンリレー		
菊地・西山・長竹・清水	8位	10 Point
毛利・水間・佐伯・三井	予選敗退	
100mレスキューメドレー		
鈴木 陵平	予選敗退	
清水 雅也	予選敗退	
三井 結里花	予選敗退	
毛利 邦	予選敗退	

50mマネキンキャリー		
毛利 邦	9位	8 Point
菊地 光	予選敗退	
清水 雅也	予選敗退	
三井 結里花	予選敗退	
200m障害物スイム		
菊地 光	12位	5 Point
清水 雅也	16位	1 Point
三井 結里花	予選敗退	
坂本 佳凧子	予選敗退	
100mマネキンキャリー・ウィズフィン		
西山 俊	13位	4 Point
鈴木 陵平	予選敗退	
水間 菜登	予選敗退	
毛利 邦	予選敗退	
100mマネキントウ・ウィズフィン		
西山 俊	14位	3 Point
鈴木 陵平	予選敗退	
坂本 佳凧子	予選敗退	
水間 菜登	予選敗退	
200mスーパーライフセーバー		
清水 雅也	予選敗退	
長竹 康介	予選敗退	
三井 結里花	予選敗退	
佐伯 芽維	予選敗退	

オーシャン競技結果

ビーチフラッグス		
植木 将人	4位	14 Point
名須川 紗綾	16位	1 Point
水間 菜登	準決勝	
鈴木 陵平	予選敗退	
ビーチスプリント		
植木 将人	14位	3 Point
鈴木 陵平	準決勝	
水間 菜登	準決勝	
ビーチリレー		
植木・菊地・西山・鈴木	11位	6 Point
水間・佐伯・毛利・名須川	11位	6 Point
ボードレスキュー		
菊地・長竹	7位	11 Point
坂本・佐伯	12位	5 Point
レスキューチューブレスキュー		
菊地・清水・鈴木・西山	6位	12 Point
三井・水間・名須川・毛利	12位	5 Point
オーシャンマンリレー		
菊地・長竹・西山・鈴木	7位	11 Point
三井・佐伯・毛利・水間	10位	7 Point

オーシャンマンレース		
三井 結里花	9位	8 Point
長竹 康介	12位	5 Point
西山 俊	13位	4 Point
毛利 邦	準決勝	
ボードレース		
長竹 康介	5位	13 Point
西山 俊	10位	7 Point
佐伯 芽維	準決勝	
坂本 佳凧子	準決勝	
サーフレース		
三井 結里花	9位	8 Point
菊地 光	10位	7 Point
清水 雅也	17位	0 Point
坂本 佳凧子	28位	0 Point
サーフスキーレース		
西山 俊	11位	6 Point
長竹 康介	14位	3 Point
名須川 紗綾	16位	1 Point
毛利 邦	予選敗退	

SER・プール競技結果【ユース】

SER		
小林・坂本・高橋・皆川	3位	16 Point
ラインスロー		
小林・坂本	2位	18 Point
高橋・皆川	5位	12 Point
4×50m障害物リレー		
富澤・菅・小林・坂本	4位	14 Point
内藤・皆川・速水・高橋	5位	15 Point
4×50mメドレーリレー		
富澤・菅・坂本・小林	3位	16 Point
内藤・速水・皆川・高橋	5位	12 Point
4×25mマネキンリレー		
坂本・菅・小林・富澤	2位	18 Point
内藤・皆川・高橋・高橋	5位	12 Point
100mレスキューメドレー		
菅 卓也	8位	9 Point
皆川 綾菜	B3	6 Point
櫻井 希	失格	
内藤由里恵	失格	
50mマネキンキャリー		
坂本 陸	6位	11 Point
内藤由里恵	7位	10 Point
菅 卓也	B2位	7 Point
高橋 志穂	B3位	6 Point

200m障害物スイム		
内藤由里恵	B1位	8 Point
富澤 泰介	B2位	7 Point
森野 友也	B4位	5 Point
高橋 志穂	B4位	5 Point
100mマネキンキャリー・ウィズフィン		
高橋 愛海	5位	12 Point
速水 愛	7位	10 Point
菅 卓也	B1位	8 Point
小林 海	棄権	
100mマネキントウ・ウィズフィン		
坂本 陸	6位	11 Point
小林 海	8位	9 Point
高橋 愛海	8位	9 Point
速水 愛	B4位	5 Point
200mスーパーライフセーバー		
皆川 綾菜	B2位	7 Point
坂本 陸	失格	
富澤 泰介	失格	
高橋 志穂	B失格	

オーシャン競技結果【ユース】

ビーチフラッグス		
利根川莉奈	2位	18 Point
内藤由里恵	B3位	6 Point
櫻井 希	B7位	2 Point
森野 友也	B8位	1 Point
ビーチスプリント		
櫻井 希	8位	9 Point
利根川莉奈	B1位	10 Point
内藤由里恵	B3位	6 Point
菅 卓也	B8位	1 Point
ビーチリレー		
小林・富澤・櫻井・坂本	3位	16 Point
利根川・内藤・高橋志・高橋愛	5位	12 Point
ボードレスキュー		
坂本・小林	1位	20 Point
皆川・高橋愛	3位	16 Point
レスキューチューブレスキュー		
菅・富澤・櫻井・森野	4位	14 Point
内藤・速水・高橋愛・利根川	5位	12 Point
オーシャンマンリレー		
富澤・坂本・小林・櫻井	4位	14 Point
皆川・高橋志・高橋愛・利根川	4位	14 Point

オーシャンマンレース		
坂本 陸	8位	9 Point
小林 海	9位	10 Point
オーシャンウーマンレース		
高橋 志穂	7位	8 Point
ボードレース		
小林 海	5位	12 Point
高橋 愛海	6位	11 Point
高橋 志穂	8位	9 Point
森野 友也	17位	0 Point
サーフレース		
内藤由里恵	10位	7 Point
坂本 陸	11位	6 Point
富澤 泰介	12位	5 Point
サーフスキーレース		
小林 海	7位	10 Point
坂本 陸	6位	11 Point
高橋 愛海	10位	7 Point

メディア一覧

▶ 新聞 (2012年度)

メディア	内容	掲載日
岩手日報	東北ジュニア大会	6月25日
赤旗	水辺の事故どう防ぐ	6月30日
神奈川新聞	人物紹介 (西浜SLSC石川修平警備長)	7月7日
埼玉新聞	自分の身は自分で守ろう	7月15日
神奈川新聞	人物紹介(遊佐雅美)	7月21日
神奈川新聞	湘南密着24時 西浜SLSC	8月17日
北陸中日新聞	内灘海水浴場(内灘LS協会)	8月19日
岩手日報	釜石ジュニアプール競技会	8月10日
岩手日報	釜石ジュニアプール競技会	8月12日
中日新聞知多版	日本代表表敬訪問	9月6日
中日新聞知多版	三洋カップ	9月18日
朝日新聞	全日本選手権 関連記事	10月7日
日本大学新聞	全日本選手権 三井結里花選手	11月20日
東京新聞	自叙伝紹介等(遊佐雅美)	3月4日



東京新聞 2013年3月4日版

▶ 雑誌／書籍 (2012年度)

メディア	内容	掲載日
anan	人物ピックアップ	2012年4月号
日豪プレス(QLD版)	全豪選手権日本代表選手	2012年5月号
はくもん(中央大学)	講義余閑(小峯理事長)	2012年春号 No226
スイミングライフ	学生プール選手権	6月号
HR	頑張っている高校生 (昭和第一学園高校)	15号(9月号)
広報 白浜	特集 ライフセーバー	2012年8月号
スイミングライフ	神奈川選手権	2012年8月号
スイミングライフ	全日本プール/種目別	2012年10月号
スイミングライフ	東北ジュニアプール大会	2012年12月号
スイミングライフ	全日本選手権	2013年3月号



岩手日報 2012年8月10日版



岩手日報 2012年8月12日版

▶ TV (2012年度)

メディア	内容	掲載日
NHK首都圏	全日本プール大会	5月20日
TBS 朝ズバ	三浦海岸LSC	7月1日予定
TBS Nスタ	三浦海岸LSC	7月1日予定
TV東京 WBS	三浦海岸LSC	7月1日予定
NHK おはよう日本	三浦海岸LSC	7月4日予定
NHK大阪	神戸LSC	8月2日
TV山口	山口LSC	7/26放映
日テレ スッキリ	三浦海岸LSC	8月2日
テレビ朝日「陽はまた昇る」	技術監修協力	8月11日
フジテレビ「その顔がみてみたい」	清水雅也 (拓殖大学)	8月12日
CM パナソニック	清水雅也 (拓殖大学)	トレインチャンネル
千葉テレビ	国際武道大学/インカレ	10月22日
出雲ケーブルテレビ	キララLSC	9月13日
岩手めんこいテレビ	盛岡LSCジュニア	12月8日
知多半島ケーブルネットワーク	学生選手権	9月25日
J:COM湘南プレミアム	西浜SLSC	7月11日
TBSニュースバード	「防げ、水の事故」 (上野事務局長対応)	7月18日
NHK・Eテレ	ティーンズプロジェクト・フレ☆フレ	8月3日
NHK・Eテレ	ティーンズプロジェクト・フレ☆フレ	9月28日
CBCテレビ	日本代表 内海小学校表敬訪問	9月4日
CCNC (南知多町ケーブル)	三洋カップ2012	9月19日

▶ ラジオ (2012年度)

メディア	内容	掲載日
ZIP-FM	三洋カップ 入谷監督	9月14日



中央大学新聞 2012年11月20日版



中日新聞知多版 2012年9月6日版



北陸中日新聞

パートナーシップ一覧

■ 日本財団

- ◇ライフセービング活動器材配備助成
- ◇ジュニア・ライフセービング活動支援助成

■ 独立行政法人日本スポーツ振興センター

- ◇ジュニア競技会(スポーツ振興くじ助成事業)

■ 第一三共株式会社

- ◇全日本選手権大会(特別協賛)
- ◇ジュニア教室支援(協賛)

■ 森永製菓株式会社

- ◇監視救助等活動支援(協賛)
- ◇ウイダー inゼリー全国提供(協力)
- ◇全日本選手権大会(協力)
- ◇ジュニア競技会(協力)

■ 株式会社三洋物産／株式会社三洋販売

- ◇インターナショナルライフセービングカップ(特別協賛)
- ◇日本代表国際大会派遣支援(協賛)
- ◇日本代表強化支援(協賛)
- ◇日本代表強化指定大会支援(協賛)

■ レールダグ メディカル ジャパン株式会社

- ◇全日本選手権大会(協賛)
- ◇心肺蘇生資格認定事業支援(協力)

■ 株式会社オッシュマンズ・ジャパン

- ◇全日本学生選手権大会(協賛)

■ 株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン

- ◇全日本選手権大会(協賛)

■ 株式会社櫻井興業GUARD事業部

- ◇全日本選手権大会(協賛)
- ◇全日本学生選手権大会(協賛)

■ 株式会社コラボレーション

- ◇全日本種目別選手権大会(協賛)
- ◇U15/U18ライフセービング競技会(協力)
- ◇ジュニア競技会(協力)

■ 株式会社ゴールドウイン

- ◇監視救助等活動支援(協力)

■ ミズノ株式会社

- ◇日本代表国際大会派遣支援(協力)
- ◇日本代表強化支援(協力)

■ 株式会社デサント

- ◇JLA ACADEMY支援(協力)

■ 日本製粉株式会社

- ◇ジュニア競技会(協力)

■ サントリー食品インターナショナル株式会社

- ◇インターナショナルライフセービングカップ(協力)

■ 明石被服興業株式会社

- ◇安全関連商品認定支援(協力)
- ◇ウォータースポーツプロジェクト支援(協力)

■ 株式会社ポピンズ

- ◇キッズライフセービングプログラム共同開発(協力)
- ◇全日本選手権大会(協力)

■ ジャパンワクチン株式会社

- ◇全日本選手権大会(協力)



明石被服興業株式会社



株式会社オッシュマンズ・ジャパン



株式会社コラボレーション



株式会社ゴールドウイン



株式会社櫻井興業 GUARD 事業部



サントリー食品インターナショナル株式会社



株式会社三洋物産

株式会社三洋販売

力をあわせて、未来を守る
ジャパンワクチン株式会社

ジャパンワクチン株式会社



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社



株式会社デサント



日本財団



独立行政法人

日本スポーツ振興センター



日本製粉

日本製粉株式会社



sense and simplicity

株式会社

フィリップスエレクトロニクスジャパン



株式会社ポピンズ



ミズノ株式会社



森永製菓株式会社



Laerdal

helping save lives

レーラダール メディカル ジャパン株式会社

※五十音順

■ 参考文献

日本ライフセービング協会(編)
「サーフライフセービング教本」大修館書店2013

日本ライフセービング協会(編)
「心肺蘇生教本」大修館書店2012

■ 発行

2013年5月31日発行
特定非営利活動法人日本ライフセービング協会
〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-18 トップスビル
TEL:03-3459-1445 FAX:03-3459-1446
<http://www.jla.gr.jp>